

## 11. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		旅行代理店（従業員）	・夏の観光繁忙期を迎えていることから、今後も国内客、外国人観光客の増加を期待できる。一方、国際線の運航において、サプライチェーンの人手不足などにより、航空燃料を確保できず、新規路線の就航やチャーター便の運航に支障が生じている事態が顕在化しているが、国を中心に対応策が検討されていることから、今後、状況が改善すると期待できる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・天候に恵まれたこと、大型客船の寄港が2回あったこと、周辺観光地を訪れている欧米客の来店が増えたこと、地元の主要イベントの日程が重なったことなどから、7月の景気はやや良かった。今後についても、アジアからの観光客の入込に期待できる。ただし、観光地以外ではシャッターが目立つようになるなど、今後に向けての懸念もある。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入ってから売上に力強さが戻っており、今後もこうした流れは続くことになる。
		スーパー（店長）	・現在の好調な動向が今後も続き、旅行需要や冬物衣料への積極的な支出につながると期待している。
		衣料品専門店（エリア担当）	・この夏の人流はコロナ禍前に匹敵するほどだった。今後は、旅行需要なども一段落し、支出が衣料品に向かうことが期待できる。
		自動車備品販売店（店長）	・報道がパリオリンピック中心となり、政治経済の話題が少なくなっている。物価高や円安などの言葉も余り出ていないことから、オリンピックで盛り上がっているイメージが消費にも影響するようになり、景気が上向くことになる。
		住関連専門店（役員）	・以前と比べると、買い控えの雰囲気緩和が和らいでいるため、これから消費が上向くことになる。
		高級レストラン（スタッフ）	・年度末になると、今と客層が変わってくるが、様々な対策を行うことで落ち込みがないように推移すると期待している。
		旅行代理店（従業員）	・電話やメールでの問合せ件数が、前月から好調に推移しているため、今後の景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・夏を迎えて、道外客の入込が増えており、今後も好調に推移するとみられる。コロナ禍前の水準に回復するまでは、もう少し時間を要するとみられるが、今後、景気はやや良くなると期待している。
		観光名所（従業員）	・外国人観光客の入込も、当施設の利用者も、これまでの勢いに陰りはみられない。また、アニメの聖地巡礼も秋までは続くとみられる。これらのことから、今後の景気はやや良くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・秋頃にツアーが増加するという情報があるため、今後の景気はやや良くなる。実際に予約数も伸びている。
		商店街（代表者）	・物価高が続くなか、実質賃金が上昇して可処分所得が増えない限り、消費は上向かない。
		商店街（代表者）	・不景気感が漂うなか、大きなイベントや大会なども予定されていないため、観光客の増加は期待できない。そのため、中心部に足を運ぶ客は、近隣住民以外はほとんどいないと考えられる。また、中心部のイベントとして行われている歩行者天国も終了している時期であることから、日曜の来街者も少なくなる。これらのことから、今後も景気は厳しいまま変わらない。
		商店街（代表者）	・秋の観光シーズンまで北海道は好調なまま推移する。外国人観光客も、決して数が多いわけではないが、順調に推移している。ただし、ホテルの宿泊費が高く、繁忙期を過ぎても価格が低下せず、今後に向けて心配な面もある。
	百貨店（売場主任）	・当面、現状のトレンドを左右するような大きな要因は見当たらないため、今後も景気は変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売促進担当）	・一時期に比べれば、円安が落ち着きつつあるものの、外国人観光客の入込に影響を及ぼすほどではないため、今後しばらくは外国人観光客の消費は拡大することになる。一方、国内客については、物価高の影響で購買意欲が低下しており、こうした状況はしばらく続くことになる。これらのことから、全体的な景気は今後も余り変わらないまま推移する。
		スーパー（店長）	・秋口以降も大きな値上げが予定されているため、今後も現状と変わらないまま推移する。
		スーパー（企画担当）	・円安による原材料価格の高騰は一段落するとみられるが、輸送費や人件費などのコスト転嫁が始まっていることから、仕入価格は依然として高止まりすると見込まれる。そのため、今後の景気は現状のままで推移する。
		スーパー（役員）	・米の値上がりは1年以上続くことが見込まれる。米の価格が客に与える影響は大きいと、今後も節約志向が続くとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・今後も客がより値頃感のある商品を買求める傾向が続くとみられる。酒やたばこなどの嗜好品は売上の減少が続くとみられるが、食品への支出は抑えられるものではないため、景気は今後も変わらないまま推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・夏場は気温の高い日が続くことで、店舗の来客数、売上が増加する傾向があり、7月は売上が比較的好調に推移している。8月も同様に好調に推移するとみられるが、9月以降は、春先のような悪い流れに戻ってしまうことが懸念される。
		乗用車販売店（経営者）	・大手自動車メーカーの不正問題が解決しない限り、今後も景気は変わらない。裾野の広い自動車業界における経済的ダメージは大きい。
		乗用車販売店（従業員）	・例年、夏場は需要の落ち込む時期であるため、これから若干上向くことになる。サービス部門についても、リコールの影響が落ち着くことで、盛り返してくることになる。そのため、全体的な景気は多少良くなる。ただし、大幅に上向くことまでは考えにくい。
		乗用車販売店（従業員）	・イベントを開催すると、前年よりも多くの客が来場するが、販売にはなかなかつながらない。先行きを見通せない状況にあることで、購入を決断できない客も多いことから、今後も景気は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・今後について、受注量が大きく増えるような新型車の発表もないため、景気は変わらないまま推移する。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・例年であれば、季節商材の切り替わりに伴って、需要に盛り上がりが見られるようになるが、これまでの動きをみると、今後に余り期待は持てない。
		高級レストラン（スタッフ）	・先行きについては、見通しにくい。世の中の環境が変化していることは理解しているが、物価高や電気料金の上昇に伴って、地元客の外食意欲がじわじわと落ち込んでいるなか、最低賃金の大幅な引上げが示されたことから、中小規模の飲食店にとって厳しい環境となることが見込まれる。
		高級レストラン（スタッフ）	・観光シーズンに入り、来客数及び販売量のピークを迎えている。秋の紅葉シーズンまでは好調な状況が続くとみられるため、今後の景気について、大きな変動はないとみられる。
		スナック（経営者）	・今後について、余り期待を持てないため、景気は変わらない。
		観光型ホテル（経営者）	・インバウンドは、グランドハンドリングの人材不足と航空燃料不足により、国際線の増便が見通せず、道内空港への誘致ができない状況にあり、集客が大きく減少している。そのため、秋までの集客状況は、現状と大きく変わらないとみられる。
		旅行代理店（従業員）	・現状、物価高や人手不足、オーバーツーリズムなど、余りプラスになるような材料がない。景気回復の兆しがみられないことから、今後も景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・法人の団体旅行については、今後も悪い状態が続くとみられる。海外旅行については、円安、物価高、燃油高による需要の落ち込みがみられており、国内旅行については、経費を削減する傾向があり、社員旅行などを控える状況が見込まれる。また、インバウンドが増加している一方で、国内の旅行会社はその利益を享受できていないこともマイナスである。
		タクシー運転手	・気温が高くなると、タクシーの利用が増える傾向がある。今年も前年並みに暑い日が続くそうなので、タクシー1台当たりの売上は前年並みとなることが見込まれる。乗務員が増えて、タクシーの稼働台数が増えていることもあって、会社の売上は前年よりも増えると期待している。
		タクシー運転手	・今後については、夏のイベント開催といったプラス要因もあるものの、予約状況が目立って上向いている様子はないため、現状維持が続くとみられる。
		タクシー運転手	・今後も気温の高い日が続くと見込まれるため、今後については、余り期待できない。
		通信会社（企画担当）	・毎年秋に発売される話題の通信端末に対する期待は大きいものの、円安の影響で通信端末の価格が大きく上昇しており、買い控えも発生していることから、当面は現状と同様の状況が続くことになる。
		美容室（経営者）	・今後について、何か大きな変動要因がない限り、消費者が出費を控える傾向が継続するとみられる。特に年金生活者においては、そうした傾向が顕著に表れている。
		住宅販売会社（経営者）	・観光産業は景気がとても良いようであるが、消費や住宅建築までその効果が波及してこない状況にある。木材や建材の価格が高騰していることもあって、今後も住宅建築は進まないとみられる。
		住宅販売会社（従業員）	・建築コストの高騰はしばらく続くことが見込まれるため、今後も厳しいまま変わらない。長期金利の動向により、住宅ローン金利が上がる懸念があることもマイナスである。
		商店街（代表者）	・景気が少しでも上向くような要因があれば良いが、客の様子から、そうした要因はうかがえないため、今後の景気はやや悪くなる。
		一般小売店（経営者）	・為替などに急な変動があると、全体が混乱し、商売にも大きな影響が生じることになる。今後についても、そうした懸念があることから、景気はやや悪くなる。
		スーパー（店長）	・物価高の割に、賃金がそれほど上がっている雰囲気がないため、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（企画担当）	・円安による物価高がなかなか収まらず、給与の手取り額も目に見えて増えていない状況にあるため、お盆明け以降、消費が一気に冷え込むことが見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・夏の暑さでエアコンの使用が増え、電気料金の負担が増えることに加えて、夏休みで金を使う機会も増えることから、今後、客の節約意識が高まることになる。
		コンビニ（エリア担当）	・水産庁の発表によると、今年もサンマの来遊量が低水準となる見込みのため、景気はやや悪くなる。
		家電量販店（経営者）	・好調をけん引していたエアコンの需要が落ち着くとみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
		家電量販店（店員）	・エアコン特需が終わり、白物家電の動きも悪い。今後については、暖房機器の販売で多少はプラスとなるが、エアコンほど売れるものではないため、景気はやや悪くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・物価高の影響で個人消費が停滞しているため、今後の景気はやや悪くなる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・当店にとって、景気は余り良くない状況にある。唯一の希望であった調剤部門も、異業種からの参入、電子化の進展などにより、零細企業を取り巻く環境が厳しくなっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・夏以降の宿泊予約の伸びが今一つであるため、今後の景気はやや悪くなる。
		美容室（経営者）	・最低賃金の引上げが見込まれることから、今後、インフレ化がますます進むことになり、厳しい経営環境となることが見込まれる。
	x	スーパー（店長）	・値上げの動きは11月頃まで落ち着かないとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	スーパー（店長）	・今後については、冬を控えて、灯油などの暖房費に消費が向かうようになるため、客の購買動向は落ち込むことになる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・円安に歯止めをかけるため、現在の金融緩和政策を大きく転換するような対策が行われない限り、今後の景気は悪くなる。
	×	衣料品専門店（店長）	・例年であれば、先物への問合せが増えてくる時期であるが、今年は問合せがほとんどみられないため、今後の景気は悪くなる。衣替えのシーズンまでに状況が改善してくれると良いが、質の高いスーツにこだわる客は世界情勢や為替に敏感なことが多いため、余り期待できない。
	×	タクシー運転手	・北海道も本州と変わらない猛暑となってきている。北海道の住民は猛暑になると、活動を控える傾向があるため、今後の景気は悪くなる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・物価の上昇率と比べて、所得の増加率が低いことから、客の購買力が落ちている。一部の富裕層を除くと、客は現在の生活を維持することに金を振り向けており、住宅の買換えなどは手控えられている。こうした傾向は、今後ますます強まるとみられることから、景気は悪くなる。
企業 動向 関連  (北海道)		農林水産業（経営者）	・9月以降、青果物の収穫最盛期を迎えるため、今後の景気は良くなる。
		食料品製造業（従業員）	・卸売業者に対して、状況に応じた取引条件を提示するようにした。それにより、販売量が伸びてきていることから、今後の景気はやや良くなる。
		家具製造業（経営者）	・ボーナスが増えることで、個人消費が上向くことを期待している。
		通信業（営業担当）	・観光客などの人流が増えていることで、関連産業では景況感の改善が続いている。これまでにない規模の企業進出による効果も今後ますます拡大するとみられることから、先々の景況感は上向くことになる。
		金融業（従業員）	・エネルギー価格の高騰に対する国の支援や金融政策の修正により、今後、物価の上昇が緩やかになり、実質賃金がプラスに転換することが見込まれる。それに伴って、消費者マインドの改善が期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
		司法書士	・現在の受注量や同業者の様子から、古い相続の掘り起こしを含めた相続登記や派生する業務の受注が引き続き期待できる。また、企業の不動産取引、新築案件の受注も引き続き期待できる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・今後も国内の建設投資が堅調に推移することが見込まれる。
		金属製品製造業（従業員）	・今後、新築戸建て住宅の着工が増加するような兆しは全くみえないことから、景気は変わらないまま推移する。
		建設業（経営者）	・手持ち工事量は、今後もほぼ横ばいで推移するとみられる。一方、秋になって徐々に人手不足が顕在化することが懸念される。また、農業基盤整備などの土木工事では天候が進捗に大きく影響することになるため、積雪寒冷期までにどれだけ工事が進捗するかが課題となってくる。
		建設業（従業員）	・案件の減少に加えて、施工者不足による工事費の上昇が加速することが懸念される。ただし、実際に影響が出てくるのは半年以上先とみられるため、今後も景気は変わらない。
		建設業（役員）	・上半期は順調に推移する見通しであることに変わりはない。今後は、年度後半に向けて、収益性の高い工事案件の受注活動に注力していくことになる。
		輸送業（支店長）	・国内移送貨物について、夏場需要で見込みどおりの動きとなっており、今後も貨物量は維持できるとみられる。ただし、大型スポット案件などの引き合いが今一つなことから、貨物量が更に増えることまでは考えにくい。
		広告代理店（従業員）	・現状、景気が良いわけではないものの、底打ち感があるため、今後も景気は変わらないまま推移する。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・人手を増やすことができないため、今後も景気は変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・一部の客先では、設備投資や設備の入替えに伴う需要が生じているが、全体的な仕事量は減っている。今後、客先からの需要は2極化していくとみられる。
		食料品製造業（従業員）	・値上げの影響で、小売店での売上が落ち込んでおり、小売店が販売を取りやめる動きが出てきている。そのため、受注量が更に減る見込みである。
		司法書士	・円安の影響で物価の上昇が続いており、国による対策も効果がそれほどみられない。物価の上昇は今後も続くため、景気はやや悪くなる。
	x	-	-
雇用 関連  (北海道)		人材派遣会社（社員）	・企業における求人ニーズは引き続き高く、業績拡大への意欲が伝わってくることから、今後の景気はやや良くなる。ただし、登録者の転職に対するモチベーションに一貫性が感じられないことから、企業とのマッチングが進まない懸念がある。今後の景気回復に向けての不安材料である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・前年の第3四半期から求人募集が減少し始めたため、そろそろ底を打つとみられる。そのため、景気はやや良くなる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・全体的に求職者の年齢層が高まっている。特に農作業に付随する収穫や選別作業は、応募者の平均年齢が60歳前後まで上昇するなど、ミドルからシニアにシフトしている。現場での人材不足が景気回復に向けての妨げとなっており、今後も現状維持が続くことになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・最低賃金について、時給で50円アップとする大幅改定が報道された。現状より景気が良くなる要素が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・当地における有効求人数は15か月連続で前年を下回っている。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることも懸念される。
		職業安定所（職員）	・新規求職申込件数、新規求人数ともに、減少している。一方、企業からは、業績が堅調であり、人員も確保できていることから、当面募集予定はないという声が多く聞かれるなど、求人数の減少が景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。
		学校〔大学〕（就職担当）	・今後の採用状況について、急激な変化が出てくるとは考えにくい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・若干円高の動きもみられているが、海外との商取引を行っていない企業にとって、現在の円相場水準は、物価高や資源価格高騰などによるマイナスの影響が大きくなっている。今後も、地場中小企業にとって厳しい状況が続くとみられる。
		職業安定所（職員）	・管内の新規求職件数は6か月ぶりに前年を下回り、新規求人数は2か月ぶりに前年を下回った。このため、今後の景気はやや悪くなる。
	x	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (東北)		コンビニ（エリア担当）	・梅雨明けが例年より遅いため、客の来店回数が減っている。その反動で8月以降に購買意欲が高まるとみている。
		タクシー運転手	・来月以降、コンサートや夏祭りの開催が多く予定されている。それに伴ってタクシーの利用客が多くなり、客単価も増加するとみている。
		商店街（代表者）	・大型商業施設の新規オープンのイベント等により商店街は盛況となる見込みである。
		商店街（代表者）	・夏祭り、お盆、紅葉シーズンが続くため、景気が上向くとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・8月以降、祭りやイベントなどが数多く開催される。悪天候にならなければ、夜の繁華街に人が流れてくるのが期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・業種的に暑い時期に販売量が増える傾向にある。客の購買意欲は低下していないため、このまま暑さが続けば、売上が更に伸びるとみている。
		百貨店(催事担当)	・ファッション、化粧品の新規店舗オープンを秋に控えており、既存の顧客層に加えて若年層の来客数が増加し、売上も増加するとみている。
		コンビニ(経営者)	・長期予報によると好天が続く暑いとのことなので、ドリンクやアイス等の売上が好調な状況は今後も続くともみている。
		衣料品専門店(経営者)	・秋冬商材は単価が高いため、売上増加が見込める。
		衣料品専門店(店長)	・海外旅行や国内旅行、会社の行事などが秋以降に再開するという話を客から聞くので、服を購入する機会が増えるともみている。
		乗用車販売店(従業員)	・メーカーから配車量を増やすとの案内がきており、多少は期待できる。
		乗用車販売店(従業員)	・決算時期を迎えるためやや良くなる。
		住関連専門店(経営者)	・受注生産をしており、2～3か月後に生産する受注量が確定しており、今月よりはやや良くなるとみている。
		都市型ホテル(支配人)	・秋の行楽シーズンの先行取り込みが好調である。
		都市型ホテル(スタッフ)	・東北地域は紅葉が見頃の良い季節になるため、インバウンドが多くなるとみている。
		通信会社(経営者)	・放送サービスは、加入者の高齢化で解約者数が少しずつ増えているが、新規加入者数がそれを上回るため、急激な純減にはならないとみている。通信サービスは、自宅での動画配信サービス利用者が増えているため、新規加入者数の増加が見込まれる。
		通信会社(営業担当)	・円高基調がみられるため、コスト増加が緩和される可能性がある。
		競艇場(職員)	・物価高騰の影響で客単価を上げるのは厳しいが、イベントを実施するため、新規客を増やし売上増加につなげる。
		その他サービス〔自動車整備業〕(経営者)	・原材料価格や人件費上昇分の売価への転嫁は順調で、石油製品の単価や円安も落ち着いてきたため、懸念材料はない。
		商店街(代表者)	・消費者の買い控えが続くとみている。
		一般小売店〔酒〕(経営者)	・暑くなり過ぎるのも問題だが、9月頃まで暑さが続き、景気も継続して上向くことを期待している。
		一般小売店〔寝具〕(経営者)	・相変わらず世の中の動向が見通せない。
		一般小売店〔雑貨〕(経営者)	・梅雨明け以降の気温にもよるが、酷暑が続くと年配の客は外に出ることを控えるため来客数は伸び悩む。早めの夏物セールを実施し少しでも来客数を伸ばしたい。
		百貨店(企画担当)	・来客数の減少傾向は継続するとみている。客単価の上昇に向けて施策を強化していく。
		百貨店(従業員)	・物価高が続いているなか、消費者の生活防衛意識は変わらない。消費マインドが高まるとは考えにくい。
		スーパー(経営者)	・円安や株高の恩恵を受けているのは、資産を持っている一部の人のみである。また、夏のボーナスが良いという話は大手企業だけで、地方の中小企業からは聞こえてこない。定額減税の効果は限定的であり、財布のひもは依然固い。また、厳しい暑さや新型コロナウイルスの感染拡大の不安など、消費マインドはマイナスとなる。消費の低迷は続くともみている。
		スーパー(店長)	・客の行動が大きく変わることはないともみている。
		スーパー(店長)	・景気を左右する要素が見当たらないため、現状維持とみている。
		スーパー(店長)	・来客数、買上点数共に改善する見込みがない。
		スーパー(店長)	・お盆など季節要因はあるものの、帰省は前年から再開しており、好転する材料としては弱い。
		スーパー(企画担当)	・物価の上昇による客の買い控えは続いており、回復の兆しが見えない。
		スーパー(企画担当)	・客の購買行動の変化に期待する以外ない。また、客の多くが1次産業に従事しているため、大雨や高温障害などで収益に影響が出た場合は景気が好転することはない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（営業担当）	・8月はお盆と夏休みで一時的に来客数は増えるが、その後は元に戻るとみている。
		スーパー（商品担当）	・食費の節約志向は変わらず、現状とほぼ同じ状態が続くとみている。
		コンビニ（経営者）	・ここ1～2年、少しずつ悪くなっている。客の動きも良くなる気配がない。2～3か月先も悪いまま横ばいが続くとみている。
		コンビニ（経営者）	・この先どうなるかは天候次第である。
		コンビニ（経営者）	・この先景気が改善に転じる要素は見当たらない。賃上げに期待したい。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数は残暑次第で多少変動する可能性はあるが、売上が前年を上回ることはないともみている。
		コンビニ（エリア担当）	・徐々に値上げの影響が出ている。消費者は小売店を使い分けており、価格の安い店舗やセール実施店を買い回っている。ガソリン価格の上昇も著しく、景気が上向き要素が全く見当たらない。
		コンビニ（店長）	・客は節約志向になっている。
		衣料品専門店（経営者）	・円安で海外生産の商品が軒並み値上がり傾向にあり、今後の販売価格の設定に苦慮している。
		衣料品専門店（経営者）	・今後も価格を意識する客が増えるともみている。
		衣料品専門店（店長）	・物価高、為替が落ち着くと消費は上向きが、パリオリンピックが終わりそれに支えられた消費がなくなるとプラスマイナスゼロとなり、状況は変わらないともみている。
		衣料品専門店（店長）	・物価上昇の影響が大きく、服飾品の買い控えが多くなっている。
		衣料品専門店（総務担当）	・客の購買意欲が低下している状態が続いている。ベースアップ、所得増といわれているが、地方は賃上げ自体が厳しい状況であり、景気が回復する兆しはみられない。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の納期がそれほど掛からないにもかかわらず個人客の販売量が増えない状況は、変わらないともみている。
		乗用車販売店（従業員）	・納期遅れが頻繁に発生するようになっている。新型車の発表がありその受注次第だが、売上が大きく変わることはないともみている。
		乗用車販売店（店長）	・新車部門は出荷停止の影響で引き続き厳しい収益状況が予想される。新車の出荷停止が長引けば中古車の在庫不足も発生してくるため、予断を許さない状況が続く。
		住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・景気は変わらないともみている。
		その他専門店 [ 白衣・ユニフォーム ]（経営者）	・他の地域ではファン付きの空調服などが売れていると聞くが当地域ではほとんど動いていない。暑さが長引くと売れるものがなくなるのではないかと心配になる。
		その他専門店 [ 靴 ]（従業員）	・新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の増加が心配である。また、生活必需品の値上げが止まらないため、財布のひもが固くなることも予想される。
		その他専門店 [ ガソリンスタンド ]（営業担当）	・配達灯油の販売数量が前年より減少している。他油種でのリカバリーも難しく、現状維持で変わらないともみている。
		高級レストラン（支配人）	・受注状況から判断して、現状と変わらないともみている。
		一般レストラン（経営者）	・これ以上悪くなると経営が不可能になる。賃金の上昇に期待している。
		一般レストラン（経営者）	・同業者からも予約件数が前年と比べて少ないという話を聞く。今月と変わらないか、やや悪くなるとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・定額減税などの効果は期待が薄い。物価高を何とかしないと変わらない。
		観光型旅館（経営者）	・物価高などマイナス要因が多く、定額減税の効果もみられない。大きな変化はないともみている。
		観光型旅館（スタッフ）	・良くなる要素が見当たらない。秋のシーズンは団体旅行客が増えるものの、単価は個人客より低い。ただし、インハウンドの拡大次第では良くなる可能性はある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・今年の宿泊需要は酷暑を避け、本来8月に動く需要が気温の落ち着く10月以降に移っている。特に東北は訪問者の年齢層が高いこともあり、リスク回避のための旅行時期変更が発生しているとみている。
		旅行代理店（従業員）	・県内の当社契約施設の3か月先の販売予測状況は現状と余り変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注は落ち着いてきており、海外旅行の問合せや申込みも伸びていない。最近の傾向として実際の申込みが多くなっているが、先行マーケットの動きとしては、悪化はしていないものの良くなっているとまではいえない。
		通信会社（営業担当）	・大きく好転する材料に乏しいため、余り良くない状況が続くとみている。
		通信会社（社会貢献担当）	・夏季休暇で来客数はそのまま増加が続き、売上も好調をキープする。しかし、売上が大きく伸びることはないともみている。
		テーマパーク（職員）	・個人客が多かった繁忙期が過ぎ、団体客にシフトする。団体客の人数の減少と単価の低下は続くとみている。
		遊園地（経営者）	・円安や物価上昇が家計に及ぼす影響を考慮すると、消費活動が鈍化するとみている。
		美容室（経営者）	・日用品や食料品の物価の上昇ペースが激しく、消費者は支出を抑え気味である。
		美容室（経営者）	・客から物価高で厳しいという話を聞く。この先が良くなるとは言いにくい。
		その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により医療費の負担が増して家計を圧迫している。また、猛暑や洪水で農作物に影響が出ていることなどもあり、先行きに不透明感がある。
		設計事務所（経営者）	・業種の特性上、短期間では状況が変化しにくいいため、現状維持とみている。
		住宅販売会社（経営者）	・戸建て住宅の受注は良くないが、大型の構造物件受注で帳尻を合わせている。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器は省エネ型給湯器の補助金活用に関する問合せは増えるが、暑さの影響で給湯器、コンロの問合せは減るとみている。リフォームは補助金活用する工事の問合せが増えるとみている。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	・変動要因が少ないため、現状が続くとみている。
		商店街（代表者）	・仕入価格の高騰と人件費の増加で、商店街は危機的な状況になりかねない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・光熱費、食品などの生活必需品の値上がりもあり、自らも不要不急の出費は極力避けようと考えている。今後消費者の購買意欲が高まることは想像できない。
		百貨店（経営者）	・世界経済の不透明感が増して株価が変動し始めると、現在の消費をけん引している富裕層の消費意欲に影響を及ぼす。全体的な消費マインドも一時的に低下するとみている。
		スーパー（店長）	・お盆で金を使うことに加え、電気料金の高騰、物価の上昇で節約志向が強まり、客が買物を控えることを心配している。
		コンビニ（経営者）	・今月は雨具を求める振り客の来店が増加したことにより、前年並みの売上を維持しているが、一過性であり今後の期待はできない。全体的には客単価、購入点数共にやや減少傾向にあり、前月から前年割れとなっている。明るい材料は見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・最低賃金が50円引き上げられると、経営がますます厳しくなると予想している。
		コンビニ（店長）	・今までと同じ販売方法では良くなることはない。日々対策を考えている。
		家電量販店（従業員）	・新築需要は減少傾向にあり、売上が伸びる商品も見当たらない。先行きが不安である。
		家電量販店（従業員）	・パリオリンピック需要や夏のエアコンセールが終了すると、景気を後押しするイベントや新製品の入替えなどがない時期となる。暖房機器が必要となる時期までは買い控えをする客が増えるため、やや悪くなることが予想される。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・商品単価が上がり続ければ景況への影響が出てくる。新たな悪化要素が出てくれば、一気に悪くなることもあり得る。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・燃料油価格激変緩和補助金の適用はあるが、販売価格は高値で推移し続けることが予想されることから、現状からの回復は見込めない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・以前は高価なブランドウナギの需要があった土用の丑の日も、低価格商品が人気となり節約志向の高まりがみられる。この先年末までを見通しても節約志向が続く懸念がある。
		一般レストラン（スタッフ）	・来客数が減少している。良い兆しがみえない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・先行予約の数が例年より少ない。
		旅行代理店（従業員）	・物価高の影響による消費控え、人手不足による販売量の低下が懸念される。
		タクシー運転手	・気候的に涼しくなり、祭りなど大きなイベントも少ないため、タクシー利用者は少なくなるとみている。
	×	商店街（代表者）	・予約状況は改善されず、今後も悪化するとみている。
	×	スーパー（経営者）	・物価高に所得が追い付いていないため、ますます客の節約志向が高まっていく。
	×	コンビニ（経営者）	・売上は変わらないまま経費は上がり続ける。最低賃金も上がるとますます厳しい状況になる。
	×	一般レストラン（経営者）	・観光客に特化した昼営業の店は来客数が期待できても単価の低い単品メニューが中心となる。夜営業の店はアルコールやサブメニューが多く出たため売上が期待できる。秋の観光シーズンに観光客の増加がない限り景気は悪くなる。観光客次第だが、当面は資金に余裕のある少数の個人客しか来ないとみている。
×	観光名所（職員）	・月末に発生した水害により、当地までの交通網が寸断されている。8月から会社は営業を再開するが、客の入込は読めない。また、報道等による風評被害も気になるところである。コロナ禍や震災の頃と同じような景気に戻るとみている。	
企業 動向 関連  (東北)		農林水産業（従業者）	・残暑が続くと桃の需要も続くともみている。ただし、桃の収穫の前倒しによる供給不足が懸念される。
		食料品製造業（製造担当）	・イベントや帰省等による集客で売上は見込めるが、スタッフの確保が課題である。新型コロナウイルス感染症が再び流行し出したことが懸念材料である。
		金属製品製造業（経営者）	・良くなるという話を聞くようになった。それが本当になることを期待している。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・DRAM製造の顧客各社から開発の前倒しが発信されており、需要が伸びるとみている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・一部事業の動きが好転するとの情報があり、受注量、売上共に上向くと見込んでいる。
		建設業（従業員）	・今後も大口工事の受注予定があり、売上は堅調に推移する見込みである。
		通信業（営業担当）	・自治体などの今年度補正予算の各種補助金を利用したい所からの引き合いが見込める。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・秋の観光シーズンに入り、外食と土産向けの需要が伸びるとみている。
		食料品製造業（営業担当）	・販売不振に加え、人手不足と原材料価格の高騰を何とかしのいでいる状況なので、景気に変化はないとみている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・DX等による効率化が進んでおらず、人海戦術に頼る作業がまだまだ多い。人員過剰は否めず、若手社員の業界離れから、人員構成上も高齢化が顕著である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・受注量は増えているものの、大手の客先から今後の計画などの情報がないため、見通しが立たない状況である。同業他社に聞いても良い話はない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・見込み情報や見積案件数から、多少回復の兆しがみえる。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・契約が長期にわたるため、状況はしばらく変わらないとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		建設業（従業員）	・好転する材料も見当たらないため、変わらない。	
		建設業（従業員）	・関係する取引先ほぼ全てが限界に近い状況でやりくりしていることから、3か月先も良い状況ではあるものの現状維持とみている。	
		輸送業（経営者）	・機械装置製造業の取引先の輸出相手国は中国が多い。中国経済が落ち込んでいるため、仕事の延期やキャンセルの可能性があり、計画どおり進まず不安定な状況が続いている。売上金額が大きいため、キャンセルになれば影響は大きい。	
		通信業（営業担当）	・新規契約が難しい状況が続くとみている。顧客に寄り添う姿勢で対応していく。	
		通信業（営業担当）	・市場として大きく変わる業界ではない。	
		金融業（広報担当）	・当県の経済においては、為替や株価に大きな変動がなければ現状維持が続くとみている。ただし、気候変動の影響による1次産業の生産動向には留意が必要である。	
		広告業協会（役員）	・人材不足による採用関連や、旅行・宿泊などの観光業界の広告出稿は順調に推移するが、エネルギー、小売・流通関連は伸び悩むとみている。広告業界の飛躍は当分望めない。	
		広告代理店（経営者）	・広告の売上は世の中の景気の動きに遅れて反映される。また、現状では下期に向けて新規案件の獲得が進んでいない。景気は余り変わらないとみている。	
		経営コンサルタント	・農産物、特に果樹の不作の影響を懸念している。	
		司法書士	・大きな変化もなく推移するとみている。	
		公認会計士	・製造業の部品不足等が解消し売上を計上できるようになると景気は好転するが、現時点では見通しが立たないため、全体としての景気は現状維持が妥当とみている。	
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・買上点数が減少傾向にあるため、景気が上向くことは期待できないとみている流通・小売関係者が多い。	
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・客先等の動向からも、しばらくは良くなる材料は見当たらない。極端に悪くなることもなく、現状維持が続くとみている。	
		建設業（従業員）	・一定の受注は見込めるものの大型の受注がないため、景気は悪化する見通しである。	
		輸送業（営業担当）	・月末に東北の一部地域を襲った大雨が、今後東北地域の景気に大きな影響が及ぼすとみている。	
		コピーサービス業（従業員）	・新型コロナウイルス感染症に関する融資の返済が始まり倒産が増えている。	
		×	農林水産業（従業者）	・耕作面積の拡大に伴い、設備を更新する必要に迫られているが、米穀の乾燥調整設備の価格が高騰しており、設備投資したくてもできない状況にある。
		×	窯業・土石製品製造業（職員）	・公共事業、民間事業共に受注量が減少しており、厳しい状況は続く。
雇用 関連  (東北)		-	-	
		職業安定所（職員）	・夏休み、夏祭り、お盆と人流の活性化が続くことから、サービス消費を中心に当面消費の回復が続くとみている。	
		民間職業紹介機関（職員）	・企業から人材が欲しいとの問合せが増えている。	
		人材派遣会社（経営者）	・景気が悪くなるような要素が特にないため、良い状態が続くとみている。ただし、採用が計画どおり進まず、出店計画の遅れや店舗の営業時間短縮等の対応を取らざるを得ない状況になれば、少し景気が悪くなる可能性がある。	
		人材派遣会社（社員）	・採用要件を落としてまで採用するような切迫した募集は一旦落ち着いている。	
		人材派遣会社（社員）	・業績が好調に推移している企業もあるが、製造業などを中心に求人への動きは鈍く、先を見通せない状況が続いている。原材料価格の高騰によりビジネスモデルの変更を余儀なくされるケースもあり、特に中小企業にとっては予断を許さない状況が続いている。	
		アウトソーシング企業（経営者）	・客との価格調整で値上げができて、人件費が増加するため、利益を確保するのはなかなか厳しい。	
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	・台湾の半導体工場の当県進出には期待しているものの、2～3か月後に影響が表れる話ではない。ほかには景気にプラスの影響を及ぼしそうな材料は見当たらない。	
		新聞社〔求人広告〕（経営者）	・夏祭り後の景気動向は不透明である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・明るい材料に乏しく、現状維持がしばらく続くともみている。
		職業安定所(職員)	・人手不足により求人活動は活発だが、物価高による企業収益の悪化を訴える声も多い。この状況は継続するとみている。
		人材派遣会社(社員)	・求職者数が前年比マイナス傾向であることに加え、求人数も前年割れが続いている。同業他社の話を聞いても同様である。前年とのかい離幅が広がりつつあることから、若干悪化傾向へ進むと予想している。
		職業安定所(職員)	・新規求人数の勢いに陰りがみえる。
		職業安定所(職員)	・今後も企業の工場閉鎖等の予定がある。
		学校〔専門学校〕	・米大統領選挙は我が国の経済活動にも影響を与えるが、この先3か月では影響は少ないとみている。
	x	職業安定所(職員)	・物価高騰に改善がみられないことと、最低賃金が50円アップすることによる人件費等の問題が発生するとみている。

### 3. 北関東(地域別調査機関:株式会社日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、\* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)		観光型ホテル(経営者)	・秋の紅葉までの観光シーズンは、客の動きが良くなると予想している。しかし、新型コロナウイルス感染症関連の旅行支援等やアフターコロナの旅行需要が一気に高まった反動で、国内客の旅行疲れがみえてきている。しっかりとした地域施策を講ずることができないと、新型コロナウイルス感染症発生前の来客数を下回るかもしれない。
		旅行代理店(経営者)	・旅行業はこれから繁忙期を迎える上に、販売単価が上昇しているため期待できる。
		スーパー(総務担当)	・最低賃金改定で現在より50円引上げの想定だが、実現すれば当県は時給1000円を超える。これは景気上昇につながる。
		コンビニ(エリア担当)	・7月はインバウンドの影響は少なくなっている一方、イベントや祭り等で来客数は増えていると実感している。8月以降もこの状況は続く予測である。
		コンビニ(エリア担当)	・長期予報で、しばらくは気温の高い見込みが出ており、飲料や雑貨等、暑さ対策の商材の販売数伸長が見込まれる。
		家電量販店(店員)	・残暑が厳しければ、季節商材が伸びると予想する。
		その他飲食〔ファーストフード〕(経営者)	・求人を出しても人員がそろわず、深刻な人手不足だったが、隙間時間のアルバイトサービス等の利用で、臨時休業していた店が開けられるようになっている。2~3か月後には気温も少し落ち着いてくるだろうし、世の中の飲食業全体で少し単価が高くなっているが、値上げをしても客が新しい価格になじんでくるといふか、その辺りの雰囲気も緩和されてくるのではないかとみている。
		都市型ホテル(支配人)	・宿泊部門はイベントが多数あるため、高稼働である。宴会部門も新たな顧客の開拓やこの数年開催がなかった会合等に復活の兆しがある。
		旅行代理店(所長)	・当地では、世界遺産登録25周年と国立公園指定90周年のダブルの周年に当たる。今後は様々なイベントや企画が計画されており、秋の行楽シーズンに向けて、人の動きが活発になることが期待できる。
		通信会社(総務担当)	・例年9月に最も人気の高い商品のモデルチェンジがあるため、前年ほどではないにしても一定の販売が見込まれる。
		競輪場(職員)	・前年度と比較して、今年度の売上が増加傾向にある。
		設計事務所(所長)	・理由が特に見つからないが、希望を含めて良くなるのではないかとみている。
		商店街(代表者)	・小中学校の統廃合が進み、遠足や修学旅行の記念写真撮影枚数に影響が出始めている。
		一般小売店〔精肉〕(経営者)	・秋口までに海外の戦争等が良い方向に向かえば、販売価格を上げられ、物価上昇が落ち着けば、幾らか良い方向になるかという希望を持っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・国内外の旅行者全体が夏休みモードのため、親子連れが多くみられる。コロナ禍の旅行自粛モードも払拭され、友人等に土産を配るようになってきたようで、1人当たりの購買数も増えつつある。この状況はゴールデンウィークよりも進んでいるが、物価高による買い控えもあるため、相殺されて景気は変わらない。
		一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・動きが大分鈍いので、変わらない。
		百貨店(営業担当)	・定額減税や電気、ガス料金の補助金等は、消費が低迷している中間層を刺激するほどの効果はない。当面、景況の改善は期待できない。
		百貨店(店長)	・売上は前年同月比ほぼ100%で推移しているものの、上昇傾向にはないため、変わらない。
		百貨店(店長)	・社会的な不確定要素が多すぎて判断が難しい。ただし、基調としては若干良くなる傾向もあり、プラスマイナスで変わらない。
		衣料品専門店(販売担当)	・今月より悪くなるということは、完全に店が機能しない状況なので、今月と変わらないを選択した。今年の夏はそのままかなりの高温で推移し、長い夏になるという予報のため、本当に明日が見えない状況が続くのかと、凍り付いてしまいそうな気持ちで一杯である。
		自動車備品販売店(経営者)	・年金やその他制度の負担が大きくなるため、自分の将来や老後等の生計が不安で、お金を使うことに抵抗を持っている高齢者等が多く、簡単には良くなる傾向にはならない。良くも悪くもならない。
		住関連専門店(店長)	・値上げが当たり前のようになってきていて、状況が変化する兆候はみられない。
		住関連専門店(仕入担当)	・8月も7月と同様の天候が予測されているが、夏休みを利用したレジャーへの意欲は高い。ただし、逆にそれが生活用品への購買を抑える要素にもなり、厳しさは当面変わらない。
		その他専門店(総務担当)	・先の見積物件が少ない。
		一般レストラン〔居酒屋〕(経営者)	・各種感染症や猛暑、悪天候等が続くと、計画的な予定を組みづらく、好転を見込みにくい。
		一般レストラン〔居酒屋〕(経営者)	・最近の新型コロナウイルス感染症関連の報道が気になるが、影響がなければ動きは変わらないと予測する。
		一般レストラン(経営者)	・ここ1年ほどは、特に良くなったり悪くなったりの変動が少ない。この状態がしばらく続く。
		旅行代理店(従業員)	・国内旅行は需要が増え続ける一方で、円安で海外旅行は厳しい。
		旅行代理店(営業担当)	・今後も物価高の影響は続く見通しで、レジャー産業はまず生活が安定してからという動向になるため、しばらくは横ばいの状況とみている。
		タクシー(経営者)	・全体的に動きが良くない。この先も変わらない。
		通信会社(社員)	・現時点では変わらないと考えている。
		通信会社(営業担当)	・世界情勢、温暖化、物価高のマイナス要因が改善する見込みがないため、実質賃金が縮小し景気回復は期待できない。
		ゴルフ場(従業員)	・先の予約状況は前年同日より現状ではプラスになっているが、9月も暑さが続く予報が出ているため、安心はできない。
		美容室(経営者)	・連日の猛暑で、季節商材のUVファンデーション、スキンローションの売上が伸びてきている。
		その他サービス〔自動車整備業〕(経営者)	・景気浮上の兆しが見当たらない。
		住宅販売会社(経営者)	・物価高騰が継続している間は状況は変わらない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕(営業)	・地方は中小企業が多く、賃金と物価がアンバランスになっている。先を見越した規模の大きいリノベーションや改築案件は、まだ先になるとみている。
		百貨店(営業担当)	・様々な面で値上げや価格上昇がみられるため、来店客の購買もシビアになっている。
		スーパー(商品部担当)	・良くなる理由が見つからない。イベントや企画等を実施しても効果は一時的で、厳しい数値で推移している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ(店長)	・7月は猛暑続きで、飲料を求める客の来店がかなりあったが、気温が落ち着けば、元に戻る。
		家電量販店(営業担当)	・残暑により夏物商材は前年並みの確保予想である。しかし、毎回オリンピック閉会後の消費は悪いこともあり、各地で大雨等による災害が発生しているため、そちらも心配している。
		乗用車販売店(経営者)	・飲食店は、新型コロナウイルス感染拡大第11波の影響等で、夜の営業は寂しい様子である。休日等の大規模小売店では来客数は伸びてはいるものの、本部が他県にあるため、地域への経済効果は薄い。
		乗用車販売店(従業員)	・受注が減少傾向で、受注残が積み上がらない状況である。
		その他飲食[給食・レストラン](総務)	・為替レートに動きが出ているものの、価格面へ反映されるには時間が掛かる。その一方で、最低賃金が過去最大の上げ幅になることが決定された。当社の給食事業を含む労働集約型の産業にとっては、人材難と併せて、先行き厳しい状況になる。
		都市型ホテル(経営者)	・新型コロナウイルス感染拡大第11波が、ホテルのレストラン、大人数の宴会予約等の減少に影響を与えている実感がある。
		都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊売上は80%を超える高稼働率を背景に、安売りや単価を下げることはなく、売手に有利な状況が続いている。一方、宴会利用に関しては新型コロナウイルス感染症の再拡大の報道が多く見受けられるようになり、実際に1件当たりの人数も減ってきている。まだ予約自体のキャンセルはないが、予断を許さない状況で不安材料となっている。
		タクシー運転手	・地方では景気の良くなるような話はなく、現状維持が大変である。
		通信会社(局長)	・円安は多少改善されるかもしれないが、10月に再び一部商品の値上げが行われるとの報道発表もあったため、やや悪くなるのではないかと。
		テーマパーク(職員)	・前年以上の猛暑により、外出を控える動きがみられるとともに、屋外施設は敬遠される環境になっている。
		ゴルフ練習場(経営者)	・食料品等の値上がり止まらない。
	x	一般小売店[家電](経営者)	・客の懐事情はかなり悪くなっている。夏で暑いためにエアコン等は出ているが、やはり生活が苦しいために、安いタイプの商品を求める客が増えている。一般の生活を考えると、なぜこれほど増税するのか理解できない。今後悪くなるのは目に見えている。
	x	一般レストラン(経営者)	・良くなる材料がない。外食の頻度が新型コロナウイルス感染症発生前より減っていると何人もの客から聞いている。
	x	通信会社(経営者)	・地方の人口減と高齢化は進む一方で、そもそもこの先、景気が良くなることあるのか、甚だ疑問ではある。客の多くが高齢者であるため、なかなか売価を上げることが難しく、仕入れや販売経費の高騰が大きな負担となっている。加えて最低賃金も大幅に上がり、中小企業は大打撃ではないだろうか。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-
		一般機械器具製造業(経営者)	・ロボット関連の在庫調整が終了し、徐々にではあるものの、仕事が戻ってくる見込みである。
		一般機械器具製造業(経営者)	・景気が良くなってほしいという願望と期待を込めての回答である。
		金融業(営業担当)	・各経営者は、環境の変化が早い状況に、過去とは違って意識改革をしつつ、事業再生を図っている。
		経営コンサルタント	・夏休みの消費支出の実績を引きずると考えられるが、足元の需要は出遅れ感があり、多少なりとも上向くと期待できる。また、今年後半に向けて企業の生産活動も、これまでの調整分を取り戻すとみられる。
		司法書士	・どんどん仕事が増えていくというわけではないものの、やはり登記の義務化が大きな流れとなり、順調に、やや忙しいくらいのところまで進んでいくとみている。
		化学工業(管理担当)	・当社製品の用途が限定されているため、新規利用方法が開拓されない限り、需要増加は見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・大きな変動はないものの、危機的猛暑の日が続いているため、製造現場の猛暑対策に苦慮している。	
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・ここ1～2か月はまずまずといったところだったが、今後2～3か月先は、落ちるか上がるか、全く不透明である。	
		その他製造業 [ 消防用品 ]（営業担当）	・物価高の状況等も、まだまだ続いている。	
		輸送業（営業担当）	・8月もお盆までには夏物家電、省エネエアコンや扇風機、レジャー、バーベキュー用品等、前年並みの物量を確保予定である。しかし、2024年のドライバーの労働時間規制問題もあり、輸送量確保が難しく、協力会社等のコスト高もあるため、厳しさは続きそうである。	
		社会保険労務士	・ボーナスも中小企業ではほとんど増えないため、現状が続く。	
		その他サービス業 [ 情報サービス ]（経営者）	・商談や受注状況等に、特段の変化はみられない。	
		金属製品製造業（経営者）	・受注量の減少により、やや悪くなる。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注の内示等をみても、上がる要素は何もなく、少し厳しい。これから先も景気が上向くことはないとみている。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・中国経済の不動産不況や米国大統領選挙の結果によっては、貿易摩擦が考えられる。	
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先の生産が計画よりも減産になることがあり、その月になってみないと分からない状態が続いている。いまだに先が見えない。	
		建設業（総務担当）	・工事が足りないので、先行きが大変不安である。	
		不動産業（管理担当）	・事務所テナントで、部署再編により賃貸面積が3分の1になってしまっているところがある。また、空室にも多少内見の予定はあるものの、地方都市から出ていく企業が増えているため、賃貸面で厳しい状況が続く。	
		x	建設業（開発担当）	・今期の公共工事発注額は前年比6%減少、前々年比22%減少と厳しい。当社の今期受注額も11%減少で、厳しい決算になる。
	雇用 関連  (北関東)		-	-
		学校 [ 専門学校 ]（副校長）	・物価上昇が顕著であり、景気後退の懸念はあるものの、今後は賃金上昇による経済効果が見込まれる。	
		人材派遣会社（経営者）	・食料品関係で、生鮮食料品や魚介類の在庫を持てるスーパーや大型小売店等は、非常に人手を要するが、機械化や若干上がった時給の上げ幅が気になるところで、人の動きもそれに左右されている。依然として、住宅関連等の建築に伴う作業人員は活発さがあり、外国人労働者も増えている。ガソリン価格が安定していないことも若干厳しい。	
		人材派遣会社（社員）	・現状、相変わらず人手不足で、仕事の依頼はあるものの、対応できないので、当社でも断っている状況である。売上は下がっているが、利益はある程度縮小しながらも確保できている。周りの企業については、顧客であるホテルなどの稼働率は依然高いようで、夏休みに向けて、前年より大分客が戻ってきている。	
		人材派遣会社（社員）	・求人数は例年同様だが、求職者の動きが鈍い。人気のある完全在宅勤務の求人数が少ない。	
		人材派遣会社（管理担当）	・取引先から依頼される派遣の仕事が減少している。少しでもコストを抑えるため、パートタイムの直接雇用が増加傾向にあり、派遣切りが発生している。	
		職業安定所（職員）	・主要産業の新規求人数の前年同月比について、医療福祉、サービス業については増減を繰り返しているが、建設業、製造業は減少が続いている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (南関東)		一般小売店〔生花〕 (店員)	・7月のお盆と比べると、9月のお彼岸は全国的な行事なので、客が多い。7月の東京盆は東京の方だけなので、仏花の需要に差が出る。毎年のことだが、9月のお彼岸は1週間と長いので、売れるときに売らなくてはという気持ちである。天候に左右されるため、実際どうなるかは分からないが、7月よりは9月の方が売上が良くなる（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	・すごい勢いで種まきをしている。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月先は今月よりは涼しくなって客入りも良くなり、ケータリングも増えて、売上が増加する。現時点でも9月、10月のケータリング予約がかなり入っているため、今月よりも良くなる。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・価格転嫁交渉が着実に進捗していることに加え、新規獲得、パーティー需要の復活等が進んでいることから、好況が確実に予測される（東京都）。
		タクシー運転手	・これから8月に向けて更に暑くなれば、利用客も多くなるため安心である。9月に入り、夏休みにお金を使った後に乗ってもらえるかが心配だが、前年を振り返ると9月はまだ暑いいため、多少は動くともみている（東京都）。
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・この暑さのせいだとみられるが、今年は業務用エアコンがよく売れている。
		一般小売店〔米穀〕 (経営者)	・2～3か月先は気温も安定し、人が外で活発に行動する（東京都）。
		一般小売店〔文房具〕 (経営者)	・これだけ酷暑が続くと景気にも影響が出てしまう。ただし、夏から秋に向けて近隣で行われているイベントが新型コロナウイルス感染症発生前の開催方法に戻っているため、来街者数や当店の来客数が大きく落ち込むことはなく、景気はやや上向きになる（東京都）。
		一般小売店〔傘〕（店長）	・秋口まで猛暑が続けば日傘、台風が来れば雨傘の需要が継続しそうである。
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・店頭販売は客単価が上がっていることもあり、順調に伸びている。外商は、競合に敗れて大きな案件が流れてしまったが、まだほかに大きな案件が幾つかあるため、多少は良くなるのではないかと。
		百貨店（総務担当）	・店舗の改装が終わり、大型店舗がオープンし、来客数の大幅な増加が見込める。館内の買い回り促進を含めて売上拡大も期待できる。
		百貨店（財務担当）	・インバウンドが落ち込まないことを前提に、賃金上昇に伴う国内客の消費マインドの改善が景気を押し上げると想定している（東京都）。
		スーパー（総務担当）	・最低賃金が上がりそうである。
		コンビニ（エリア担当）	・円相場が戻りつつある。
		コンビニ（商品開発担当）	・好天が続く予報とともにパリオリンピックが始まり、自宅用の買物需要が増えてくることが見込まれる（東京都）。
		家電量販店（店長）	・訪日外国人旅行者数の勢いが収まる理由はないため、今後もインバウンド需要が伸びると見込んでいる（東京都）。
		家電量販店（経営企画担当）	・賃上げ、定額減税の効果が物価上昇を上回り、景気に対するプラス効果を維持、継続できるか注目している（東京都）。
	乗用車販売店（経営者）	・新型車の発表があり、販売量の増加が見込まれる。	
	その他専門店〔雑貨〕 (営業担当)	・円安傾向は今後もしばらく続くとみられ、外国人の土産購入を中心に売上は微増していく（東京都）。	
	高級レストラン（役員）	・物価の傾向や米国を始めとする世界情勢など、景況は引き続き厳しいとみられるが、2～3か月先の秋口は、オケーション等のイベントの機会が増える時期になり、売上や案件数などにやや期待できる（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・やや良い状態のまま進んでいくような気配がある（東京都）。
		その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・売上は伸びているものの、原料費の高騰、円安の影響で利益が出ないのが現状である。円相場だけでも120円台くらいになってくれるとかなり違ってくる（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・微増だが団体客が多いことから良化するとみている。
		タクシー運転手	・昼間の利用は非常に良く、午前中は病院の送迎がほとんどで、仕事のつながりが良い。会社、駅の利用も良く、夜7時頃まで仕事の流れている。暑い日がまだまだ続くので、涼しいタクシーを利用するだろう。相変わらず深夜の利用は少ない。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響がなくなってくる。人々が活動的になる（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・米国大統領選挙の行方次第のため、先行きは不透明である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・販売マーケットの拡大、商品の刷新を行っている。将来的には従来とは異なる成長フェーズに入る（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・暑さが落ち着き、旅行熱も一段落すると予想している。
		ゴルフ場（経営者）	・気温が下がり、ちょうど良い気候になれば来場者数は増えてくるものと推測されるが、物価の上昇、人件費の高騰により経営的に苦しい状況であることには変わりがない。
		ゴルフ場（経理担当）	・3か月後はトップシーズンでもあり、天候によるマイナス要因は限定的とみられるが、素材、エネルギー価格の高止まりや業務要員不足の長期化などの構造的問題は、解決の見通しが立たず、固定費の回収に苦慮する環境は変わらず、価格転嫁も容易ではなく、利益を創出できるような状況ではない。今後も人件費の増加に加え、物価上昇圧力が続くものとみており、景気改善の足かせとなることは不可避である。
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（従業員）	・秋頃からの予約問合せが入り始めている。前年同期にはなかったことである（東京都）。
		設計事務所（経営者）	・長らく提案し続けてきた案件ができるのであれば、景気が良くなる方向に行く可能性がある。
		住宅販売会社（経営者）	・国内ホテルの宿泊料金が月に2%程度上昇しつつあり、ホテル業界は良くなる。しかし、中小企業はまだ厳しい環境のなかにあり、賃上げができない。政府には中小企業への景気対策をお願いしたい。
		住宅販売会社（従業員）	・株高、賃金上昇の影響により、徐々にだが景気が良くなっていくのではないかと。
		商店街（代表者）	・最近、35度以上の猛暑日が毎日のように続いていることで、人出にかなり影響が出ており、商売の方でも思うような数字が取れていない。天候がもう少し落ち着いてくれば、また商売も頑張らなければと考えるが、なかなか今はそのような状況ではない。
		商店街（代表者）	・徐々に新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきている。今年の猛暑がどのくらい続くかにもよるが、若干マイナス要素がある。それがなければ、今のリベンジ景気はしばらく良い状態をキープしそうである（東京都）。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・これから先の景気だが、まず良くなる見込みはない。8月に入ってもパリオリンピックが続くし、高校野球もある。選挙の年でもあり、景気が上向き要素はない（東京都）。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・この先も残暑が長引くのではないかと予測している。路面の独立店舗で、近くにアーケード街のようなものもないため、客が足を向けてくれることがなかなか難しい。厳しい状況がずっと続くのではないかと。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・需要と供給が追いつかず、販売したくても在庫がない状態が続く。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・正直なところ、このまま円安が続き、仕入価格、人件費が上がれば、値上げしなくてはならない。厳しい状況が続く。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・世間ではボーナスが支給されたというニュースを耳にするのが、当社の社員は一向にピンとこない。ここ10年もらったことがないためである（東京都）。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔書店〕 (営業担当)	・円安の影響による買い控えが今後も続く(東京都)。
		百貨店(売場主任)	・夏休みに入り全国からの来客数増加などを期待したいが、昨今の商材値上げなどの影響もあり、客の多くは冷静な購買行動になっているため、余り大きな変化はない(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・前年と同様、8月の新型コロナウイルスの感染状況が懸念材料である。連日気温が高く熱中症の危険があるということで、外出を控える傾向が徐々に強くなっているが、しばらくはこの状況が続く(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・訪日外国人が急速に減少することは考えにくい、肝心の一般消費者の消費行動が継続的に上向き、景気が良くなるという環境ではないとみている。景気の上向き感、今後の経済環境の良化次第である(東京都)。
		百貨店(広報担当)	・国内客、インバウンド共に向こう数か月で現状の高い水準からもう一段上がっていくような材料、逆に減退していく材料、どちらも見当たらない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・インバウンドの好調はまだ継続するとみられるが、それ以外に景気を左右する材料は見当たらない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・セールはそれほど好調でもなく、店頭9割は秋の新作や一部冬物を並べている。定価でも気に入った物を買おうという心理はあるように見受けられる(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・インバウンド実績の構成が全体の2けたで、月を追うごとに拡大している。引き続きインバウンドは好調に推移するであろうが、インバウンドを除いた実績の伸び悩みが不安要素である。特に、食品関連の売上が鈍化している(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・けん引するのはインバウンドである。当店はしばらく改装が続き売場が縮小するため、売上を作るのが難しい立場だが、競合店、街全体の集客状況は変わらないと予測している(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・しばらくは物価上昇の影響が続く上、8月は猛暑による外出自粛も加わることで、しばらく景気は変わらない。
		百貨店(販売促進担当)	・4月以降、物価高による家計節約傾向は継続しており、ハレの日以外の平時の消費に対する財布のひもは固い。秋物商戦においても、近年の気候からみて、残暑により秋物への衣替えが活発化することは考えにくい(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・円安の影響により変わらない(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・直近の傾向からみて変わらない(東京都)。
		百貨店(企画宣伝担当)	・季節や時期に合った商材を提案しながらも、目新しさがなければならぬが、展開する商材に客がどのように反応するのか、現段階では分からない。
		百貨店(管理担当)	・前年にも増して気温が高く、購買意欲の減退が予想される。秋物の需要も年々減少している(東京都)。
		百貨店(店長)	・秋に向けて行楽ニーズへの期待はあるが、暑さの継続が予測されるなか、供給する商材と客のニーズがマッチするかが不透明である。
		スーパー(経営者)	・店舗により良しあしの温度差があり、前年は自治体のキャッシュレスキャンペーンの恩恵にあずかったという事情もある。競合店が近くにできるため、今後は厳しくなる。いろいろな与件があるものの、基調的には変わらない。
		スーパー(経営者)	・生活必需品の価格上昇はいまだ続いている。所得の増加幅との差が縮まらない。
		スーパー(経営者)	・現状ではやや増えているが、これ以上良くなるとは考えられない(東京都)。
		スーパー(店長)	・一部の商材については秋以降にも値上げが予定されているため、売上への影響が懸念される。
		スーパー(店長)	・値上げの影響で売上は伸びているものの、消費者には節約志向が依然として根付いている。価格に敏感な状況が続いている間は同様の状況が続く(東京都)。
		スーパー(営業担当)	・単価の上昇がまだ続くとみられるが、一方で、販売数並びに来客数は落ち込んだままとみている(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（仕入担当）	・ 乗月のお盆休みは9連休となる傾向が多いが、円安のため海外旅行は控え、食料品、光熱費等の値上げにより節約志向が高まっている。
		スーパー（食品担当）	・ 近隣にマンション建設や新規テナント入店など好与件がある（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・ 定額減税効果が薄れてくる。
		コンビニ（経営者）	・ 今は夏場でソフトドリンクやアイスクリームが売れているが、3か月先は気候も落ち着いて変わらない。
		コンビニ（経営者）	・ 物価が上昇している（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・ 最近、低価格の商材が増えてきたので、客の認知度が高まれば、多少来客数の増加に期待を持てるが、今のところ厳しい状況は変わらない。
		コンビニ（経営者）	・ 売上は前年を上回る予定だが、要因が定額減税だとしたら、年末頃には効果がなくなる。そのため、3か月程度は変わらない状況が望ましい。今後は最低賃金の上昇が予定されており、人件費が増加する。その収支を上回る販売量の増加を期待したい。
		コンビニ（経営者）	・ 夏場の若干の好調が秋口まで続きそうである（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・ 8月以降も高温傾向が続く予報であることから、今の売上トレンドが継続しそうである（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・ 物価に見合った給与水準になり、原油価格高騰が落ち着かないと、現状のままで変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・ 高温が続くことで飲料や冷凍食品などの売上が伸び、売上に繋がることが想定される。ただし、余りに高温となると、在宅勤務の推奨など、客の流動そのものが減少する恐れもあることから、良くなるとはいいい切れない（東京都）。
		コンビニ（従業員）	・ 景気自体が良くなっているわけではないので、飽くまで夏休み中の一時的な客の動きで今後も続くわけではないと考えている。世の中の景気が良くなれば根本的な販売量も増えてくる。
		衣料品専門店（経営者）	・ 年金生活者の生活防衛意識は強く、安さを求めている。
		衣料品専門店（店長）	・ 特に、地球温暖化による気候変動が主力事業に与える影響が大きい。また、物価上昇が今後も続くことが予測され、消費者の生活防衛意識は依然として高く、財布のひもが固い状態が続くものとみている（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	・ 食料品、光熱費の値上げが続くようなので、まだまだ衣料品には厳しいようである。
		家電量販店（店長）	・ 米国の経済状況にも左右されるとみられるが、大統領選挙など大きなイベントがあるため、株式市場や為替などネガティブな情報が先行すると消費活動に影響が出る。
		家電量販店（店長）	・ 物価上昇がまだ続いているため、現状のまま変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・ 自動車の整備は順調に入っているが、販売は余り芳しくない。例年なら7月は夏のボーナス支給で台数が伸びるのだが、余り伸びていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・ 半期決算を迎えるが、主力車種が微妙である。
		乗用車販売店（販売担当）	・ 異常な円安により輸入価格が相当上がってきていることもあり、国内の景気自体はそれほど良くない。外国人観光客が結構来ているためサービス業は多少潤うだろうが、全体的な流れのなかではほとんど変わらない。今後、円安から円高になって輸入製品が安価になるなどの動きがあれば良くなるが、現状では良くなるとは考えにくい（東京都）。
		乗用車販売店（渉外担当）	・ 自動車の出荷体制に依然として不透明な要素がある。
		乗用車販売店（営業）	・ 販売できる車種が限られてしまっており、偏った販売活動になっている。
		住関連専門店（営業担当）	・ 住宅省エネ2024キャンペーン事業の需要喚起効果は当面継続するものとみている（東京都）。
		その他専門店【ドラッグストア】（経営者）	・ 10月から最低賃金が上がるため、少し購買に回るとよい。
		その他専門店【ドラッグストア】（経営者）	・ 景気が良いような感じもするが、商材が余り動いていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・商材の単価を上げると販売量が減少する。その結果、全体的な売上は増加も減少もしないという傾向はしばらく続くと思われるため、2～3か月後の景気は変わらない（東京都）。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・猛暑が秋の商材の入荷にも影響するのではないか（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・猛暑のなかショッピングセンターに足を運ぶ回数が減ることが予想されるが、それは前年も同じである。
		高級レストラン（営業担当）	・当面は、客単価は上昇しているものの来客数の回復には至っていない状況がしばらく継続するものとみている（東京都）。
		高級レストラン（経理担当）	・3か月後の予約分はおおむね一杯となっている。新型コロナウイルス感染症の第11波が懸念材料だが、その行方は分からないため、変わらない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・猛暑の影響はインパウンドには余り関係ないようである。近隣のほとんどのホテル、民泊は相変わらず外国人観光客であふれている（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・景気が良くなるような経済対策もなく、ただ光熱費を何%下げられるくらいで、3か月後も今と変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・材料価格が上がっているため、秋頃から宴会の料理なども全体的に値上げをしていく予定である。それにより客がどう動くか、今のまま来店してくれるか、他店へ行ってしまうのか、こちらも手探りだが、経営的には値段を上げていくしかない（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・夏休みに入り、人の動きが活発になることが予想される（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・この夏休みに宿泊部門がどのくらいまで回復するのだが、今のところ回復状況は余り芳しくない。近隣大型コンベンション施設でのイベントの縮小傾向が続いていることが影響している。9月以降は新しいイベントなども入ってきているようなので、期待したい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・戦争の状況、原材料費の値上げがいつまで続くのか、人件費がどこまで上昇するのかなどにより大きく変わってくるので、この先はなかなか見通しにくい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先々の予約にばらつきが目立ち、繁忙期である11月の動きがかなり厳しい状況ではあるものの、その他の月は比較的順調に受注できているため、プラスマイナスゼロというイメージである。新型コロナウイルス感染症の拡大が気になるが、可もなく不可もない状態が継続する。
		旅行代理店（経営者）	・現状、いろいろな物が値上がりしており、客も考えているような状態である。客が安心して生活できるような様子にはみえないため、現状維持が精一杯ではないか。
		旅行代理店（従業員）	・円安が続いており、1人当たりの商品単価が低下傾向にある（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・旅行に行きたいという需要はあるものの、物価高により費用面から抑制傾向がみられる。
		旅行代理店（営業担当）	・円高に進まない限りは、基本的に良くならない（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・物価上昇により、生活重視となり、高額商品の売上は伸びなさそうである（東京都）。
		通信会社（経営者）	・機器の受注及び工事等が増加傾向にないため、この先2～3か月先も身の回りの景気は変わらない（東京都）。
		通信会社（社員）	・引き合いが続いているが、採算ベースまでにはもう少し必要である。次の四半期まで気を抜かず営業活動の継続が必要となる。予断を許さない状況である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・景気的好転が望めないなか、消費を抑える傾向がしばらく続くと思われている。
		通信会社（局長）	・応募して入社する派遣社員がいても、育成に時間が掛かるため、しばらくは厳しい状況のまま変わらない（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・案件増加の兆しが不透明である（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・世の中の販売価格等が変わらない限り、景気に変化はない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（経理担当）	・客は関心があることや遊び以外は、何か買う時に熟慮して財布のひもが固くなるため、賃金と同様に遊ぶ時間が増えないと景気は早々に変化しない。
		通信会社（管理担当）	・市場や提供商品など営業環境に変化がなく、芳しくない状況は続くと認識している。新サービスのエリア追加を待っている（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・B to Cの手数料条件改定による変更点もあり、その影響を加味しても、状況に大きな変化はないものとみている（東京都）。
		観光名所（職員）	・ずっと横ばいで推移しており、減少も増加もなく、急激に増加するとは考えられない（東京都）。
		パチンコ店（経営者）	・周辺地域でのイベント効果に期待しつつも、猛暑のなかでの人の動きに予測が付かず、足踏み状態が続いていく。
		競輪場（職員）	・遊びとしての質を、来場する客よりもインターネットでの客に集中しなければならないところがある。好調な企画を打っていても、肝心のインターネット側を使いやすいものに変更しなければ、状況は変わらない。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・新型コロナウイルス感染症の第11波と言われ始めていることが不安材料である（東京都）。
		その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	・米国大統領選挙の行方が不透明である（東京都）。
		その他レジャー施設 [総合]（経営企画担当）	・株安や為替変動による景気への一時的な影響は考えられるが、引き続き外国人観光客の動きは活発であり、景気に左右されやすいレジャー関連消費への影響は限定的とみている（東京都）。
		その他サービス[立体 駐車場]（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が完全に終息するまでは景気は良くなる見込みはない。
		その他サービス [フィットネスクラブ] （エリア統括）	・円安、個人消費の伸び悩みなどプラスの材料が乏しい（東京都）。
		設計事務所（経営者）	・今、非常に困っていることは、過去最高の受注数ではあるものの、その仕事をこなす社員がいないことである。そのために、客に納品の関係で大変な迷惑を掛けている。仕事が増えているが、対応できないことが非常にマイナスになっている。
		設計事務所（経営者）	・受注状況に変化はない。民間に期待は持てないため、当分現状のまま推移する見込みである。
		住宅販売会社（従業員）	・客の来場はかなり減っているものの、展示場から別の情報ルートの拡大を積極的に進めている。新商品の発売も控えているため、景気は悪いなりに底堅く推移するのではないかとみている。
		住宅販売会社（従業員）	・今後の受注は横ばいとみている。
		一般小売店[家電] （経理担当）	・今の忙しさは猛暑によるところが大きいため、秋口には収まる。
		一般小売店[酒類] （経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルス感染症の5類移行による反動が一巡したこともあり、国内客の売上の伸びが食品中心に落ち着いてきている（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・為替の影響により、輸入食材の値上げは今後も継続することが予想される。また、国内についても人件費増加による価格への転嫁が続く（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・インバウンドは、足元では弱含みの兆候が出てきており、円高反転リスクも懸念されるなか、国内消費の回復が見通せないことなどから、現状よりもやや悪くなるとみている（東京都）。
		スーパー（経営者）	・当社は食品スーパーである。競合店ができたこともあるが、長きにわたり来客数が減少し、1人当たりの買上点数も減っている。商品単価は上がっているが、売上は減少している。販売経費は増加しており、営業赤字の状態である。過疎地域でもあり、可処分所得が増えないことには、この傾向は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（ネット宅配担当）	・9月以降の大幅な値上げが決まっており、節約志向は更に高まる。
		コンビニ（経営者）	・現在のような天候不順が続くと、来客数の減少を止められない。ましてや時給の大幅アップが予定されているなか、経営環境の悪化は避けられそうにない。
		コンビニ（経営者）	・夏が過ぎて、夏の売れ筋商品が売れなくなり、それに替わる物が売れるという予測がつかないくらい、他の商材が売れていない。
		コンビニ（経営者）	・店舗は、基本的には余りインバウンドと関係のない住宅地若しくはロードサイドにある。このあたりは、まだ来客数が戻らないというよりは、物価が上がっているなかで賃金が上がっていないため、来店頻度が下がっているのではないかと。店としても苦しい状況である。
		衣料品専門店（経営者）	・円安の影響で、繊維関連産業では原材料価格が上がっている。いろいろな商材で、コロナ禍で静かであったものが正常化しつつあるが、急には戻らないため、納期等が遅れ、価格も上がっており、非常に困っている。加えて、職人の廃業や転職により、特に縫製の手手が不足しているため、今後どうなるのか注視している。
		衣料品専門店（統括）	・暑さが続き、秋物需要に影響があるとみている。
		衣料品専門店（従業員）	・ここ最近、新型コロナウイルスの新規感染者数が多くなっていることに加え、今年も猛暑が続くと予想されるため、景気に悪い影響があるとみている。
		乗用車販売店（経営者）	・お盆休みも入るため、世の中のスピードが減速する（東京都）。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型車効果が薄れたこともあり、客の購入意欲が低下している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・高値水準が続く限り、買い控えが続くとみている（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・賃金上昇が物価上昇に追いつかず、家計が厳しくなっている（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・個人利用は法人利用に対して芳しくない。依然として商材の値上がりが続いており、物価上昇のあおりを受けて動きが鈍いことがうかがえる。明るい材料に乏しく、景気の後退が予想される（東京都）。
		タクシー運転手	・物価の上昇はとどまるところを知らない。新型コロナウイルス感染症があちこちでまた増えてきており、検査や治療薬の自己負担もある。世の中に良いことがほとんどないため、かなり厳しくなる。
		タクシー運転手	・今の利用客の増加は暑さに起因しているため、2～3か月先に暑さが落ち着くと、売上も落ち着く。肝心の景気が良くなっているという実感は余りない（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・気温が下がれば、乗客がタクシーに乗らなくなる。1番の稼ぎ時にはライドシェアがあり、乗客の取り合いになる。
		通信会社（経営者）	・受注額をなかなか上げてもらえない。
		通信会社（社員）	・円安に陰りがあり、米国大統領選挙に翻弄される株式市場など不確定要素が大きい。勤労者の夏休み消費が落ち着き、消費は縮小傾向に向かうのではないかと（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・原価が高騰しており、値上げしたいところであるが、売上は横ばいで、他社も価格を据え置いていることから、利益の減少傾向は続く（東京都）。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・夏期講習を申し込まない生徒に聞くと、物価上昇により教育費を少し削らなければいけないという話が多数出ているため、悪くなる。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・想像以上の景気が期待できない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・来客数などから少しずつ回復している感があるが、人手不足など他の要因も含めて依然として難しい状況である。
		設計事務所（所長）	・仕事はあるものの、物価高でなかなか決まらない状況である。
		設計事務所（職員）	・社会的背景が好転しない限り、徐々に悪くなる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・例年であれば下期の建材需要期に向けた物件情報が出てくる時期であるが、そういった話が乏しい（東京都）。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・円安が進み170円台になった際には、信用金庫などの預金が封鎖されるのではないかと不安である。
	×	衣料品専門店（店長）	・物流コストや人件費が急上昇した分を価格に転嫁したいところだが、スムーズに進んでいない。
	×	通信会社（管理担当）	・物価の上昇により販売量は横ばいで推移する。
	×	ゴルフ場（経営者）	・最低賃金の上げを控えており、賃金上昇圧力も強まるため、更なる利益圧迫が見込まれる。中小零細企業では人材不足に拍車がかかることは必至であり、景気が良くなるイメージが全くない。
	×	ゴルフ場（従業員）	・夏から秋にかけて、猛暑だけでなく、特に河川敷ゴルフ場は台風による冠水被害のリスクを背負う。気候変動により台風の規模が大きくなり、甚大な被害が懸念される。
企業 動向 関連  (南関東)		電気機械器具製造業（経営者）	・今後求められる省エネ商材や工事を大幅に省力化できる合理化機器の発売を予定している（東京都）。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・7月の昇給が前年よりも良く、受注件数も多くなっている。
		その他非製造業〔商社〕（従業員）	・受注の動きからみて良くなる（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・秋はイベント等が多くあり、人出も多くなる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・例年10月から受注量が増えるので、今よりは良くなる（東京都）。
		化学工業（総務担当）	・足元の受注量は落ちているが、この先は回復すると見込んでいる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・複数の取引先から受注量の増加見通しを聞いているため、やや良くなると考えているが、飽くまでも希望的観測であり、実際のところは何ともいえない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・半導体の大口価格が徐々に上昇しており、受注量も順調に伸びる見通しのため、景気への影響も出てくると予想している。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・現在の受注状況等に鑑みると、当面、自動車メーカーは高水準での生産が続くものと予想されるため、景気は良くなる。
		建設業（従業員）	・やや良くなるという回答は、飽くまでも希望である。円安も少しは落ち着いたとみられるが、物価の上昇はまだこれからも続くこととみており、先行きが不安なことには変わりはない。いつまで続くのかが最も不安なことである。
		金融業（営業担当）	・受注推移等、今後の先行きについては、ある程度の復調を見込んでいる企業が多い。しかし、一時の材料コスト、人件費の高騰の流れから収益性が落ちている企業も多く、厳しい資金繰りに言及する経営者も多いため、楽観視できない状況が続く。
		税理士	・株価が高値で安定し、円安に一定のめどが付けば、景気は上向きを維持できる。米国大統領選挙で日本に不利な発言などが出てくると怪しい。天候不順による産業への悪影響は懸念材料である。
		食料品製造業（経営者）	・落ち着いた状態になっているが、この先どうなるかはよく分からない（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・法人関係の納入の仕事は、スタンプのゴム印は長い目でみると下り坂だが、今回は会社設立印の注文が6本あった。通常は2～3本くらいなので、法人の会社設立関係はやや上向きだが、ゴム印は見向きもされないの、相殺されて変わらないという見通しである（東京都）。
		化学工業（従業員）	・国内外の受注量に大きな変化はなく、安定している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・原材料等、値上げの方向はやや落ち着いてきているが、まだ値上げは続くこととみているため、景気が良くなるかどうかははっきり分からない。
	プラスチック製品製造業（経営者）	・医療品容器は新型コロナウイルス終息後に新企画が動き出しており順調だが、化粧品容器に関しては全く上昇気配がない。化粧品に勢いがつけば一気に利益が出ると見込んでいる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・国内は、業績に見合わない賃上げにより、中小企業の業績が下がるとみている。世界経済は、米国や欧州向けの輸出が減っているため、生産数が伸びてこない。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・猛暑、新型コロナウイルス感染症の拡大により来店頻度が低下している（東京都）。
		建設業（経営者）	・物価はどんどん上がっていくが、賃金が余り上がらない。このままの状態だと、景気は大して良くはならず、逆に大きく悪くなったりもしない。
		輸送業（経営者）	・売上減少、経費増加の要因がみえてこないため、現状が続く（東京都）。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量が低迷しており、輸出は全くない。今後もこの状態が続く予想である。
		通信業（広報担当）	・当面変わらない見通しだが、下振れリスクがある（東京都）。
		金融業（従業員）	・小売業やサービス業など価格転嫁が比較的難しい業種のなかでも、イベント関連の受注が増えて売上増加を見込んでいたりとか円安によるインバウンド需要によって商店街に活気が戻ってきた、といった前向きな声が多くなっている（東京都）。
		金融業（従業員）	・中小企業は円安による資材高騰に苦しめられているが、売値、卸値は全く上がっていないため、厳しい状況が続いており、従業員の賃金やボーナスを上げることができずにいる。従業員は物価高の影響をまともに受けるなかで賃金が上がらず、苦しい生活が続いている。そうしたことから、今のところ経済の上昇は見込めない。
		金融業（従業員）	・実質賃金が低下し、消費行動を控えるとみている。
		不動産業（経営者）	・暑さとともに新型コロナウイルスの新規感染者数も増えている。負けないように頑張りたい（東京都）。
		不動産業（経営者）	・駅近のテナントビルでも空室が目立っている。当ビルでも引き合いが少なく、この状況が続きそうで気掛かりである。新たに起業するための環境が良くないとの見方が多い。
		不動産業（総務担当）	・空室率の改善により営業収入は増えるものの、資材価格の高騰、人手不足、人件費アップはこの先も続くこととみられ、建物の維持管理費の上昇は避けられないため、身の回りの景気は現状維持である（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・社員を募集しても、なかなか集まらない。
		広告代理店（従業員）	・状況を改善しようという試みはそれなりにあるが、好転しないのはまだ不足しているということかもしれない。いずれにしても、当社を取り巻く環境の改善に期待するような他力本願ではいけないことは確かである（東京都）。
		税理士	・会計事務所なので中小企業の立場をみているが、飲食店、製造業などは原材料高、人手不足、最低賃金の上昇などにより、一般的に景気が悪い。やはり、中国やアジア等の安価な製品が入ってきて、大手小売業や飲食店等も含めて皆やや厳しくなっている（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・物価高の傾向は変わらない。
		経営コンサルタント	・良い材料がない。下請の取引価格の見直しが政府等から指示されているが、現実的には効果はみられない（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・工場稼働率等が回復しつつある取引先もあるものの、廃業、移転、統合等の動向も目立ってきており、不透明な状態は変わらず続く予想している。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・米国の動向に影響を受けやすいため、米国大統領選挙までは大きく動かないのではないかと（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・前年より数回の値上げでクライアントも疲弊しており、交渉で理解を得ることが厳しい。他社との見合せ等により受注に至らないケースも見受けられる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・良くも悪くもないのではないかと。製造原価における原材料費の価格転嫁はできてきているものの、最低賃金、電力などの固定費が認められない。また、支払期日の60日ルールが11月より始まるが、罰則規定がないため取引先に守ってもらえずに、先に当社が支払えばキャッシュフローが悪化することが予測される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・金利が上がり始め、返済が苦しくなってくる場所もあるのではないかと。
		建設業（営業担当）	・現状の打合せ物件数と3か月前の物件数を比較してみると、現状の方が少ない。要因としては、資材価格の高騰による設備投資の減少が影響していると考えられるため、資材価格の高騰が継続している現状を踏まえれば、3か月後はやや悪くなる。
		金融業（総務担当）	・原材料、燃料費の高騰の影響があり、ここにきて最低賃金引上げは良いのだが、所得制限者は労働時間が減るだけで収入は変わらない。また、事業者にとっては経費の増加につながる。消費者は値上げラッシュにより買い控え傾向にある。今後も燃料費の高騰や円安、更なる値上げが続き、賃金上昇分では賄い切れないことを考えると、消費は減少傾向になる。取引先の融資延滞も増加傾向にあることから、景気はやや悪化に向かう（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・クライアントからの大型プロモーションの宣伝受注が少ない（東京都）。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・最低賃金が上がる分、利益を圧迫する（東京都）。
	x	金属製品製造業（経営者）	・短期的にはそれなりに受注量はあるが、秋以降の案件が例年以上に少ない。
	雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社（営業担当）
		求人情報誌制作会社（広報担当）	・特に不安になる要素がなければ、少しずつ良くなっていくのではないかと（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・年末に向けて人材不足の状況が続く。
		人材派遣会社（社員）	・改善の見込みが立たない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・慢性的に供給力が不足している（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・夏休みに向けてイベント関連のスタッフ求人が増加しているが、求人数は例年と変わらない。倉庫内作業員、フォークリフト人員についても例年並みである。
		人材派遣会社（社員）	・求人数、採用者数等の推移より、全体としてはおおむね横ばいの推移が見込まれる（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・社員の残業時間削減策や休暇対策として、派遣社員の短期活用も増えており、業績は堅調に推移する見込みである（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・製造業ではエンジニア不足が継続しており、当面ニーズの低下は見込まれないため、現状維持とみている（東京都）。
		求人情報誌制作会社（経営者）	・景気対策に打つ手がなく、政府は最低賃金の更なる引上げを予定しており、ますます大手企業と中小零細企業との労務環境格差が増す。中小零細企業の労働賃金が上がらなければ、消費など内需が活発になることはない（東京都）。
		求人情報誌制作会社（営業）	・労働人口が増えていない状況では、いかに効率よく仕事をAIに置き換えていくかがとても重要である。採用ができない業種は本当に大変である。媒体というよりも、その仕事でその作業量や条件は適正なのか。それらを冷静に考えるとおのずと答えは出る。採用ができなくて景気が向上しないというならば、それなりの対策を講じる必要がある。
		求人情報誌制作会社（所長）	・何かが変化したということもなく、兆しや前触れがない。
		職業安定所（職員）	・7月の新規求人数は前月と比べて増加傾向にあるものの、持ち直しの動きには弱さがみられる。
		職業安定所（職員）	・物価高により生活が苦しくなっているとの話が求職者から多く聞かれる。物価の上昇に収入が追いついていない。
	職業安定所（職員）	・直近の動きでは求職者数、求人数共に前年同期と比較して横ばい傾向であり、企業等からの声にも先行きに大きな変動の兆候はみられないため、当面は現状のまま変わらない（東京都）。	
	職業安定所（職員）	・賃金は上昇しているものの、物価上昇がそれを上回っている。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業業績は全般的に悪くはないが、求人に対する条件が厳しく、なかなかうまく求職者とマッチングしない（東京都）。
		人材派遣会社（経営者）	・人材を確保するためには、賃金引上げのみならず、同時に労働環境を改善したり、悪いイメージを払拭することも必要である。こうした対策を講じない企業は人手不足で企業経営にも影響が及ぶ。
		人材派遣会社（社員）	・景気の良い分野と悪い分野のうち、自分により身近なのは悪い分野の方である（東京都）。
		職業安定所（職員）	・電気、ガス、ガソリン、食材等の価格上昇が止まらない。賃金も上がらない。輸入系企業の倒産、閉鎖など、マイナス要因しか聞こえてこず、プラス要因がない。
	x	-	-

### 5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)		高級レストラン（経営者）	・人の集まる機会が増え、価格転嫁もしやすくなってきている。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・葬儀の相談や予約がたくさん入っている。墓じまいや粉骨、ペットの粉骨も増えている。この流れは続くともみている。
		コンビニ（経営者）	・これから行楽等に向かうような客が、移動中に飲食する物を購入することが増えている。中食向けや飲料等が好調である。
		コンビニ（経営者）	・お盆時期で売上は下がる見込みだが、それ以外の日は猛暑が続けば来客数は増えるため、売上は例年以上になるのではないかとみている。
		その他専門店〔酒〕（店長）	・当店は日本酒等を中心とした醸造酒を扱っているのですが、2～3か月後は暑さも少し落ち着いてきて、今月よりも日本酒やワインのニーズが出てくるのではないかとみている。価格転嫁に対する許容は、今も2～3か月後も変わらず厳しいのではないかとみている。ただし、厳しいところもあれば、その反面伸びてくるような気も出ている。
		観光型旅館（経営者）	・露天風呂の工事が完了することもあるが、比較的順調に予約が入ってきている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・当県で新たな世界遺産登録が決定されたことで、何かしらの好影響が期待できる。元々、インバウンドが他の地域より活況ではなかったため、この先インバウンド関係の増加が期待でき、観光関係は伸びるのではないかとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・8月の宿泊に関しては、1年の最繁忙期であり高単価で売れる月となる。県内各地の祭りやアイドルのコンサート等、県内でイベントのある日に関しては、高単価で販売できている。お盆の個人宿泊が、例年より若干弱くなっているが、いずれにしろ、高価格でも利用してくれる客が多くなる月である。
		タクシー（経営者）	・猛暑の影響が出る可能性はあるものの、イベント等の開催に比例して、人出が増える。
		商店街（代表者）	・世間では給料が上がって景気が良くなったというが、それ以上に物価が上がっており、何のために給料が上がったのか理解できないところがある。
		商店街（代表者）	・定額減税、夏休み、インバウンド等、期待はするものの実態は伴っていない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・このまま猛暑が続けば、季節商材の売上も伸びて関連業種においては多少の利益も得られそうである。ただし、全般的な値上げのなかで、消費者の財布のひもが緩むことはなさそうである。
	百貨店（経理担当）	・今後もしばらくはターミナル駅に開業した商業施設の影響を引きずると推測する。晩夏から秋物向け衣料商材の売上動向次第で、回復するか更に悪くなるかの岐路に立たされている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・世間的に賃金はある程度上がっているとみられるが、やはり物価の方が上昇率が高い。そのため、相変わらず消費については慎重である。これはと決めた物については買うが、日用品は慎重になる。
		百貨店（店長）	・商材価格の上昇の影響がみられる。物価高騰の影響で客の節約志向が強く影響している。都内百貨店のようにインバウンドが来るわけでもなく、また、高額品が特別伸びているわけでもないの、非常に厳しい状態が続いている。
		スーパー（経営者）	・夏の天候安定と中小企業のボーナス支給後に期待する。
		スーパー（経営者）	・大型ホールで行われるイベント向けの仕出し注文を受けたところである。店頭販売以外の仕事も頑張って対応したい。
		スーパー（店長）	・米の入荷状況が安定せず不透明であるため、今後の米価によっては、消費動向が悪化していく可能性も考えている。
		スーパー（副店長）	・今までもこの先も、良くなる理由が見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・今の売上は若干良いものの、すぐに涼しくなるので、今までと変わらない売上になる。
		コンビニ（店長）	・今年の夏も暑く推移するようなので、現状と変わらず余り良くないのではないかと。天候が大きく変わったとしても、販売量は期待できない気がするため、変わらない。
		家電量販店（店長）	・来客数は前年からの変動は少なく、景気は横ばいと予想する。
		乗用車販売店（経営者）	・当面は新型車イベントもなく、新車代替を促進する材料が見当たらない。
		一般レストラン（経営者）	・このまま円安が続き物価上昇も続けば、景気は変わりようがない。
		スナック（経営者）	・全体としてはかなり良くなっているが、ここに来て、再び新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているとの話もある。公費負担のワクチン接種が終わってある程度時間がたったので、多少の不安がある。
		スナック（経営者）	・いつものことだが、あつという間のひと月で本当に困っている。地方は本当に大変である。何か良い策があったら教えてほしい。
		スナック（経営者）	・ボーナス支給時期に入ったが、前月、今月と今までと変わらない売上しか上げられない。企業の朝のアルコールチェック実施により、早く帰る客がほとんどで、今後も売上を期待するのはなかなか難しい。
		旅行代理店（副支店長）	・秋までは好調が維持される。旅行業界に関連する運輸、宿泊施設、レストラン等の値上げで、旅行控えや秋以降の景気後退が懸念される。
		タクシー運転手	・金曜日以外は余り売上は伸びないし、期待もできない。夜の売上が伸びるかどうかが次第なので、先のことは分からない。世間では物の値上げが頻繁に行われており、そちらの方が心配である。
		通信会社（社員）	・新規エリアの開局が予定よりも遅れている分、見込みの新規加入にも多少影響がある。既存エリアの掘り起こしで穴埋めが必要である。
		通信会社（社員）	・賃上げや定額減税が直接消費に結び付いていない。
		観光名所（職員）	・当地は車でアクセスする旅行者が多いが、燃料価格の高騰によりマイカーでの遠出を控えることの影響を心配している。また、多くの方は物価高騰に見合う収入増加を得ていないのではないかと。旅客は戻ってきているが、財布のひもは固い感覚である。
		遊園地（職員）	・パブリシティの獲得やイベント開催等、積極的な集客施策の実施や情報発信を行い、より多くの来客数を期待している。
		ゴルフ場（副支配人）	・当ゴルフ場を取り巻く周辺環境や原価の高騰は変わらない。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	・コロナ禍で利用を中断していた団体客が戻ってきている。
		その他サービス[クリーニング]（経営者）	・仕事でたまに海外に行くが、日本の物価が安く、このままで良いのだろうかと戻ってくるたびに懸念している。物価が安い方が生活は楽だが、世界基準にならないものかいつも考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・今後も猛暑が続く予報が出ており、高原の別荘地への関心度は高い。
		商店街（代表者）	・閉店する店が少し出ている。
		コンビニ（経営者）	・6月、7月は暑い日が続き、売上は少し上がっていたものの、7月は前年より雨が多かったこともあるのか、1日当たり3万円程度割っている。全般的に土日の客入りが、前年より少なくなっている。
		コンビニ（エリア担当）	・経費の高騰に対して売上が追い付いていないため、やや悪くなる。
		自動車備品販売店（従業員）	・大手自動車メーカーの不正問題もあり、新車販売は前年割れが続いている状況下で、カー用品も伸び悩んでいる。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染拡大第11波の影響で、多少なりとも影響が出始めている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊数やイベント数は、毎年8月がピークのため、少しずつ来客は減少する。
	×	コンビニ（経営者）	・良くなる要素がない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・物価高と猛暑により、売れるべき商材が売れなくなっている。
×	ゴルフ場（経営者）	・米大統領選挙の状況次第だが、日経平均株価が下落し、実質的な購買力低下の実態が浮き彫りになるだろう。	
企業 動向 関連  (甲信越)		金属製品製造業（総務担当）	・半導体需要が回復し良くなる。
		食料品製造業（営業統括）	・7月に開催された国産ワインコンクールを起爆剤として、関係先や消費者からの引き合いが期待できる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・事前情報として、9月、10月に向けて生産量が増える話が出てきている。
		食料品製造業（総務担当）	・小売店頭での販売動向が良いとはいえないため、変わらない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・先行きは不透明だが、作品販売サイトでの売上が予想外にあるため、出品数等を増やして展開していきたい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・消費動向に大きな変化はみられない。一部で猛暑による需要増加はあるものの、全体として耐久消費財への支出は抑えられる傾向が続く。
		電気機械器具製造業（従業員）	・受注量は回復傾向にあるとみられるが、資材値上げのため内容が伴わない受注となり、経営を圧迫している。
		建設業（経営者）	・人手不足や物価上昇は続いているが、現状の景気は続くともみている。
		金融業（調査担当）	・製造業は在庫調整が緩やかに進むため、大幅な改善は期待できない。非製造業は、観光関連を中心に堅調だが、コスト増加の影響や人手不足の影響が懸念される。
		金融業（経営企画担当）	・賃金上昇はあるものの、実質賃金がプラスとならなければ景気は良くならない。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・折込広告の出稿数減少やサイズダウンによる単価の低下等で、前年比マイナス5%超となっている。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・定額減税はジュエリーの消費喚起にはつながらなかった。円安から若干円高が進んできているとはいえ、本来の円の実力からは大きくかけ離れているため、景気が回復するにはしばらく時間が掛かる。
	×	食料品製造業（製造担当）	・当社としてはやはり値上げせざるを得ないものの、大手企業の価格据置きが続いているため、ますます価格差が広がり、売れなくなる傾向が続く。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが本当に大変である。
雇用 関連  (甲信越)		-	-
		-	-
		人材派遣会社（営業担当）	・最低賃金上昇の報道等もあり、今後の商談内容は今まで以上に慎重に進めたい。
	求人情報製作会社（総務担当）	・変化がありそうな動きや変化自体がみられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・インバウンドや国内旅行、大人数での宴会や会議の回復、イベントの復活等により、観光や宿泊、飲食、交通輸送業等は引き続き堅調に推移するものとみられる。ただし、人手不足やエネルギー価格、諸物価上昇の影響が、依然として懸念され、賃上げの浸透や定額減税等による消費拡大の状況も不透明である。
		民間職業紹介機関（経営者）	・円安を改善しないと、厳しい状況が続く。
		職業安定所（職員）	・世界経済の不安定さや減速、原材料費等の高騰、物価高などがマイナスの影響を与えている。
		職業安定所（職員）	・物価高や円安による原材料価格の高騰等により、有効求人数の前年同月比は3か月連続で減少している。
	x	-	-

## 6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (東海)		商店街（代表者）	・円安が落ち着き円高に向かっている様子もみられるため、多少は物価高も落ち着いて良い状況に向かう。
		美顔美容室（経営者）	・8月から年末まで新たなキャンペーンセールを実施する。
		商店街（代表者）	・周囲の話を見ると、若干ではあるが所得の増加傾向がみられる。広く浸透するまではまだ時間が掛かりそうだが、少しずつ消費活動も活発になることを期待する。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・猛暑が終わり秋に向かえば、少し良くなると期待する。
		百貨店（販売促進担当）	・今後もインバウンドの後押しや定額減税の効果により、消費行動がより活発になると予想する。
		スーパー（経営者）	・秋になり気候が良くなることで、来客数の増加に期待する。
		コンビニ（エリア担当）	・気温が高い日が多くなる予報が出ており、冷たい商材を求めて来客数が増える見込みである。外出の機会も多くなりそうなので、観光地や商業地を中心に来客数の増加を期待する。
		コンビニ（本部管理担当）	・先行きには不透明感があるものの、トレンドピークの夏季シーズンに良好な天候が続けば、それだけで売上と利益を押し上げる。今シーズンは例年並みの梅雨明けで、好天が続く予報なので、先行きは良好と判断する。
		家電量販店（店員）	・たとえ価格が高くても、なるべく良い商品が欲しいという客が増えている。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・8月以降も例年より気温が高い予報なので、エアコンが売れると予想する。
		乗用車販売店（営業担当）	・今年の賃上げが反映された給与になり、定額減税も始まったので手取金額が確実に増えている。その分消費意欲が高まると期待する。
		乗用車販売店（従業員）	・アクセス件数は落ちていないため、客は様子見のようである。足元の感触は余り良くないが、アクセス数だけ見れば期待が持てる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・定額減税の特需もあり比較的来客数が底堅く推移しているため、楽観はできないがまずまずの売上への寄与が見込まれる。
		旅行代理店（経営者）	・パリオリンピックが終われば旅行需要が増えると予想する。ちょうど秋口のシーズンに当たるため、良くなると判断した。
		旅行代理店（経営者）	・特に不安材料がなく、金利も上がるようなので、経済情勢は少し良くなる。
		旅行代理店（営業担当）	・秋の団体旅行について、これから計画を始める小グループの動きがある。
		タクシー運転手	・プロ野球やコンサート等イベントの開催がある。インバウンドの利用も見込める。
	テーマパーク（職員）	・会社からの旅行の問合せが増えてきている。	
	ゴルフ場（支配人）	・2か月先の入場者予約数は、前年同日比では余り良くないが、今月の入場者数が悪天候による考えれば、これから先の9月、10月は入場者がもっと増え、やや良くなると予測する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [鉄道会社] (職員)	・当社の周年記念を迎えるに当たり、企画イベント等でマスコミ露出が増える見込みである。
		商店街 (代表者)	・商品単価の上昇と猛暑のエアコン需要で足元はますますだが、夏が過ぎるとまた元に戻りそうである。特にテレビ等の映像関連商品の売行きが鈍い。
		商店街 (代表者)	・今年のお盆休みは旅行をする人が前年よりも減っているという話を聞いた。いろいろな物が値上がりするなかで財布のひもを固くしなければならず、以前のような消費はできない状況である。
		一般小売店 [土産] (経営者)	・コロナ禍がある程度収束して、世の中の動きも回復しつつあるところに新型コロナウイルス感染症の再拡大となり、第11波が来てしまった。このような状況では日本人観光客は増えにくい。外国人旅行者があちらこちらを訪れている報道を目にするが、日本人客の動きは最悪である。特にこの夏は、異常気象の影響で旅行をする気持ちがなくなっている。
		一般小売店 [生花] (経営者)	・物価上昇が進んでいる一方で賃金は上がらない。年金生活者も依然として財布のひもが固くなっている。
		一般小売店 [酒類] (経営者)	・行楽シーズンは日常利用の飲食店での消費が控えられる傾向がある。回復する要素が全く見つからない。
		一般小売店 [贈答品] (経営者)	・個人客の購買意欲が伸びている。法人客はしっかりとした計画の元に消費が行われるため、業績が伸びている会社は消費も増えるが、伸びていない会社は厳しい状況が続く。景気は現状維持で大きな変化はないが、個人客の消費マインドは良い状態のままが続く。
		一般小売店 [果物] (店員)	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店 [生活用品] (販売担当)	・夏に帰省や旅行に出掛けた後は、日常の買物は控える傾向にある。
		一般小売店 [和菓子] (企画担当)	・与党の総裁選挙や米国大統領選挙の影響で円安がどうなっていくかなど不安定な要素が多い。
		百貨店 (総務担当)	・インバウンドは引き続き好調だが、暑さによる来店控えは売上にとって厳しい。利上げなど金融政策や今後の株価動向によっては富裕層の高額品需要も動きがどうなるか読みにくい。お盆の帰省や旅行も前年並みかそれ以下という報道もあり、土産需要などへの影響は少なくないと予想する。
		百貨店 (経理担当)	・富裕層の消費は引き続き拡大が見込まれるが、中間所得層は物価高や実質賃金の伸び悩みから生活防衛意識が高まり、非食品部門を中心に消費が縮小する。全体の景気としては、プラスマイナスゼロの状態になる。
		百貨店 (営業担当)	・現状並みの来客数は維持できる見込みである。富裕層の買上も今のところ堅調に推移している。
		百貨店 (営業企画担当)	・地方景気は回復が遅いため、まだやや良くなると回答できるほどの状態ではない。
		百貨店 (販売担当)	・猛暑対策商品が好調である。
		百貨店 (販売担当)	・商品値上げによる駆け込み需要は期待できるが、一過性の動きなのでその後が懸念される。
		スーパー (店長)	・食料品の大幅な値下がりがない限り、買上点数が増えることはないため変わらない。
		スーパー (販売担当)	・暑さのため日中の来客数は大きく減るが、夕方になると激増する。1日を通じては変化なしの状況である。
		コンビニ (店長)	・猛暑の反動で秋以降の仕入れに影響があるかもしれないが、今のところ仕入れ、販売量共に落ち着いている。
		コンビニ (企画担当)	・当地方のインバウンド需要は拡大を維持しており、この状況は当面変わらない。
		コンビニ (店長)	・特に上下する要因がない。物価高ではあるが、価値があると認められた商品と生活必需品は売れる。
		コンビニ (店長)	・良い兆しもみえてはいるが、一般家庭の家計はなお厳しく、消費を抑えて防衛が続くと予想する。
		コンビニ (店長)	・依然としてアルコール類の売上が振るわず、価格が安いドラッグストアやスーパーに客が流れている様子である。節約志向が強くみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・これまで為替は円安方向で動いていたが、少し落ち着きを見せている。インパウンドの動きも、不確定要素はあるもののしばらくは現状維持の見込みである。これ以上の伸びがあるかは不透明である。
		コンビニ（店長）	・前年と比べ来客数の増減がないため、この先どう転ぶのか、全く予想できない。
		衣料品専門店（経営者）	・異常気象で残暑が続く、秋物商材は手にも取ってもらえない状況が続く。
		衣料品専門店（店長）	・注文数が増えた客もいるが減少した客も数多くあり、売上の的にはプラスマイナスゼロの状況である。客単価は上昇しているが、来客数は減少か横ばいである。
		衣料品専門店（売場担当）	・礼服の売行きがかなり良く、この動きがなくなることが怖い。コロナ禍で葬儀が家族葬など簡略化していたが、従来型の葬儀が復活してきたことが大きい。また、最近の猛暑に対して夏用の礼服を買い求める人が増えている。ただし、この傾向は自店のみで、他店からは余り良い話を聞かない。
		衣料品専門店（売場担当）	・賃上げや定額減税、ボーナスの支給等といった個人消費を促す要因はあるものの、物価高を見据えて大部分が貯蓄に回る。
		乗用車販売店（経営者）	・取り立てて良くなる要素も悪くなる要素も見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	・物価上昇は止まったのか、金利はどうなるのかなど不透明感が強く消費者心理にも影響しており、景気の先行きが見えない。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の生産状況が以前と比べ多少好転しているが、客が希望する車両の納期はまだ随分掛かり、オーダーができない事態も続いている。節約志向が強い現状では車両の不具合などにより購入を迫られない限り、客の購入意欲に大きな伸びは期待できない。
		乗用車販売店（従業員）	・お盆休みを迎えて多少は活性化するが、自然災害や急な株の値動きなどによっては、一瞬で大きく悪い方向に傾くかもしれない。
		乗用車販売店（従業員）	・夏休みを迎え、前年と比べて家族で遠出をする計画がある客が増えている。ただし、暑すぎると外出をちゅうちょするという声も聞く。猛暑が続くと車を使った移動の減少も心配である。エアコンの点検依頼も増えており、駐車中に使う日よけの売上も伸びている。これらの傾向は前年よりも強いが、いずれも一時的なものであるため、全体的には変わらない。
		住関連専門店（営業担当）	・新築工事は資材価格や職人の工賃が上昇して様子見が強くなっており、施工現場が減っている。ただし、リフォーム工事や商業施設の改修工事は増えてきており、見積金額もアップしている。
		高級レストラン（経営企画）	・外食業界全体としては新型コロナウイルス感染症発生前を超える勢いがあるが、節約志向は変わらずメリハリをつけた利用により、単価の高い業態は伸び悩む。一方、都心のインパウンド需要は好調に推移している。
		一般レストラン（経営者）	・金を使うことを控えている印象を受ける。
		一般レストラン（経営者）	・客からは、ボーナス等の景気の良い話がなかなか聞こえてこない。連日の暑さも厳しく、また、物価が下がるとも思えない。
		一般レストラン（経営者）	・特段の要因がない。
		一般レストラン（従業員）	・現状維持でいければ良い方である。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・世の中の雰囲気両極端で、何が本当なのか戸惑っているような印象を受ける。
		観光型ホテル（支配人）	・予約状況から見ると、8月は好調だが9月は厳しい。10月以降は予断を許さない状況である。
		都市型ホテル（経営者）	・為替の大きな変動がなければ、引き続きインパウンド需要の好調を期待できる。
		都市型ホテル（営業担当）	・当面の間は好調を維持すると予測する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（総支配人）	・宿泊需要は為替動向次第である。一方、仕入コストの上昇に加え、異常な気温上昇で光熱費が大幅に上がると予想する。価格には全く転嫁できず、収益悪化が懸念される。
		旅行代理店（経営者）	・少子高齢化によって消費は減少する一方で、様々な物価が上昇し、節約志向が強まる傾向は変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・為替相場が落ち着き物価が安定してくれば、客足は戻ると予測する。現状の価格でも理解の上旅行に行く客層もあるため、安定した価格で提供できれば、若者の海外旅行離れも緩和すると考える。海外ハネムーン旅行の予算も上がってはきているが、航空券代やホテル代が相当上がっている点に理解が進み、もっと件数が回復してほしい。
		タクシー運転手	・客の動きは上向かない。
		タクシー運転手	・子供が夏休みになり、親も夏休みやお盆休みがあるため、その時期は極端に出足が悪くなる。その前後では動きがあるとみられ、プラスマイナスゼロで余り変化はない。
		通信会社（企画担当）	・パリオリンピックや猛暑の効果に加えて電気料金の補助により、家でテレビやインターネットを使う時間は増えると見込むが、景気を上向かせるところまではいかない。
		通信会社（営業担当）	・世界情勢からみても上向く原因が見当たらない。
		テーマパーク職員（総務担当）	・当園のような屋外型複合施設にとっては、今夏の気象予報どおりに長期的な猛暑が続くと、来客数の大幅な落ち込みが懸念される。魅力ある催事の実施等により、何とか集客の現状維持を図りたい。
		美容室（経営者）	・10月頃になれば、気候が良い時期なので客足の伸びを期待する。
		美容室（経営者）	・物価の上昇に賃金が追いつかない限りは、今の状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・材料価格や人件費の高騰で、横ばいが続いている。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・元請の状況を見ると、ほとんど受注がないところが多く、好転の材料が少ない。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・賃金上昇が物価高に追いついていない状況で、消費マインドも変わらない。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・年内は来年に向けての準備期間である。
		商店街（代表者）	・1人当たりの購買数が減少傾向にある。
		百貨店（企画担当）	・インバウンド消費は引き続き順調であり、国内消費も高額品を中心に堅調に推移している。しかし、中間層の動きは戻っておらず、衣料雑貨を中心に新型コロナウイルス感染症発生前を大きく下回っている。この傾向はここ半年ほど変わらないが、中国経済の鈍化を始めとした国際状況の不安定感や金融市場の先行き不透明感等が、景気を引き下げる要因にならないか危惧している。
		百貨店（営業担当）	・酷暑により外出を控える。新型コロナウイルス感染症の感染再拡大や最近の株価急落などの影響から、この夏は消費マインドが高まらないと予想する。
		スーパー（店長）	・買上点数は継続してマイナスのトレンドに変化がなく、1品単価の上昇傾向も止まりつつある。客単価が前年を割り込んできている。
		スーパー（店長）	・今後も割引やポイント付与のある日への来客の集中が予想される。
		スーパー（店員）	・東北地方を襲った集中豪雨の影響がこれから野菜や果物の価格にどう現れるか。この猛暑で土壌温度が上がりすぎて作物が不作となることも懸念され、野菜の価格高騰を予測している。
		スーパー（店員）	・お盆を迎え購入額の増加を期待したいが、それ以外の平日は天候に左右されつつである。
		スーパー（店員）	・担当部門において値上げ予定があり、し好品であるため買い控えの発生が予想される。
		スーパー（販売担当）	・夏休みで出掛ける回数が増える分、その先は食費を抑える傾向になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（支店長）	・猛暑の影響で売れ筋商品と死に筋商品に極端な差がある。暑くなければ売れない物は大幅に販売量が伸び、逆に暑さで売れない商品もある。一般家庭では子供の夏休みで電力使用量が増えて、原材料費高騰や円安による食料品の値上げで家計が圧迫されることが明確なので、先行きの消費や経済には、やや不安がある。
		スーパー（総務）	・物価上昇や円安、異常気象による農作物の不作が予想され、不安要素が大きい。
		コンビニ（エリア担当）	・実質賃金の低下、金利のある世界の到来により景気の悪化が予想される。コンビニ経営者は、最低賃金が50円上がることによって月5万円ほど負担が増して苦しくなる。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・余りの暑さで、出足が悪くなっている。
		家電量販店（営業担当）	・季節商材が落ちていて、パリオリンピック等のイベントもなくなるため、今月と比べれば悪くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・大手自動車メーカーの不正問題で納期の遅れや受注停止などが起きており、販売動向や客対応にも影響が出てくる。
		乗用車販売店（経営者）	・法改正に対応するため再び生産が一時的に止まる。CMもいまだ流れておらず、厳しい状況は続く。
		乗用車販売店（従業員）	・年末までは人気車種の多くで販売できない状況が続く。円安の影響でメーカーが国内生産の車を海外向けに回しているうちは、国内販売量は増加しない。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型車種がデビューしたが、車両本体価格も大きく上がっており、ローン金利も高くなっているため客への販売促進が余りうまくできていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車発売の情報が公式に出ているにもかかわらず、新規の来客数が増えていない。例年受注の落ちる8月から新型車が発売される秋までは、厳しい状況が続くような気配である。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・前年の春から値上げを行ってきたが、今年9月にも値上げを行う。今度の値上げは消費者の買い控えを招くのではないかと危惧している。
		観光型ホテル（経営者）	・9月、10月の予約状況を見ると、団体客の動向が今一つ伸びていない。人件費や資材、仕入価格上昇分の価格転嫁が進んでおらず企業の業績が余り芳しくないことから、団体旅行の需要が停滞気味であると考えられる。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
		旅行代理店（営業担当）	・給与所得が増えない以上、我慢も限界に近づいている。今後、自然災害や感染症流行等の外的要因が新たに発生すると、旅行需要が減少又は激減する可能性がある。円安でインバウンドは好調だが、減少要因の発生で一気に展開が変わる可能性がある。
		観光名所（案内係）	・まだ値上げが続くようで、決定的な痛手になりそうである。
		パチンコ店（経営者）	・収入が余り変わらない一方で支出が多い。増税が控えているという話もあり、財布のひもも固くなる。新紙幣の対応にかなりの設備投資をしてきたが、すぐに回収できるわけもなく、長期間の我慢が強いられる。
		理美容室（経営者）	・客からは物価ばかり上がり給料は増えないという声を聞く。
		美容室（経営者）	・最近再び新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していることで、客足が遠のいている。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・仕入先より10月からの値上げ案内が届き始めた。福祉用具貸与事業に関する介護報酬は今年4月に上限価格が引下げ改定されている。利益確保に一層苦勞する見込みである。
		設計事務所（経営者）	・現時点で新規の案件依頼は来ていないため、先は見えない。
		設計事務所（職員）	・為替相場の動向が影響する。景気が良くなるような話はない。
		住宅販売会社（経営者）	・建築資材の値上がりと暑さが大きな要因である。
		住宅販売会社（従業員）	・夏枯れの時期である。イベントによる来場者は増えるが、契約は厳しくなる見込みである。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・今年も花火大会の手伝いをしたところ、なかなか寄附金が集まらず地場産業の深刻さがうかがえる。このところ経済格差が感じられるようになり、この先の地元産業が心配である。
	×	コンビニ（商品企画担当）	・秋以降、円安や異常気象等による原材料の値上げに伴い商品単価の更なる値上げが避けられない状況となる。想定を大幅に上回る販売価格の設定は避けられず、消費が冷え込むと予想する。
	×	一般レストラン（経営者）	・物価高が大きく影響する。
	×	住宅販売会社（従業員）	・大手だけでなく中堅の工務店や建材問屋も表情が暗い。
企業 動向 関連  (東海)		-	-
	○	窯業・土石製品製造業（社員）	・生産能力を増加できたため積極的に拡販活動を行っており、徐々に成果が出始めている。
	○	一般機械器具製造業（営業担当）	・北米での半導体製造への投資は盛んに行われているため、電子部品への設備投資も増えてくと予測する。
	○	不動産業（経営者）	・今後は前年同様に晴れの日が多くなる予報で、外出や遠出をする人は増加する見込みである。今後の売上は増加し前年を上回る状況と予測する。
	○	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・少し円高に向かい、多くの人がホッとしている。このまま1ドル120円までいけばよいが、なかなか安心はできない。パブル景気末期のように金利が高くなって国内景気がダウンしないよう、国の経済対策に期待する。
		食料品製造業（経営企画担当）	・猛暑後に残暑が長引くことで、秋冬商材への移行がスムーズに行われるか懸念している。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・円安が止まらず物価は上昇し続けている。自動車関連の動向も心配な状況であり、景気は今の悪い状態のまま推移する。
		化学工業（営業担当）	・半導体向け電材需要は、年内の大きな需要回復は見込めない。米国大統領選挙の結果によっては貿易摩擦等が発生するリスクがあり、先行きが不透明である。
		化学工業（総務秘書）	・円安が一服し、金利がある世の中に向かっていることは、直ちに景気への影響があるわけではないが、少なくとも悪化要素ではない。全国的な賃上げの実現が心理的に寄与している。
		金属製品製造業（従業員）	・慌ただしい状況が続くのか、それとも落ち着いてくるのか、業者間でも見方が分かれている。少なくとも好転していくとまでは思えない。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量の見込みから判断した。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・現在の社会状況が続けば、業績は安定して推移する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・物価の上昇が目立ち収入はそれに伴っておらず、景気は落ち込む見込みである。ただし、若干海外向けの動きはあるため、3か月先は微妙な時期になる。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・酷暑は続き、物価も上がり家計に余裕がない。
		建設業（役員）	・住宅に関しては、国の省エネ基準であるZEHなどが今後厳しくなるためコストアップにつながる。販売価格がますます上がるため、客の購入意欲への影響が心配である。
		輸送業（経営者）	・消費者の節約志向は継続する。
	輸送業（従業員）	・同業他社の経営状況に関して余り良くない話が入ってくる。荷量は思ったほど伸びておらず、2024年問題、燃料価格の高騰や人手不足など、特に中小の運送業者にとっては余り良い雰囲気ではない。先行きが不透明である。	
	輸送業（従業員）	・これといった景気対策がない。実質賃金も下がり、個人消費は低迷したままである。	
	輸送業（エリア担当）	・国内外を問わず経済的に上向きになりそうな指標が見当たらない。それに加えて日々の業務に携わるなかでも大きなプロジェクトや新規の案件がほとんどない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（エリア担当）	・ 運送単価は2年ほど前に1度若干上がったが、1度上げたことで荷主は今後上げる意思がないと感じる。同業他社が安値でも引き受けるため、運賃値上げは賃上げのようにはなかなか進まない。
		通信業（法人営業担当）	・ 地元では国道バイパス工事など、若干好景気とみられるところもあるが、住宅着工数が少ないなどいろいろな面でまだ景気は今一つと実感する。生活者の様子は物価の動きに非常に敏感で、家計に関わる景気の悪化がうかがえる。
		広告代理店（制作担当）	・ 秋に向けてのイベント等は、暑さが和らげば問題なさそうだが、再び少しずつ新型コロナウイルスの新規感染者数が増え始めているのが気になる。
		行政書士	・ 現状維持である。
		公認会計士	・ 人手不足や利上げなど、企業が投資を控える要因がまだ続く。猛暑や物価高騰により、個人消費もしばらくは停滞が予想される。政府による光熱費補助金施策が家計へプラスに働く要素もあるが、大幅な改善はされない。利上げが続くと、借入れを行っていた中小企業などのキャッシュフローへの影響も予想される。
		会計事務所（職員）	・ 春の賃上げと夏のボーナス支給が終わり、お盆休みを経て消費は一旦落ち着く見込みである。
		食料品製造業（営業担当）	・ 受注量、販売数共に減少している。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・ 中小企業に勤めていると、賃金上昇が物価上昇に追い付いていないため、どんどん生活が苦しくなっていると実感する。
		通信業（総務担当）	・ 先行きを明るくする要因が何もない。生活費のみ上昇して家計を圧迫している。生活費は今後も上昇していくと警戒している。
		通信業（法人営業担当）	・ 経済が上向く要素が見当たらない。第2次ベビーブーム世代の雇用者が定年に近づき、昨今の景気低迷から非正規雇用や失業のリスクと直結する。少子化や経済低迷で税収は減り続けるのに、生活保護費など行政の支出はこれまで以上に増えていく。既に止まらない負のスパイラルにあると感じる。
		金融業（従業員）	・ 取引先の様子では、景気悪化についてかなり深刻な話しぶりであり、足元のやや悪い状況から更に悪化するとみる。
		金融業（従業員）	・ 日本銀行の利上げ決定でプラスマイナス両面があるといわれているが、景気にとっては悪い面が目立ちやすい。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・ 新聞購読者数の減少と折込チラシの減少は続いているため、厳しい見通しは変わらない。
		会計事務所（職員）	・ 物価高の影響が、財布のひもが一段と固くなっている。商品の質は落とさずなるべく安く手に入れたい傾向がみられ、同業他社との比較で優位に立たなければ、なかなか購入してもらえない。結果として利益を削るか、仕入価格の見直しが必要となるが、仕入価格も高騰しており実際には難しい状況である。
		×	鉄鋼業（経営者）
	×	金属製品製造業（経営者）	・ 引き合いが減少している。原材料価格や加工品価格の上昇もあり、利益が減少する。
雇用 関連  (東海)		-	-
	○	-	-
		人材派遣会社（営業担当）	・ 40代の採用などメーカーの採用基準が拡大している傾向からも、設計開発の領域では人材ニーズが底堅い。
		人材派遣会社（営業担当）	・ 最低賃金の大幅な改定などもあったが、効果は限定的である。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・ 大手自動車メーカーの不正問題で一部車種が8月も生産停止状態である。以前は人材不足であったが、最近は派遣労働者が余り気味である。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ 円安のままであれば状況が良くなることはなく、現状維持の見込みである。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ 消費が回復しない限り、景気が上向いている実感は得られない。
		職業安定所（所長）	・ 最低賃金を見越した賃金の引上げ等はあるものの、求人の動きに変わりはない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・原材料費、燃料費や電気料金等の高騰と円安が継続しており、経営の先行きに不透明感が強まっている。
		職業安定所（職員）	・物価高や原材料価格の高騰等が続いており、特に中小企業における人手不足も継続しており、いまだ景気回復の兆しはみられない。
		職業安定所（職員）	・為替相場の状況や商品価格上昇の影響がどのように働くか、長期的に注視する必要がある。
		職業安定所（雇用開発担当）	・製造業を中心として、事業主都合の離職者が増加している。円安、原材料価格等の高騰や価格転嫁の難さなど先行きに不透明感がある。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・大手企業の採用は引き続き活況を帯びているが、求職者の活動意欲はお盆までは減退する。今後は年末や年度末の転職を狙いとした求職者が増えてくると想定する。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・大手企業の業績好調を反映し求人数は増加しているが、求職者数が頭打ちである。スタッフ稼働数としての伸びは求人数に比例せず、景気上昇までは期待できない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新卒採用については年度計画で動いているケースが大部分を占めており、2～3か月先に現状から大きな変化はない。
		人材派遣業（営業担当）	・自動車産業を始め各産業でコスト高の影響による利益率の下降や納期の遅れが今後も継続し、消費者への影響も継続する。
		人材派遣会社（社員）	・夏季シーズンが終わると別のイベントが予定されているが、現時点の予約状況は余り良くない。
		人材派遣会社（営業担当）	・派遣求職者数は減少傾向にあり、採用者数も減少していくと予想する。
		職業安定所（職員）	・雇用保険適用事業所数が前年同月比では7か月連続減少するなど、事業所の廃止等が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が減少している。
	x	人材派遣会社（社員）	・例年7月から8月にかけては求職者の動きが低調となる。加えて、事態が好転する要因が見当たらない。

## 7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北陸)		都市型ホテル（役員）	・市内の近くにあるホテルで販売価格が上昇している。足元では新型コロナウイルス感染が広がるが、夏のレジャーシーズンに向けた宿泊需要への影響はみられず、2名での利用を中心とした販売価格の上昇により、前期を上回る売上獲得を見込んでいる。
		商店街（代表者）	・少しずつ円高傾向になり始めたことで、どのような影響が出てくるか不安である。特に日本人の需要は周りを見ても冷えている感じがする。
		百貨店（売場主任）	・インバウンドや富裕層による旺盛な消費の動きはしばらく続くと見込んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	・買い控えしている現状から、今後は買換え需要に移行するとみている。
		商店街（代表者）	・マスコミで北陸新幹線の話が取り上げられる機会もめっきり減り、注目度も落ちてきている。2か月足らずで新幹線効果が薄れてきているのは残念である。
		商店街（代表者）	・休日以外は人通りが少ない。また、最近の傾向として宝飾品や高級服を扱う商店の売上が伸びていないようである。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・今は豚肉の売上が高い状態が続いている。引き続きこの状態が続き、牛肉の高価格帯商材における購買がなかなか進まないとみている。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・この先もネット通販が主となる状況が続くとみている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・良くはならない。景気の底はついたようだが、まだ悪くなる可能性もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売担当）	・夏休みの旅行客、帰省客のほか、祭りなど、街への集客は高めで推移するが、物品購買は当面、慎重になるとみている。店内でも友人や家族と過ごす飲食店などは比較的好調で、客単価が高価格になっている分、衣料や雑貨の節約にとどまらず、生活必需品も低価格商材に流れる傾向がある。定価品を扱う当店としては、苦しい状況が続くと考える。
		スーパー（店長）	・経済の状況が何も変わらないため、景況も変化がないと考える。
		スーパー（仕入担当）	・相場状況も落ち着きを見せ、販売単価の維持は可能になってくるとみているが、販売数量の回復は見込めない。イベント、催事の再開もあり、来客数の回復は期待できる。
		コンビニ（店舗管理）	・景気が好転する材料が見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・今後は景気が改善していくとは考えられず、厳しい状態が続くそうである。
		衣料品専門店（経営者）	・季節に影響を受けるアパレル業界は残暑が続くと秋物が売れにくい。
		家電量販店（店長）	・パリオリンピックが終わり、テレビなどの映像関連商品の販売が落ち込むとみている。
		家電量販店（店長）	・天候の影響もあるが、家計の出費を抑える傾向がみえ、前年と比較して客単価が下がっている。
		家電量販店（本部）	・補助金がなくなり、季節要因もなく、パリオリンピックも終わった状況で景気が上がることは考えにくい、足元の来客数が回復傾向なので、期待はしている。
		乗用車販売店（経営者）	・給与も多少上がったようだが、物価がそれ以上に高くなっている状況では、しばらくは景気は変わらないと考える。
		乗用車販売店（役員）	・今年の売上が急に増える状況ではない。
		自動車備品販売店（役員）	・新車販売の低迷と維持費の高騰、昨今の降雪量減少もあり、冬季関連商品の販売は厳しい状況である。飲食店関係の値上げも身近で多くなり、更なる消費減退が続くと考える。
		住関連専門店（役員）	・来客数が伸びる要素がない。そのための材料を自分たちで作って継続していかないと、景気の回復は見込めない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・良くなる材料が全く見当たらない状態である。このままの状態では商売をやめなければならないときが、すぐそこにやってくるように見える。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・個人消費の動向は依然として厳しく、景気が良くなる要素は少ない。
		高級レストラン（スタッフ）	・能登半島地震に対する復興支援の意味合いもあり、県外団体客の顕著な利用や受注が続いているが、物価高などにより、地元客による高単価な飲食店の利用は低調である。
		一般レストラン（店長）	・平均して、来客数が前年より順調に推移している。
		一般レストラン（統括）	・現状から、好調を維持するとみている。新型コロナウイルスの感染状況と、物価高や円安の継続が気になるが、現時点ではこの状態を維持できると考える。
		スナック（経営者）	・先々が不透明な状態である。自然災害や物価高などで、期待ができない。
		観光型旅館（経営者）	・8月以降も順調に予約が入っている。宿泊客数は減少しているが、宿泊単価は上がっており売上も上がっている。
		観光型旅館（経理）	・営業再開までにまだかなりの期間を要するため、状況は変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・8月は宿泊予約の入りは弱く、回復の勢いが弱い。北陸新幹線延伸の効果はみられない。9月は宿泊、宴会共に、予約が戻りつつあり、期待している。
		旅行代理店（従業員）	・宿泊単価や交通費の増加傾向を考えると、良くも悪くもならないとみている。
		タクシー運転手	・暑さの影響でタクシーの利用は引き続き多くなるとみている。また、観光客も好調に推移すると考える。
		タクシー運転手	・前年のタクシー運賃改正に伴い、一般客の乗り控えが続く、上がる予定だった運賃収入が横ばいで、先行きは厳しい。
		通信会社（職員）	・好材料が特に見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・前年と比較し販売量に大きな変化がみられない。景気が大きく変化する要因が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（役員）	・競合他社との競争が激しく、解約数が前年より増える状況が2、3か月後も続くと考え。また、契約者数も前年同月を若干下回る数字で推移するとみている。
		通信会社（役員）	・現時点では、景気変動の要因が見当たらない。
		テーマパーク（役員）	・前年同月と比べると、個人客の旅行動向がやや鈍さを感じるなかで、法人、団体旅行がやや増加傾向にあり、全体としては横ばいで予約状況が推移すると考える。
		その他レジャー施設 [スポーツクラブ] （総支配人）	・会員の微増により、若干会費収入の上乗せが見込めるが、それ以上に経費増加の負担が大きい。
		美容室（経営者）	・国内外の政情不安で前向きな気持ちになれない。唯一、パリオリンピック、大リーグの日本人選手の活躍だけが明るい気持ちにさせてくれるが、これも一時の気休めにしかならないため、大きな変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	・物価上昇に賃金上昇が追いついていないなかでは、短期金利の上昇が懸念されるという状況も住宅購入の強い追い風にはならず、もう少しこのままの状況が続くとみている。
		住宅販売会社（従業員）	・建築資材価格が不安定で、景気回復の兆しが見えない。
		住宅販売会社（営業）	・景気が変わる要素がない。建設コストの上昇に改善が見えなければ、景気が下振れする可能性もある。
		百貨店（販売促進担当）	・10月頃まで暑さが厳しく、秋物衣料の売上は伸びないとみている。そのため、夏のセールを早めに切上げ、8月には売場を秋物に切り替えることで販売期間を延ばし、売上の確保とかさ上げをしたいと考えている。
		スーパー（総務担当）	・光熱費の値上がりや物価上昇により、手元に残る現金の余裕はない。
		乗用車販売店（従業員）	・物価上昇の影響等で、新車販売数が増えないとみている。また、この後猛暑日が続くようであれば、来客数にも影響が出ると考える。
		競輪場（職員）	・昨今の車券売上が落ち込んでいる状況に加え、貯蓄の傾向が強くなることから、やや悪くなると考える。
	x	-	-
企業 動向 関連  (北陸)		-	-
		食料品製造業（経営企画）	・秋口以降は受注量、生産量共に、能登半島地震被災前の数字に近づいていくことを期待している。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車関連の生産回復により、四輪車用、オートバイ用共に製品の受注量が伸びている。また、円安も追い風となり輸出が特に良い。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・新規案件の引き合いが増加傾向にあり、徐々に新製品の受注が増えていくと見込んでいる。ただし、新型コロナウイルス感染症発生前と違い、客の発注決定のタイミングがこれまでに遅く、やや不透明である。
		輸送業（管理会計担当）	・物量の回復、運賃是正の進展を見込んでいる。
		金融業（融資担当）	・この先も品不足の解消、輸送の正常化、原材料及び経費高騰の価格転嫁は継続するとみている。加えて、食品関連は梅雨時期に雨が降り、暑さも例年どおりであるため作物の生育が順調で、観光や飲食関連が、地場やインバウンドの需要、能登半島地震からの復興などで堅調である。
		金融業（融資担当）	・足元は物価高騰で厳しい状況にあるが、一方で能登半島地震の震災復興需要や北陸新幹線延伸効果により、全体的には改善に向かうとみている。
		プラスチック製品製造業（広報）	・新築住宅着工戸数の減少、人手不足などで好転材料が乏しい。
		金属製品製造業（経営者）	・2、3か月先の分の注文状況から変わらないとみている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・良くなる材料が余り見当たらない。
		精密機械器具製造業（財務担当）	・足元の受注状況の傾向から、景況は変わらないとみている。
		建設業（役員）	・前年の実績と比較して、同水準の売上と利益が確保できるかどうか、現状では未確定な部分があり、先行きが不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業）	・現状と同様に、しばらくは活発な好景気が続くと考える。
		司法書士	・相変わらず人手不足で、建設業関連では新規受託ができないという声をきく。
		税理士（所長）	・全体的に持ち直してはいるが、年末にかけて円安の影響がどのように出るか不透明である。
		繊維工業（総括）	・調整局面が続いていたスポーツやアウトドア部門も底を打ったと期待する声がある一方で、10月以降の受注が不透明であるという声が多い。
		輸送業（経理）	・円安に伴う物価の上昇傾向が続いているため、やや悪くなるとみている。
	x	-	-
雇用 関連  (北陸)		-	-
		-	-
		人材派遣会社（社員）	・求職者数の変動はない。また、派遣先と求職者のアンマッチが続いている。
		職業安定所（職員）	・製造業の新規求人数が減少したものの、宿泊業及び飲食業の新規求人数が増加している。全体としては大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	・求職者数、有効求人倍率、就職者数等に目立った変動や新たな動きの兆候はみられないが、為替が150円から160円の間で推移するようになってきたため、原材料費、燃料費、光熱費等が安定し、求人数も徐々に増加に転じるとみている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・最低賃金が平均50円の大幅上昇と厚生労働省の審議会は取りまとめたが、物価高が続くなか、大企業の賃上げに反映されても、中小企業の給与が上昇しない限り、厳しい状況は変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・能登半島地震の影響、物価上昇、円安傾向が続き、状況が変わる要素や気配が見受けられない。
		人材派遣会社（役員）	・派遣先企業の見通しを聞いて総合的にみると、やや悪くなると考える。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告の出稿見込み数が減少している。
		職業安定所（職員）	・円安、原材料費高騰等により疲弊している事業所が多いなか、10月からの最低賃金の引上げが特に小規模事業所への打撃になるのではないかと考える。
	x	-	-

## 8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (近畿)		百貨店（サービス担当）	・夏季のイベントや催事が予定されているほか、猛暑対策商材を強化する。さらに、店舗のリニューアルオープン効果やインバウンドの増加傾向も続くため、前年実績を上回る状況が続くと予想される。
		スーパー（企画）	・所得の増加や堅調な企業業績により、株式市況の大幅な悪化は考えにくい。
		コンビニ（店員）	・暑いなかでも、引き続き多くの客が来店しているため、天候や季節に左右されず、年間を通して来客数の増加が続く。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・直営店では、欧米からの旅行客の来店が増えている。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・9月の大型連休頃の受注について、予約が徐々に入り始めている。
		一般小売店〔化粧品〕（経営者）	・インバウンドの需要が、関西の観光拠点に徐々に広がりがつづあり、来客数の増加が期待される。一方、現在好調のフレグランス商材の需要が更に増えるほか、ヘアケアやボディケアといったカウンセリング化粧品以外の商材で新たな開発が進んでいるため、市場の更なる拡大につながる。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・季節的に良くなっていくため、客の動きも良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販促担当）	・真夏は来客数の動きなどが懸念される。2～3か月先は気候にもよるが、少し暑さも落ち着き、消費意欲も旺盛になることが期待される。夏に少し控えた分、秋の味覚や旅行を楽しむ傾向が高まるなか、気候の予報にも敏感になるため、消費の場面を具体的に提案していくことが必要となる。
		百貨店（マネージャー）	・インバウンドの増加が主な好調要因であり、特に中国人観光客が徐々に増えている。今後もこの動きはしばらく続くことから、景気は少しずつ良くなると予想している。
		コンビニ（経営者）	・国内客、インバウンド共に、観光シーズンに入って来客数が10%ほど増えているため、売上も5%ほど増える見込みである。
		衣料品専門店（店長）	・価格の上昇による購入の停滞が続いている。月単位で上昇と下降が変化しているが、3か月などの周期でみると、若干の上昇が続きそうである。
		家電量販店（経営者）	・住宅省エネ2024キャンペーンの効果がしばらく続くと予想される。
		乗用車販売店（販売担当）	・夏物商戦もさる事ながら、9月の繁忙月に向けて商談が増えている。客の買い控えも目立たないため、提案活動をしつかりと行い、販売台数を伸ばしていく。
		乗用車販売店（支店長）	・物価の上昇は続くが、景気は良くなると予想される。ただし、来年の動向は不透明である。
		一般レストラン（経営者）	・暑さが和らげば人の動きが出てくるほか、働く人の時給が増えることで、外食の機会も増える。
		都市型ホテル（スタッフ）	・インバウンドの予約が好調である一方、国内客が伸び悩んでいる。一方、レストランや宴会場でイベントを行うと、ほぼ満席の状態となる。
		都市型ホテル（客室担当）	・海外からの個人客の動きが多く、高額での販売につながっている。
		都市型ホテル（フロント）	・円高の進行によるインバウンドへの影響が懸念されるものの、8月以降も国内のイベントは充実しているほか、ビジネス客も活発に動いているため、秋の行楽シーズンまでは好調が続く。
		都市型ホテル（客室担当）	・国内の旅行会社経由の予約は、店舗数の減少で想定を下回っているが、海外の代理店を含むWeb経由の予約は、想定を上回る動きである。
		通信会社（社員）	・例年どおりであれば、恐らく新型スマートフォンが発売されるため、販売数の増加に期待している。
		通信会社（営業担当）	・米国のハイテク関連株の下落や、円高の進行といったトピックがあるなか、日用品や光熱費の価格が下がれば、購買意欲は増えると予想される。
		その他レジャー施設 [ 飲食・物販系滞在型施設 ]（企画担当）	・暑さが和らげば、国内のレジャー客や観光客は戻ってくるほか、インバウンドの動きは引き続き堅調に推移すると予想される。
		商店街（代表者）	・特に目立った変化がなく、売上も横ばいが続いている。
		一般小売店 [ 時計 ] （経営者）	・食料品を含めて、様々な物の値上げが止まらない。生活をするための優先順位を考えると、時計の需要が良くなるとは考えられない。また、今年に入って頻発する自然災害も、購買意欲を大きく下げていると感じるため、なかなか良い方向にはいかない。
		一般小売店 [ 衣服 ] （経営者）	・ここ数年は、9月、10月になっても残暑が厳しい。本来であれば秋物商材を売るべき時期であるが、残暑の影響で秋物商材を販売する時期が短くなっているため、売上がなかなか伸びない。
		一般小売店 [ 貴金属製品 ] （従業員）	・気候要因で外出の減少が予想される。
		一般小売店 [ 衣服 ] （経営者）	・物価が上昇するなか、消費者の購買意欲が高まっているとは感じない。来店客からも、今後の生活に対する不安の声がよく聞かれているため、数か月後に景気が良くなるとはとても思えない。
		一般小売店 [ 野菜 ] （店長）	・インバウンドでにぎわっている地域は高額商品も売れるが、郊外では飲食関係も高額な商品は売れない。
		一般小売店 [ 呉服 ] （店員）	・呉服の需要は急に増えない。コロナ禍の収束後は少し良くなってきたが、新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増えてきたため、低迷している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔菓子〕 (営業担当)	・夏季休暇の前に、手土産の販売量が伸びることを期待している。
		百貨店(企画担当)	・免税品取扱額の状況次第で大きく変化するが、為替の変動などの影響も受けると予想される。
		百貨店(企画担当)	・仮に円高や株安の動きが進めば、状況が変わってくる可能性がある。
		百貨店(管理担当)	・インバウンド向けの売上が好調な一方、平場品が苦戦する状況が当分続くと予想される。
		百貨店(売場マネージャー)	・為替の動きなどが見通せないなか、個人消費への影響がどう出るかは予想が難しい。一方、酷暑が続く中で、今後は店頭の動きも変わってくる。
		百貨店(販売推進担当)	・夏のボーナス支給後の景気回復を期待したが、それほど盛り上がりはない。当面は、物価の上昇による買い控えが続くそうである。
		百貨店(外商担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が伝えられるなか、若干の行動制限につながる可能性もあるが、景気に悪影響が出る要素は見当たらない。
		百貨店(商品担当)	・為替の動きのほか、諸外国の政治情勢は不透明である。
		百貨店(マネージャー)	・当面は、今春の改装効果で好調を維持できそうである。ただし、今年は残暑が厳しくなるとの予想であり、特にファッション関連は秋冬商材の売行きが懸念される。
		百貨店(マネージャー)	・インバウンドや富裕層は好調を維持すると予想されるが、国内の中間層の消費マインドが大きく改善することはない。物価や原料価格の上昇が進むなか、消費者にとっての価値に基づくシビアな消費が続くそうである。
		百貨店(売場マネージャー)	・食品を除く衣料品関係の売上は、厳しい状況が続くそうである。まず天候面では猛暑が続き、来客数は減少するほか、商品の値上げや水道・光熱費の上昇の影響で、消費者の生活防衛意識は更に強まる。インバウンドの動きも為替の関係で不透明な部分があり、予測が難しい状況である。
		スーパー(経営者)	・今年はプレミアム付商品券の発行もないため、消費の増加が見込めない。
		スーパー(店長)	・1日トータルの来客数や単価が改善しなければ、全体の実績の改善にはつながらない。
		スーパー(店長)	・短期的に景気が良くなるとは考えられない。商品単価の上昇傾向が今後も続けば、現状並みの推移となる。
		スーパー(店長)	・好転する要素が見当たらない。
		スーパー(店員)	・毎日猛暑が続くことで、野菜への影響は更に出てくることから、非常に厳しい状況となる。
		スーパー(企画担当)	・競合先による影響もなく、今のままの推移が続くと予想される。
		スーパー(企画担当)	・スーパー以外のドラッグストアやディスカウントストアといった、競合先の出店が予定されており、影響は避けられない。一定の価格競争につながるため、売上、利益共に悪影響が予想される。
		スーパー(経理担当)	・米不足や猛暑による野菜価格の高騰など、今後の食費への影響が懸念される事象が続いている。消費マインドの低下や節約志向の高まりによる、景気への影響が懸念される。
		スーパー(販売促進担当)	・少なくとも8月から9月にかけて、今月と同じ傾向が続くと予想される。
		スーパー(企画)	・商品単価の上昇や来客数の増加傾向は、定額減税や夏季ボーナスの支給増により、当面続くことが予想される。
		スーパー(企画)	・食品の値上げが9月に再度実施される。10月からは最低賃金が5%程度の引上げとなるが、消費者が値上げに付いていけない状況から、景気は大きく変わらないと予想される。
		コンビニ(経営者)	・値上げラッシュが収まり、来客数も上限に近い状態が続いているため、売上はしばらく現在の高い水準で推移しそうである。
		コンビニ(店長)	・コロナ禍が落ち着き、比較的安定した売上を維持している。今後更に右上がりとなるためには、夏の暑さで、ソフトドリンクや冷たい調理麺といった商品が伸びる必要がある。暑過ぎて来客数が減るほど、気温が上がらないことを願っている。
		コンビニ(店員)	・生活への不安要素が多く、景気が上向き期待は持てない。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店員）	・高齢の客が多く来店する店舗であるため、常連客との会話では、年金が減ることへの不安の声が多い。また、1人暮らしで物をたくさん買う必要がないため、買物の意欲が減るとい客も多い。
		衣料品専門店（店員）	・気温の変動にもよるが、大きな変化はないと予想される。
		家電量販店（店員）	・9月は決算セール関連の需要もあるが、エアコンの動きは落ち着くため、景気の改善は見込めない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備依頼は順調であるが、新車の販売は良くない。
		乗用車販売店（経営者）	・物価の上昇による影響か、客の手がなかなか高額商品に伸びない。当社の仕入価格も上がる一方であり、より一層販売が困難になっている。
		乗用車販売店（役員）	・当社が扱っている輸入車の人気車種の供給が安定すれば、売上に大きな変動はない。単価が上昇しているため、販売台数の減少を単価の上昇で補う形になると予想される。一方、当社が対象とする富裕客は、景気に大きく左右されないものの、自動車以外の高額商品の購入を増やす傾向があるため、大きな伸びは期待できない。
		乗用車販売店（営業担当）	・抜本的な対策や支援がない限り、物価上昇の影響で消費の減少が予想される。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・円安の影響で物価が上がり、電気代やガス代も上がるため、景気にはマイナス材料となる。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・パリオリンピックなどの影響で、消費が鈍化する可能性はあるが、大きくは変わらないと予想される。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・秋の最低賃金の引上げにも期待されるが、物価の上昇も懸念されるため、何ともいえない。依然としてコロナ禍にも落ち着きが見られないなか、それも景気の不安材料となる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・物価上昇の影響がどこまで出るかを考えると、今後2～3か月で大きな変化はないと予想される。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・実用的な商品ではないほか、コストアップで価格も上がるなか、厳しい状況にある。当面、消費者は付加価値の高い商品に目を向ける余裕がないと予想される。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・夏物商材やボディケア商品は順調に動いているが、季節商材を除き、全体的には横ばいか、減少傾向となっている。本格的な真夏日が続き、飲料等を含む夏物商材の売上は順調に推移するものの、全体として大きな上昇要因は見当たらない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・パリオリンピックの開催で、需要の減少につながる。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・変動する要素がないため、変わらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・お盆期間は家族連れの大人数での予約が増えるが、それを過ぎると大きな変化はない。
		高級レストラン（企画）	・円安の影響で、インバウンドを中心に、客室単価は引き続き高い状態が続くと予想される。
		一般レストラン（経営者）	・コロナ禍を原因とした来客数の減少については、来客数が戻るまでにはもう少し時間が掛かる。また、人材不足や人件費、材料費、光熱費の上昇で、更に客の獲得競争が続いているなど、今後も不安な状態が続く。
		一般レストラン（店主）	・物価上昇の影響や、世の中の傾向もあり、大きくは変わらない。
		一般レストラン（企画）	・景気の良くなる要因が見当たらない。円安による公共料金、原材料費の増加が落ち着く気配はみられず、定額減税の効果にも期待できないため、現状が続くと予想している。
		一般レストラン（店員）	・今後は売上が増加する要素が見当たらない。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・大阪・関西万博に向けて人が集まってくるなど、プラス材料はあるが、厳しい暑さが売上に悪影響となる。
		観光型ホテル（経営者）	・経済情勢に変化はないため、好転する見込みはない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（経営者）	・8月から9月の先行予約状況は余り良くないが、間近予約の動きには期待できる。大きなマイナス材料もないため、例年以上の来客数を期待できそうである。
		都市型ホテル（管理担当）	・円安の影響で、インバウンド需要は今後も現状と変わらない動きを見込んでいる。
		都市型ホテル（総務担当）	・インバウンドの宿泊利用は続くと予想されるが、物価の上昇が続いていることもあり、国内客によるレストランの利用も鈍化が続きそうである。
		旅行代理店（店長）	・物価の上昇による実質賃金の減少が影を落とし、節約志向が高まっている。海外旅行も円高の影響で伸び悩み、行き先も近場のアジアが中心となっている。
		旅行代理店（役員）	・海外旅行では、円安の影響が少なく、価格も手頃であるアジア方面の人気がしばらく続く。ハワイや欧州といった高額な行き先の販売量が増えるのは、円安が落ち着いてからであり、まだしばらく先になると予想される。
		旅行代理店（支店長）	・株価の暴落や、円相場の不安定感から、可処分所得が増えても貯蓄に回す客が多く、消費になかなか回らない。パリオリンピックの開催で欧州方面に注目が集まることを期待しているが、客からはそのような動きはみられず、景気に大きな変化はない。
		タクシー運転手	・週末の繁華街では多くの客が見受けられる。夏休みや猛暑の影響もあり、今後も現状が続く。
		通信会社（社員）	・地域経済の回復状況は以前と変わらず、今後改善される兆しもない。
		テーマパーク（職員）	・景気が良くなるような対策が見当たらないため、好転する期待を持ってない。
		観光名所（企画担当）	・コロナ禍からの回復による、来場者数の増加も落ち着いてきた。内容としては、外国人客は若干増えているが、国内客が若干減っている。
		遊園地（経営者）	・現在の行動パターンが変化するような要素が見当たらない。
		競輪場（職員）	・大きく回復する要素はないものの、大きく落ち込むこともない。
		競艇場（職員）	・全国発売のSG、G1競走の売上は、3か月前とほぼ同水準となっている。コロナ禍の収束後、売上は少し減少傾向にあるが、高水準であることは変わらない。この先、しばらくは現状維持が続くとみられる。
		その他レジャー施設 〔イベントホール〕 （職員）	・イベントは順調に開催されているが、それに伴う経費が一般的に高くなっており、実質的には利益が減少している。物価の上昇や人手不足による人件費の高騰など、厳しい環境が今後も続くことから、簡単に景気は回復しないと予想される。
		その他レジャー施設 〔球場〕（経理担当）	・夏休み期間となり、8月にはプロ野球の人気球団の試合が6試合開催されるほか、人気グループのコンサートもあるため、前年並みの来場者数を期待している。
		その他レジャー〔スポーツ施設〕（業務担当）	・金利が0.25%に引き上げられたことで、どのような影響が出るかを注視したい。
		美容室（店員）	・更なる単価の上昇や、高額商材の販売が見込めるわけではないため、状況は大きく変わらない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・金利の上昇で景気がどの程度減速するかにもよるが、大きな変動要因はないため、景気の変化はないと予想される。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・今月の給与明細には定額減税として1万円が記載されていたが、手取額の増加はそれほど実感できず、生活が楽になることはない。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・新築住宅におけるコストの上昇や、土地価格の高騰の動きは続く見込みであるが、海外からの需要や富裕層の動きなどで、現状からの大きな落ち込みはないと予想される。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・各地での災害級の豪雨で、交通機関にも影響が出るなど、全国的に問題が増えている。さらに、お盆や夏休みの関係で、余計に商品の動きは悪くなる。
		一般小売店〔花〕（店長）	・暑さで外出を控える動きが増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・8月も値上げが続く見込みである。一部の製造業などでは大幅な値上げもあるが、大多数の企業では、物価の上昇を上回るような値上げはできていない。消費者が生活防衛に動くのは当然であり、今後も小売業の苦境は続く。
		百貨店（外商担当）	・日米間の金利差が縮小する見込みであるため、円高の進行につながる。それに伴い、インバウンド売上もかなり落ち着くことが予想される。
		百貨店（売場統括）	・免税売上の前年比伸び率が鈍化するなか、日本の金利上昇や米国での前大統領の再登板などで、更に円高が進むことが予想されるため、更なる免税売上の減少が懸念される。
		百貨店（商品担当）	・平均気温の上昇で、9月、10月の秋物衣料の販売が年々厳しくなっている。今年の猛暑では、その傾向が一段と進んでいる。さらに、メーカー各社が在庫を持たなくなっていることで、数少ない売れ筋商品の欠品が予想されるほか、需要喚起策の効果も薄い。ひとまずは食品イベントを強化し、売場の鮮度を維持したい。
		百貨店（宣伝担当）	・これまで当県に集中していたインバウンド需要が、オーパーツリズムの影響で周辺地域に分散することが予想される。それに伴い、広域での集客に取り組んでいるが、すぐに効果は出ることはない。また、国内客の獲得も課題であるが、市場の縮小が続くなかで厳しい状況が続く。
		スーパー（開発担当）	・中小企業の多い当地域は賃金の上昇が見込めず、景気が良いとはいえない。
		スーパー（社員）	・生鮮品価格の上昇もあり、1人当たりの買上額は何とか前年並みを維持しているが、今後は買い控えが進み、買上額の減少が予想される。
		コンビニ（経営者）	・例年7月、8月は忙しいが、9月になると一気に売上が減るため心配である。現状の好調が続くことを祈っている。
		コンビニ（店員）	・夏休みのシーズンが終わるため、旅行者が減る。
		家電量販店（店員）	・今後も良くなることはないが、円安がどこで止まるかによって、景気の回復が望める可能性はある。ただ、先行きの見通しが立たないのが現状である。
		家電量販店（企画担当）	・旅行や帰省に関する消費が増えるため、猛暑は続くとの予報であるが、家電の消費は止まると予想される。
		家電量販店（人事担当）	・酷暑に伴う気温の上昇で、外出を避ける動きが出始めたため、来客数の減少が懸念される。
		乗用車販売店（経営者）	・値上げ効果は予想したほど出でならず、むしろ物価上昇の影響で、個人消費が減退傾向にある。
		乗用車販売店（経営者）	・米国大統領選挙の行方や、長引くウクライナやロシアの紛争、イスラエルのガザ地区での紛争など、世界的な不安要素が解決しなければ消費の気運は高まらない。米国や日本の株価は高いが、経済の実態とはかけ離れている。
		乗用車販売店（販売担当）	・生産台数が減少している。
		住関連専門店（店長）	・当社の事業は、経済政策や為替相場の変化の影響をダイレクトに受けるため、日本銀行による金利の引上げという大きな変化が、消費者にどのような影響を及ぼすのかを注視している。特に、増えつつあった富裕客の消費に水をささないか心配している。
		観光型旅館（団体役員）	・需要の最盛期である夏が終わると、かなり閑散とする傾向となる。
		旅行代理店（従業員）	・物価の上昇により、国内旅行を控える傾向にある。
		タクシー運転手	・政府が経済対策を打ち出しているが、個人の所得が増えるようなアイデアが求められる。
		通信会社（経営者）	・今後も原価の上昇が予想される。
		通信会社（役員）	・キャリアショップの運営は、通信キャリアの設定する代理店手数料で状況が大きく変わる。直近は第2四半期以降の手数料施策が厳しく、客の購買動向よりも大きな影響を受けている。
		ゴルフ場（支配人）	・現状の入込客数は徐々に減少しており、今後もやや悪くなると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・今は中学生の受講が多いが、次のテストの結果次第では塾に移行する家庭が増えそうである。現状は掛け持ちの生徒も多く、3教科だけの受講で、割高感のある当サービスが削られると予想される。
		住宅販売会社（経営者）	・地価の上昇に調整が入るなど、市場の動きが少し冷めてくると予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・金利の引上げによる住宅ローン金利の上昇で、返済負担の増加につながるため、消費マインドの低下が懸念される。
		住宅販売会社（総務担当）	・所得の増加が、予想したほど進んでいない。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・建築単価の上昇傾向により、消費マインドの低下が更に加速する。
	×	百貨店（売場主任）	・急激な円安に歯止めがかかり、インフレもやや後退しそうであるが、一旦値上げした商品が値下がりするとは考えにくい。年金受給層の客が多い、郊外店である当店では、当面は厳しい局面が続くと予想される。
	×	衣料品専門店（経営者）	・実質賃金が減っているため、購買意欲が低下している。
	×	衣料品専門店（経営者）	・旅行や食事会のために、服を買うゆとりがなくなっている。
	×	家電量販店（店員）	・全体的に商品の価格が高騰するなか、やはり購入の検討期間が長期化している。
	×	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・暑さの影響で外出が減っているほか、物価の上昇もあって悪くなる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・売上の減少とコストアップの二重苦となり、先行きの見通しは明るくない。
企業 動向 関連  (近畿)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取扱商品の季節特性で、人の移動が増える9月頃には需要が増える。
		繊維工業（総務担当）	・日本銀行が金利を上げる方向に政策転換する期待感から、円高方向に徐々に動くことが期待される。
		木材木製品製造業（経営者）	・今まで木質チップとともに、木質燃料の輸入販売も10年前から続けてきた。ただし、いつも製造業者が途中で事業を継続できなくなるなど、供給が非常に不安定で困っていたが、最近では真面目な業者が出てきた。量的にも当社が希望する数量の供給が可能であるなど、事業が安定に向かうことを期待している。後は為替の動向が大きな問題となっている。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・イベント関連の問合せが引き続き入っているため、受注は増加が続くと予想される。
		化学工業（経営者）	・業況の厳しい取引先が多いことには変わりはないが、一部の取引先では持ち直しの兆しがみられる。
		化学工業（企画担当）	・食品の需要が減る時期であり、今年は特に酷暑の状況であるが、販売量は減少していない。秋の需要期には、更に販売が活発になると予想される。
		広告代理店（営業担当）	・Web広告、紙広告共に、売上が前年を上回る状態が続いている。
		広告代理店（営業担当）	・10月以降は良い話も出てきているなど、少し改善が進むことが予想される。
		経営コンサルタント	・オーバーツーリズムによる弊害をいかに防ぐかが課題であるが、観光客の消費やそれを狙う企業の投資は更に活発化している。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・猛暑は例年のことであり、消費者には慣れがみられる。それに伴い、駅ナカ店舗も客足は落ちておらず、夏物商材が10月初旬までは売れると予想される。
		食料品製造業（従業員）	・今後は再値上げを予定しているが、値上げが浸透しているなかで、影響は少し出ると予想されるが、現状維持は可能である。
		食料品製造業（営業担当）	・連休に伴うインパウンド効果で、飲料の売上増加が期待できる一方、平日の購入は余り良くないため、全体としては変わらない。
		繊維工業（総務担当）	・消費動向次第で好転が期待されるが、商品の差別化や販売方法の見直しを更に進めなければ、落ち込みを防げないため、新商品の開発に注力している。
	化学工業（管理担当）	・取引先の発注見込みなどから、やや好調な状況が続くと予想される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		プラスチック製品製造業（経営者）	・市場は新規案件への移行時期でもあり、しばらくは様子見となるため、現状維持が続く。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・今春は賃金のベースアップが実施されたが、円安傾向のなかで物価の上昇も続いている。業界での人手不足対応も喫緊の課題となるなか、身の回りの景気は変わらないと予想される。
		一般機械器具製造業（経営者）	・直近の引き合い状況は活発さに欠けるなど、景況が好転するような気配はない。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・物価の上昇が落ち着かなければ、景気動向の見極めは難しい。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・季節的に良くなる要素がないほか、消費も落ち込むことはなく、底固い印象を受ける。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・9月から政府の補助で電気料金が値下がりとなるが、一時的なものであるため、財布のひもは固いままとなる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・何もかもが値上がりしており、良いことが全くない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・大型案件がないほか、引き合い件数も少ないため、受注全体が増えていない。
		建設業（経営者）	・しばらくは現状が続くそうである。
		建設業（経営者）	・一部の建設資材価格の高騰や、不安定な納期、技能労務者不足が深刻な問題である。大阪・関西万博の建設工事も本番となり、国家プロジェクトとして優先的に建設資材や技能労務者が集められる可能性もある。
		輸送業（経営者）	・今以上の大きな注文が入っていないため、余り変化はないと予想される。
		輸送業（営業担当）	・商品の値段が下がらなければ、売れなくなっている。
		輸送業（営業担当）	・お中元の運賃の値上げに伴い、商品が価格の安い物に変わった客からは、今後お中元などの贈答をやめるという声が出ている。
		通信業（管理担当）	・毎月のように行われる商品の値上げで、買い控えにつながっている。ただし、気温の上昇で総菜が売れるなど、若干上向く傾向にも期待される。
		金融業（営業担当）	・為替が若干円高に向かっているものの、1ドルが150円以下となるには時間を要するなど、今後も景気が良くなる見込みは乏しい。
		司法書士	・変動要因が見当たらないため、状況は変わらない。
		その他サービス[自動車修理]（経営者）	・物価の上昇で材料費が上がっている一方、工賃は上がらないため、厳しい状況となっている。
		その他非製造業[機械器具卸]（経営者）	・いまだに商品の値上げが続いているため、値上げが落ち着くまでは、景気が前向きに動き出すことはない。
		金属製品製造業（経営者）	・自動車関連、建築土木関連共に、回復の期待が薄れている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体業界は今後も発展が予想されるが、国際情勢は先が見通せないほど不安定であるため、先行きには確信がもてない。
		建設業（経営者）	・労働時間が減少する一方、人件費は上がるという厳しい経営環境のなか、設備投資の意欲が高まるとは考えられない。
		輸送業（商品管理担当）	・夏は酒の販売が落ち着くため、売上は減少していく。
		不動産業（営業担当）	・1階の物販店舗などの撤退が続いている。ネット通販などの影響が今後も増えるなか、景気の悪化が予想される。
	×	金属製品製造業（営業担当）	・主な原材料である、鋼材価格の値上げは認められたが、その他の労務費や資材コストの上昇については、なかなか価格転嫁が進まない。特に、自動車業界では単価の1.5%までしか転嫁を認めないという、根拠が不明な規準が横行している。このままでは実際の半分程度しか転嫁できず、採算の悪化が進む。
	×	その他製造業[履物]（団体職員）	・インフレによる買い控えが影響し、市場の動きが鈍い。
雇用関連		人材派遣会社（支店長）	・大阪・関西万博関連の求人が、徐々に動き出している。
(近畿)		人材派遣会社（管理担当）	・少なくとも大阪・関西万博までは、現状が継続する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（支店長）	・下期に入れば、状況は少し変わると予想している。
		人材派遣会社（営業担当）	・お盆明けには求人にも動きが出てくることで、求職者も動きそうである。
		職業安定所（職員）	・7月の求人の申込数が、前年の2割近く増えている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・秋冬のインターンシップ等のプログラムに向けた動きが増える時期となるため、イベントの出展や広告掲載が増えると予想される。
		人材派遣会社（役員）	・政局が景気に影響する可能性があるが、その時期はもう少し先になりそうである。
		人材派遣会社（営業担当）	・事務系の求職者数は多いが、企業からの求人は少ない。その一方、スペシャリスト求人はこれから給与が増加し、求人も増えていくと予想される。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・米大統領選挙やパリオリンピックなど、大きなイベントがあることで世界的に景気が不安定になっている。一方、国内ではインバウンド需要の増加が最高潮となっている。それ以外に上向き要素は見当たらないが、インバウンドが減少しない限り、特に3か月後も状況は変わらないと予想される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・関西企業からの新聞広告やデジタルメディアへの出稿は、現状とほぼ変わらない水準を見込んでいる。
		職業安定所（職員）	・6月の新規求職者数は前年比で減少となった。ただし、配置転換や就労時間の変更、体調不良などで転職を検討する、在職中の新規登録者が増えている。
		職業安定所（職員）	・企業の人手不足感は依然として強い。高齢者による就職への意欲は強いが、企業の需要と合わないミスマッチの状況が続いており、採用にはつながらない。
		職業安定所（職員）	・一定の求人数はあるものの、求職者数が減らないため、状況の変化はないと予想される。
		民間職業紹介機関（職員）	・厳しい人手不足から求人数が増える可能性はあるが、受注の動きが鈍い傾向は続きそうである。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の早期採用気運は感じられるが、採用者数は大きく変わっていないため、景気に特段の変化はない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の人手不足は深刻であり、2～3か月程度では変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新型コロナウイルス感染症のワクチン接種にかかる費用負担がばかにならない。高齢者の負担は大変であり、政府の新型コロナウイルス感染症対策も再構築が求められる。
		その他雇用の動向を把握できる者	・政策金利の上昇により、企業の借入れコストに影響が出る。
	x	*	*

## 9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (中国)		*	*
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・今より少し涼しくなれば、外出する人が少しずつ増加する。
		百貨店（広報担当）	・高額品の動きが引き続き堅調であり、夏ボーナス、今春の値上げ効果が徐々に出てきていると見受けられる。また、8月から10月には政府による電気・ガス代の補助金が再開するため、景気はやや良くなるとみられる。
		百貨店（売場担当）	・秋からの行楽や外出シーズンは、前年より良い状態で迎えられると予想する。大手米国紙で行きたい街として選ばれ、良いシーズンを迎え、ますます人流が活性化される。
		スーパー（業務開発担当）	・季節要因が大きく、暑くなれば、調理に時間を掛けない総菜や冷麺・そうめん類、水分を多く含むスイカなどが前年より早く伸びてくる。
		家電量販店（店長）	・季節商材と旅行関連の動きが良い。
		乗用車販売店（営業担当）	・生産停止の解除、商品改良、新型車発売など、景気に関する前向きな要素が増えている。
		乗用車販売店（営業担当）	・ここ数か月の景気の状態が良かったため、現在は逆風を受けているが、策を打って乗り切りたい。今後の市場の景気状況に期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（事業戦略担当）	・予約状況が良い。
		一般レストラン（経営者）	・夏のボーナス支給後は少し景気が良くなると考えられるが、物価高もあるため、良い状況は長くは続かない。
		バー（経営者）	・景気が徐々に回復している傾向がみられる。
		都市型ホテル（宿泊担当）	・レジャー客の動きが活発になる見込みであり、インバウンドの増加に期待している。
		都市型ホテル（総支配人）	・夏場の猛暑予想により足元は伸び悩むが、例年10月以降はMICEのシーズンを迎え、先行予約も堅調に推移している。また、来年秋のテレビドラマの主人公が当地にゆかりのある人物に決定したため、今後の露出の高まりによる観光需要の増加を期待する。
		旅行代理店（支店長）	・団体旅行は国内を中心に若干受注が増加する見込みだが、個人旅行の秋需要回復に期待する。
		テーマパーク（営業担当）	・猛暑で閑散期に入るが、中学生以下の無料化開始で平年以上を見込む。
		テーマパーク（業務担当）	・秋からアウトドアシーズンに入り、週末の予約は上々である。雨予報が出ない限り、来客数は前年並みとなる。
		観光名所（観光振興担当）	・9月から3か月間イベントをする。
		設計事務所（経営者）	・来場者数の増加が見込めるため、景気は少し良くなる。
		商店街（代表者）	・商店街に出店問合せが増えてきている。新しい業種や商店街になかった年齢層の集客につながる店舗が増えると街の雰囲気も変わるかもしれない。最近、飲食店の開店があったので、それに期待する。
		商店街（理事）	・天候不順が続き、景気が良くなる材料が余りないため、厳しい状況が続く。
		一般小売店〔食品〕	・販売数量と来客数は減少しているが、単価が上昇しているため現状維持の状況が続くとみられる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・先行きは不安である。
		百貨店（広報担当）	・特に景気が改善する要因が見当たらない。
		百貨店（営業担当）	・メーカーは売上がかなり増えないと、多くの商材を製造できない。期間限定で開設される店で一時的に売上が増加しても、既存ブランドの売上が増加しないため厳しい。
		百貨店（営業担当）	・物価高の影響もあり、しばらくの間、景気に回復の見込みはないとみられる。本当に必要な商品しか購入しないという客の意識は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・景気に明るい兆しがみえない。
		百貨店（外商担当）	・今後も特に大きな変化はなく、前年並みで推移する。
		百貨店（売場担当）	・減税やボーナス支給などで、消費マインドが高まる方向になるはずだが、客単価や販売金額になかなか反映していない。当面はこの傾向が続く。
		百貨店（総務・経理担当）	・現段階で景気が良くなる特殊要因は見当たらない。
		スーパー（店長）	・ようやく来客数が前年を上回ったが、今後は現状を維持するのが精一杯である。
		スーパー（店長）	・秋にパート賃金の上昇があるが、物価上昇もあり景気が回復するとは考えにくい。
		スーパー（店長）	・前年よりは、回復傾向となる見通しもあるが、基本的な部分の来店頻度は変わらないとみられる。猛暑による影響がどちらに転ぶかは不明だが、大幅に回復する要因は現状では見当たらない。購入が低単価の商品に集中しても、点数の増加にはつながらないとみられる。
		スーパー（総務担当）	・天候の影響もあり、景気に回復の兆しがみられない。
		スーパー（販売担当）	・客の節約志向は根強く、お買い得品目当ての客が多い。
		スーパー（販売担当）	・物価が上がりがり続けており、補助金等も多くは見込めず、出費よりも貯蓄に回ると考える。
		コンビニ（エリア担当）	・前月の終わりから少し増加した工事関係者が、たばこや弁当を購入しているため、全体の売上が押し上げられている。ただし、この状況がいつまで続くか分からないため、今後は景気がどうなるかは分からない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・政府の電気・ガス代の補助金が再開するが、期間限定であるため大幅な改善はないと考えられる。賃金が上がっても物価高騰には追い付いていない。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・コロナ禍が明けての来客数の上昇は落ち着いており、現状の問題は単価の改善である。店舗ごとのファーストフードの製造を強化することで利益率の改善を図ることも大切になっている。
		コンビニ（支店長）	・大幅に消費が拡大する要因が見いだせない。
		衣料品専門店（経営者）	・今月も客と一緒に着物で祭りに出掛けるなど、客が外出する機会が徐々に増加している。
		衣料品専門店（代表）	・1度きりの定額減税で景気回復する見込みはない。
		家電量販店（店長）	・暑い時期が長く続きそうなので、エアコンの買換えや増設に期待している。
		乗用車販売店（統括）	・メーカーの供給量がまだ足りていない。
		乗用車販売店（店長）	・新型がなく、既存の製品だけでの勝負になる。
		乗用車販売店（業務担当）	・限られた車種での販売では今後も現状が継続していくとみる。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・当店が扱う商品はいわゆる買回品で、なかなか売上増加とまではいかないと思う。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・いろいろな商品の価格が上がっており、観光をしても土産などの出費は控え気味となる状況が続くとみられる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・円安、株安、猛暑等、不明瞭な与件が多い。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・今後の天候にもよるが、気温が高いと外出を控える客が多くなると推測される。近隣のイベントによる相乗効果を期待しているが、気温が高くシャワー効果が薄い状態である。また、物価の上昇イメージが根付いているのか、高額商品やまとめ買いの客が少なく、客の財布のひもは固くなっていると感じる。
		一般レストラン（経営者）	・対策をしても同じことの繰り返しで明るい兆しがみえない。
		一般レストラン（店長）	・天候は何とも言えないが、インバウンドは比較的好調で、順調に予約も入っているため、ある程度、前年同様の売上は確保できると考えられる。
		観光型ホテル（営業担当）	・今年の将来景気は読みにくい。
		観光型ホテル（副支配人）	・秋の行楽シーズンに向けて、年配者の日帰り宴会の予約が順調に入っている。
		タクシー運転手	・景気が悪くなるとは思わないが、良くなる明確な要因も見当たらない。
		通信会社（企画担当）	・身の回りの物価上昇は続いているが、客がそれに慣れてきているのか、家計を引き締めるだけではないようであり、今後もこの傾向が続くと予想する。
		通信会社（営業担当）	・円安が落ち着いたとしても、市場にその効果が表れるまで時間が掛かる。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・定額減税、電気・ガス代の補助金で家計補填がされるが、その影響は未知数である。
		ゴルフ場（営業担当）	・天候に左右されると考えるが、9月以降の予約状況は前年より若干良いため、少し来場者が伸びると予測している。
		競艇場（企画営業担当）	・売上は現状からほぼ横ばいとなる。
		美容室（経営者）	・2～3か月では、客が極端な節約に走ったり、客の給料が大幅に増加して生活のレベルが向上したりすることがないため、景気は変わらない。
		美容室（経営者）	・景気が良くなる様子が全くない。
		設計事務所（経営者）	・建築業界の人手不足と建築費高騰により、引き合いがあってもなかなか前に進まない。
		住宅販売会社（従業員）	・今後の景気を左右するような大きな展望が見当たらない。
		住宅販売会社（事業推進担当）	・関連業者へのヒアリングでは、景気が更に悪くなる可能性はあるが、良くなる見込みは皆無であるとの意見が多い。
		住宅販売会社（住宅設計担当）	・顧客の情報量に大きな変化がみられず、回復兆候がない。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く残っており、客が来店しても商品を購入してもらえない。
		商店街（代表者）	・物価上昇の影響で、客の節約志向が予想以上に続いている。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・円安から円高になっても、1度上がった固定費や商品価格は下がらない可能性が高く、逆に借入金利が上がり、経営を圧迫するのではと懸念する。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・猛暑の時期は仕方ない。秋風が吹くまで我慢しかない。
		スーパー（店長）	・客が買い控えし、買上点数が前年を大幅に下回っているが、客単価は前年を上回っている。
		スーパー（店長）	・電気料金の高騰等で客の節約志向が強まっており、割引日などに客が集中している。
		スーパー（営業システム担当）	・9月から10月と値上げの連絡が多数ある。電気料金など生活に必要なものの物価の上昇が止まらず、食品関係の消費の増加は厳しい。雑貨関係も消耗品はこれまで以上に安価な商品を選ぶようになるとみられる。
		スーパー（財務担当）	・物価の上昇により、客の節約志向がますます強まり、低価格志向による買い回りと1人当たりの買上点数の減少により、売上が低下する。
		家電量販店（販売担当）	・暑さが落ち着くと売上が落ちてくる。
		家電量販店（企画担当）	・今は暑いため、一時的に季節商材が売れているだけで、8月以降は売上が伸びない。
		家電量販店（副店長）	・エアコン需要がなくなったとき、売上が低迷するとみられる。来客数が伸びていないのも課題である。
		乗用車販売店（リース担当）	・景気が良くなる話を聞くことがないため、今後、景気は徐々に悪くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・車両生産納期は回復し、新型車の発売も好調である。しかし、車両本体価格や用品の値上げがあり、見積金額に驚き、慎重になる客が多い。今後の販売台数に影響を与えることが懸念される。
		乗用車販売店（店長）	・半期決算時期であるが、マンパワーが足りていない。今はフォローできている状況であるが、拡販時期の業績拡大には課題が残っている。
		自動車備品販売店（経営者）	・輸入製品を多く使用しているため、円安により原価の上がり方が売上より早いと利益を圧迫している。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・更に暑くなると、景気に悪影響が出る。
		一般レストラン（経営者）	・7月に入り、輸入食材の主軸である牛肉や豚肉が再度値上がりしたが、対応が追い付かず、利益の確保が困難になっている。今後2～3か月は売上が減少する時期であり、10月に従業員の平均時給の引上げを実施すると、経営面でかなり苦戦する。
		都市型ホテル（総支配人）	・レストランの需要が弱い点に加え、8～9月の宿泊の予約ペースも前年と比べ落ちてきている。
		旅行代理店（経営者）	・海外旅行は元々円安で激減していたが、国内も天候不順により旅行取消しが続出している。
		タクシー運転手	・観光が好調で、高額なボーナスが支給されたようなので、多少景気が良くなることを期待できるが、良いことは余り続かないため、景気はやや悪くなる。
		タクシー会社（営業所長）	・お盆を迎え、移動が減るなか、観光も他地域と比較し目玉となるものがなく、期待が持てない。
		通信会社（工事担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大により、景気は良くならない。
		通信会社（広報担当）	・物価高騰により、余り購買行動につながらない。
		美容室（経営者）	・光熱費を含め、物価高騰の影響が少しずつ出ているようである。賃金の上昇よりも物価高騰や増税の影響の方が大きいと、景気はやや悪くなる。
		設計事務所	・設計を進めても工事を引き受ける枠が限られていて、待ち状態になると想定される。
	×	住関連専門店（営業担当）	・この1年間、客の動向はほとんど変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連  (中国)		輸送用機械器具製造業 (経営者)	・秋に向けて増産する予定である。
		化学工業(総務担当)	・自動車業界を中心に徐々に業績が回復すれば、景気は少しずつ良くなっていくものとみられる。
		非鉄金属製造業(業務担当)	・自社の資材調達や設備投資等を抑制している雰囲気ではない。
		輸送業	・受注が増えている。
		金融業(経済産業調査担当)	・賃上げの顕在化や休暇を通じて、個人消費がやや持ち直すと予想する。
		農林水産業(従業員)	・景気が好転する要素がない。
		繊維工業(財務担当)	・金利の上昇による経済効果が不透明である。
		木材木製品製造業(経理担当)	・一部で住宅市場の回復はみられるが、勢いは小さく、現時点では変わらない状態が続く。為替動向や金利の上昇も今後の景気を左右すると考える。
		化学工業(総務担当)	・景気は為替の動向が左右する。
		窯業・土石製品製造業(総務経理担当)	・一部の品種では輸出向け受注が下支えしているが、生産量の大きな変動は見込めない。
		鉄鋼業(総務担当)	・人手不足や物流の問題は継続的な課題であり、大きな変化はない。
		金属製品製造業(総務担当)	・工作機械業界は今年後半に向け上昇する見込みであると聞いているが、案件は増えておらず、秋までは現状のまま推移すると想定している。
		一般機械器具製造業(管理担当)	・円安や物価高の状況が大きく変動する要素が見つからない。また、国内では人口減少による消費の減少もあり、景気が上向く傾向がない。
		一般機械器具製造業(総務担当)	・受注量や販売量の動きに変化はない。
		電気機械器具製造業(総務担当)	・機械装置や電子部品実装等は中国などの現地経済も減速しており、当面は調整局面が続く見通しである。
		建設業	・物価上昇が今後も続いていく。
		建設業(経営者)	・設備投資の引き合いが減少していないため、金利が上がっても今の状態は続く。
		建設業(総務担当)	・価格転嫁や工期設定で、客に受け入れられやすい環境になっている。
		輸送業(業務推進担当)	・特に景気に関する大きなプラス要素もなく、取引先に目立った動きもない。
		輸送業(営業担当)	・秋の新規見積り依頼等が少なく、大きな変化の兆しはない。
		通信業(企画担当)	・客や取引先の様子を見る限り、計画的な購入や投資をしており、現状は今後も変わらないと感じている。地政学リスクもこのところ落ち着いており、しばらくは現状が継続するとみられる。
		不動産業(総務担当)	・賃貸住宅の需要が落ち着く時期となるため、景気は余り変わらない。
		広告代理店(営業担当)	・賃上げや夏のボーナスにより、景気は多少持ち直しているようであるが、そうではない企業があるのも事実で、厳しい状況に置かれているのは変わらない。
		会計事務所(経営者)	・物価高や人手不足はますます悪化している。景気は短期的には回復しない。
		食料品製造業(経営者)	・8月から9月まで暑い日が続くようで、秋冬商材の取扱時期が遅くなるのが懸念され、消費は減少し、厳しい状況が続く。
		輸送用機械器具製造業(経理担当)	・販売先の内示情報から判断すると、景気はやや悪くなる。
		金融業(支店長)	・元請先からの価格転嫁は認められず、更なる原材料価格の高騰が続けば景気は悪化する。
	x	-	-
雇用 関連  (中国)		民間職業紹介機関(人材紹介・派遣担当)	・ボーナス時期もあいまって、問合せ件数は増加傾向にある。
		求人情報誌製作会社(総務担当)	・お盆を迎え、求職者による問合せの増加が期待できる。それに伴い、企業の求人ニーズが高まり、広告費等の費用増を期待する。
		学校[短期大学](進路指導担当)	・保育関係の就職活動が今月より活発化しており、今後はこの傾向が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（事業部長）	・労働市場に与える影響が大きい自動車生産は、今夏以降、余り強気な計画が出ていない。
		人材派遣会社（経営企画担当）	・時給の上昇が続いており、今後、人材派遣の利用を控える企業の動きが出てくるのではないかと予想している。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・今後も変わらず良い状況が続くとみられる。今年以上に金を掛けなければ採用できないと考えている企業が増加しているようである。1日仕事体験やインターンシップは8割の企業が実施する見込みである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・一部の企業は今後も好調を維持すると見受けられるが、住宅、自動車販売が振るわない状況がいずれ悪影響を及ぼすと予測される。雇用状況も各業界で省力化が進行している。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は前年同期と比べほぼ同数だが、有効求職者数は増加しており、新規求人数や有効求人数は減少している。製造関係を中心に雇用情勢改善の動きが弱まっており、最低賃金の大幅引上げが10月に控えていることもあり、先の見通しも明るくない。
		職業安定所（事業所担当）	・人手不足を背景に、企業の採用意欲がみられるものの、管内の状況に大きな変化はなく、景気上昇の要因は特にない。
		民間職業紹介機関（職員）	・採用に難航しており、雇用に結び付いていないため、予定のプロジェクト遂行が滞り、事業拡大に歯止めを掛けている。
		人材派遣会社（社員）	・求人数が減ってきたことに加え、求職者数も減少傾向でマッチングも厳しい状況が続く。
		求人情報誌製作会社（大卒就職支援担当）	・採用者数が採用目標人数に達しない企業が出てくる。
		その他雇用の動向を把握できる者	・賃金の上昇が物価の上昇に追い付いていない。景気上昇の好材料が見当たらない。
	x	-	-

#### 10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (四国)		*	*
		商店街（常務理事）	・拡大中の新型コロナウイルス感染症の第11波が景気にもたらす影響が気になるところではあるが、今年前半に行われた賃上げや定額減税の効果が少しずつ後押しとなり、消費が上向き可能性が出始めている。
		コンビニ（店長）	・定額減税や8月からの電気料金は政府の補助が出る予定であり、個人消費の改善に期待したい。
		家電量販店（副店長）	・前倒して季節商材を販売しているが、夏休み、お盆、行楽シーズン等の外的要因も多く、今後2～3か月の売上は期待できない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・気温が例年よりも高い推移となっているなかで、7月中旬からの入館者数、売上共に前年比で良くなっている。
		タクシー運転手	・2～3か月先は、気温が現状より涼しくなり、人の動きは良くなるとみられる。さらに、7月は日中の人の動きが悪く、週末のみ人が出ている状況であるが、8月以降は地域の祭り等もあるためやや良くなると予想される。
		タクシー運転手	・暑い夏が過ぎ秋がくると、今年ばうらう年で逆打ちの年のため、四国遍路の仕事も増えてくるとみられる。また、街にもそれなりに人が出るため、今よりは良くなるとみられる。
		通信会社（営業担当）	・徐々に来客数も増えてきており、収入につながる販売数も増加傾向にある。
		美容室（経営者）	・8月は県外から帰省する客が増えるため、売上アップが少し見込まれる。
		商店街（代表者）	・今年の夏も暑い日が続いており、外出してレジャーを楽しむ状況とはなりにくそうであり、客の行動が多少鈍化するとみられる。商品やサービスの提供に関しても価格が高騰しており、難しい状況が続いている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・個人の考えがますます多様化するなかで、対応できないほどのスピードで時代が変化している。スピードとコンパクトな発想がなければ地方都市はどんどん衰退し、過疎化に向かい始めるとみられる。
		百貨店（マネージャー）	・インバウンドについては円安の影響もあり好調に推移しているが、2～3か月後も現状のような傾向が続くとは限らないため、将来の先行きは不透明である。
		スーパー（店長）	・1品単価は前年を超え続けているが、買上点数は依然として伸び悩んでいる。
		スーパー（店長）	・景気が変動する要因が見当たらない。
		スーパー（企画担当）	・消費の低迷により、5～6月は苦戦したが、7月は気温の上昇とともに季節品が好調に推移しており、前年並みの回復傾向にある。
		スーパー（統括担当）	・電気代の抑制や減税など、国からの補助で家計を助けてもらっているが、これがいつまでも続くとは思えず、節約志向が続くとみられる。
		コンビニ（総務）	・物価上昇やエネルギー価格の上昇を受け、消費者の節約志向が一層強くなり、曜日や時間帯に応じて小売店を選定しているため、来店頻度が落ちていると考えられる。
		コンビニ（商品担当）	・円安や株価の状況では、景気が好転する材料が見えない。
		衣料品専門店（経営者）	・バーゲンセールもいよいよ終盤に入ってくるが、厳しい残暑が続く限りは、状況も厳しくなると覚悟している。
		衣料品専門店（経営者）	・夏休みに入り、帰省する人々が増えれば少し良くなるとみられるが、消費が低迷しており、長い目で見れば今のところ良くなるとみられない。
		衣料品専門店（経営者）	・物価高が続くとみられる。
		衣料品専門店（営業責任者）	・来月も引き続き、高い気温の推移が続くとみられ、年齢の高い客の動きが更に悪くなると予想しており、全体的にはマイナスに推移すると考えられる。
		家電量販店（店員）	・全体的な割高感が拭えない限り、状況は変わらない。
		乗用車販売業（営業担当）	・オーダーストップの車が解消される見込みがない。
		乗用車販売店（従業員）	・自動車メーカーの生産が向上かない限り、景気は良くなないとみられる。
		乗用車販売店（役員）	・円安傾向が続いており、物価上昇に対する懸念もみられる。
		観光型旅館（経営者）	・秋の観光シーズンにかけて、現状の好調は維持されるとみられるが、宿泊施設のキャパシティに限界があり、来客数増加に向けた施策が限られている。インバウンドの拡大による連泊の増加、消費単価の上昇が今後の課題である。
		都市型ホテル（経営者）	・円安と猛暑によるエネルギーコストの増加、さらには物価上昇と実質賃金の低下傾向といった先行き不安により、現状が大きく改善されることはないと考えられる。
		旅行代理店（部長）	・先行きが不透明な状況である。
		通信会社（支店長）	・前年度と比較し、来客数、販売数は横ばいであり、自社の需要も含め、景気が良くなる兆しがみえていない。
		美容室（経営者）	・2～3か月先の9月、10月は売上が悪い年が多いが、現状も良くないため変わらないとみられる。
		設計事務所（所長）	・当社も含め、周辺の中小企業は賃上げをしたと聞いているが、生活必需品や交通費等の値上げに追い付いておらず、実感として景気が良いとは感じにくい。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・気温が高すぎて花の生育が悪くなっているため、入荷量や質が良くない。また、今年はお盆に予約をする動きが遅いとみられる。
		百貨店（販売促進）	・賃金の上昇が物価に追い付いておらず、政府の対策も不十分だと考えている。さらに、お盆にかけて新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される。
		スーパー（人事）	・定額減税や電気代補助などが終了し、出費に対して敏感になるとみられる。
		スーパー（財務担当）	・晴れの日にはしっかり消費されるが、物価高の継続により日常的には節約志向が強くなり、買上点数が減少するとみられる。
		コンビニ（店長）	・景気が良くなる理由がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・7～8月にかけてはお中元の時期でもあり、最もよく売れる時期であるため、良い状態が続くとみられる。
		観光遊園地(主幹)	・7月に発生した当地域の土砂災害により、観光の主要地が営業を休止している。
		競艇場(マネージャー)	・買い控えの風潮であり、遊興に回せる資金もシビアになるとみられる。
	×	一般小売店〔文具店〕 (経営者)	・今年に入り、仕入商品の値上がりの通知が何度かあり、商品価格に転嫁したいが、できない状況である。また、秋に向けても商品の値上げの連絡があり困惑しており、今後が特に心配である。
	×	一般小売店〔酒〕(経営者)	・止まらない物価上昇により生活に余裕がなくなる一方であり、消費者の財布のひもは一層固くなるとみられる。
	×	一般レストラン(経営者)	・景気が良くなる理由が見つからない。
企業 動向 関連  (四国)		食料品製造業(商品統括)	・販売価格の計画的な値上げが消費者に許容されてきており、今後金利のメリットも現れて全体的な消費・景気のアップにつながっていくとみられる。
		繊維工業(経営者)	・人手不足、物価高騰などの問題があり、地方の景況感は決して良いとはみられないが、一方でインバウンド需要による景気の押し上げ感もある。国内景気が急激に良くなることは期待できないが、現状の情勢が続くとみられる。
		木材木製品製造業(営業部長)	・大手住宅メーカーの受注速報が回復しているため、下期の売上が回復すると見込んでいる。
		電気機械器具製造業(経営者)	・再生資源の事業をしているが、市や県、国も関心を寄せてくれるようになっており、少しずつ受注を伸ばしていけると感じており、景気は良くなっていくとみられる。
		農林水産業(職員)	・新型コロナウイルスが感染拡大しており、当職場でも職員の3分の1程度が感染した状況である。地方は、慢性的な人手不足の職場が多く、非感染者への業務のしわ寄せが増加している。猛暑もあり、経済活動の低下が心配される。
		食料品製造業(経営者)	・運賃、倉庫料、宅配便などの物流費の値上がり、エネルギー費の高騰、円安による海外輸入の原材料価格が高騰しているが、製品価格に転嫁できず利益が圧迫される状況が続いている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(経理)	・原材料価格の高騰で仕入先の値上げが相次いでおり、売上の採算が合わず利益が出にくい。来年以降、自社に関しても値上げを行い、利益が取れる商品を中心に販売していくが、値上げされるまでの間は利益がほとんどでないと予想される。
		電気機械器具製造業(経理)	・物価高・円安基調・金利上昇等の経済環境の傾向は変わらないとみられる。
		建設業(経営者)	・変わらず公共工事頼りであり、民間工事の見通しが悪い。
		輸送業(経営者)	・景気に変化がない。
		通信業(企画・売上管理)	・パリオリンピックのあとのポジティブなニュースが現状特にないとみられる。
		通信会社(総務担当)	・イベント等の運営において新型コロナウイルス感染症の影響はかなり小さくなっており、ボランティア活動等の社外イベントへの参加者数は増加傾向が続くと想定していたが、直近の動きを見る限り、今後しばらくは大きく変動しないようにみられる。
		広告代理店(経営者)	・人手不足に伴う採用関連やSNS等のデジタルマーケティング関連の広告は増えているが、エネルギー等の物価高騰の影響により消費マインドが低下しており、小売・流通等の広告費の削減傾向は続いている。したがって、全体としては余り変わらないと予想される。
		鉄鋼業(総務部長)	・現状の受注状況が続けば、生産・販売量は大きく落ち込む可能性がある。
		建設業(経営者)	・国際情勢、物価高、政治が不安定である。
		金融業(副支店長)	・為替相場や金利動向によっては仕入価格、エネルギー価格、支払利息の負担に影響を及ぼし、景気が冷え込む可能性がある。
	不動産業(経営者)	・不動産仲介業をしているが、地価や建築費、人件費等が上がっており、客や売主も模様眺めの状況が続くとみられる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		税理士事務所	・海外の事件により、株価に大きな変動があり、中小企業には良い影響が発生していないとみられる。
	x	-	-
雇用 関連		-	-
(四国)		求人情報誌製作会社 (経営者)	・異動時期に入り、求人数の増加が予想される。
		人材派遣会社(総務部長)	・求職者数が劇的に増えるとは考えられない。
		求人情報誌(営業)	・どの業種においても人材採用のハードルの高さは変わらず、求人数が増えることも予想されるが、採用難が続くため景気は横ばいと判断される。
		職業安定所(求人開発)	・管内の事業所からは、価格転嫁で心配していた需要の低下もみられず、売上も好調という声を聞く一方、為替の値動きや賃上げ、電気代高騰など、先行きの見通しについて不安要素が拭えないという声もある。製造業では、中国景気の冷え込みや為替の影響を受けているかどうか景況判断の分かれ目になる等、2極化の様相を呈している。
		民間職業紹介機関(所長)	・景気を左右しそうな要素が見当たらない。
		学校[大学](就職担当)	・構造的な人手不足感が変わらないなか、地方の中小企業は一段と人材不足が強まっていくとみられる。
		新聞社[求人広告](担当者)	・民間企業の広報費の削減が止まらなるとみられる。
	x	-	-

#### 11. 九州(地域別調査機関:公益財団法人九州経済調査協会)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連		観光型ホテル(専務)	・新型コロナウイルス感染症が落ち着き、旅行シーズンになるため客は増加していく。
(九州)		タクシー(統括者)	・秋の行楽シーズンでの需要回復と、乗務員の採用が引き続き増加すると想定されるため、景気は良くなる。
		商店街(代表者)	・2~3か月先は気温が落ち着くため、人の動きが徐々に多くなる。また、生活に余裕がある人とそうでない人の2極化が進んでおり、生活に余裕のある人は買物にちゅうちょがなく、年金暮らしでほかに収入がない人は生活に敏感になっている。先行きは若干良くなると判断している。
		一般小売店[生花](経営者)	・2~3か月先になればこの猛暑は落ち着くため、生花の花束やアレンジ等の需要増加に期待している。
		コンビニ(経営者)	・これからも猛暑が続く見込みで、売上は増加していく。
		衣料品専門店(店員)	・気候が良くなれば今より旅行等の外出も増加していくため、それに伴い需要が増えていく。
		乗用車販売店(従業員)	・9月の半期決算もあり、その余波で来客数が今より増加することを期待している。
		乗用車販売店(役員)	・現在の生産停止や認証不正問題が解決した上で、供給が正常化すれば景気回復に期待を持てるため、景気は良くなる。
		乗用車販売店(役員)	・認証不正問題による生産停止が、登録や納車の販売に影響が出る。一方でメーカーの供給が増えれば登録や納車の販売が増加する。
		乗用車販売店(総務担当)	・メーカーの新車生産が順調に進み、3か月先の配車予定台数が現状より増加し、会社の売上や利益共に増加すると予想している。
		その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター](統括者)	・節約志向は変わらないと推察するが、国内客の動きがボーナス以降も継続することに期待している。当市の空港発着便は増加傾向となっているため、インバウンドも引き続き増加し景気はやや良くなる。
		観光型ホテル(総務)	・新型コロナウイルス感染症の第11波やパリオリンピック、天候不良など景気の不安定要素が予測されるが、それ以降は改善する見込みである。
		都市型ホテル(スタッフ)	・10月、11月と旅行シーズンに入り、現時点では今までに比べて販売量が多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（統括者）	・当県のマーケットが成長し続けており、法人・個人共に、 良化傾向が続くと予測している。しかし、円安傾向が続けば 海外旅行市場の伸び悩みも考えられる。
		タクシー運転手	・猛暑が続いており、タクシー事業も増加しており、好調が 維持できると期待している。
		ゴルフ場（従業員）	・今後競技会の開催があるため、練習ラウンドも加わり入場 者が増えることが予想される。
		ゴルフ場（営業）	・秋口に向けてコンペの予約が増えているため、景気は良く なる。
		学習塾（従業員）	・家族旅行が多くなっている状況から、景気は良くなってい る。
		商店街（代表者）	・まだまだ暑い日が続くと予想されるが、青空市場であるた め客足が少なく、売上が望めない。
		商店街（代表者）	・しばらくは、猛暑により外出を控える人が多くなるため、 景気は変わらない。
		商店街（代表者）	・猛暑や新型コロナウイルスの新規感染者数が増加してい り、3か月後に回復するとは考えられないため、現況が続く と予想される。
		商店街（代表者）	・高齢者が多い地方の商店街では、食料品や電化製品、一般 小売の値上げ幅に客は驚いている。
		商店街（代表者）	・物価高の影響で買物を控えており、給付金等全く消費に効 果があるとは考えられない。
		商店街（代表者）	・夏は販売面で弱くなり、また、インパウンドの需要も伸び 悩んでいるため、先行きは不透明である。
		一般小売店〔鮮魚〕 （店員）	・海水温が高いため漁獲量が少なく、商売として成り立って いない。このままでは今までの魚がいなくなり、暖かい地方 でみられるような魚種が増加することを危惧しており、今後 の景気は落ち込んだ状況が続く。
		一般小売店〔精肉〕 （店員）	・需要に対して供給が追いついていないため、景気は変わら ない。
		百貨店（企画担当）	・暑さが続き、秋冬商材の動きが鈍いと予想している。
		百貨店（企画担当）	・商品価格全般が値上げするなかで単価は上昇しているが、 購入に至る来客数の増加がみられず、消費が増える見込みが ない。
		百貨店（経理担当）	・依然として消費マインドが弱く、特に紳士・子供服の売上 が芳しくない状態で、衣料品全般は引き続き苦戦が続くと予 想される。しかし、催事においては今後も好調に推移してい く。
		百貨店（経営企画担 当）	・物価高や費用の単価上昇は今後も継続することが想定され るため、しばらくは景気が上向き要素が少なく、現状が続く と考えられる。
		スーパー（店長）	・6月実施の定額減税の効果も予測どおり恩恵が見受けられ ない。今後も物価高騰が続き、消費者行動は変わらないと予 測でき景気は変動しない。
		スーパー（店員）	・景気が上向きになれば新しい商品を試すことも考えられる が、厳しい生活状態のため新製品が余り売れておらず、客は 買い慣れた商品を購入している。景気が良くなることはまだ 考えられず、低迷状態が続いていく。
		スーパー（総務担当）	・消費マインドとしては、パリオリンピック景気の要素も十 分考えられるが、生鮮品、特に肉の購買点数が増加しない状 況である。消費者の財布のひもの固さを考えると、マインド だけでは消費拡大には至らない。
		スーパー（経理担当）	・暑さとパリオリンピックの影響で、客は巣籠り消費傾向で ある。スーパーマーケットとしては若干売上が伸びると予想 しているが、値上げからの消費減退は続く見込みである。
		コンビニ（経営者）	・営業成果の指標となる数値をみると、前年度と同じ状況で 推移している。
		コンビニ（経営者）	・今の時点では、先行きが変わる好材料を感じない。
		コンビニ（エリア担 当）	・パリオリンピック需要と電力補助金の影響に期待してい る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当・店長）	・以前は昼のピーク時に事業所の買物が増えていたが、最近では猛暑の影響もあり、この時間帯の来客数が減少している。その分、朝からの来客数が若干伸びてはいるが、全体的には来客数は減少しており、単価が高い夜の来客数も伸び悩んでいるため、危惧している。
		衣料品専門店（店長）	・猛暑が続き、人の動きも鈍い状況であるため、2～3か月後も景気は今の状況が続くと予想している。
		衣料品専門店（取締役）	・2～3か月先は10月となり、暑さなど天候は落ち着くが、年金や給与等の報道に振りまわされないようにしなければいけない。財布のひもが固い人が多いため、楽観的になれない状況である。
		家電量販店（店長）	・良くなる要素が何もないため、現状と変わらない。
		家電量販店（従業員）	・暑くなり冷房器具の需要が増えている。
		乗用車販売店（代表）	・景気が変わるような要因が見当たらない。
		住関連専門店（経営者）	・月の後半から為替が少し円高に動いているが、まだ円安が継続している。来月から仕入先の値上げもあり、米国大統領選挙次第では、回復している国内景気も厳しくなると予想される。置き家具業界は、まだトンネルから抜け出すことができない状況である。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・例年夏はお中元シーズンであるが、7月、8月のお盆の進物用は前年と比較すると来客数も多くなり売上はやや良くなっている。2～3か月先はギフトの需要が落ち着き、若干減少すると予想している。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・夏～秋にかけて、物価高や人件費高騰による景気の影響について判断が難しい。一般消費者は最低賃金が上がればその分生活が豊かになるが、一部の事業者ではコスト増加により苦しくなることも十分にあり得るため、消費にマイナスの影響もあると考えられる。当館においてはシネマ次第ではあるが、最低賃金は僅かながらプラスになると考えている。しかし、作業員などが多いエリアにおいて、その影響の判断がしづらいため先行きは不透明である。
		一般レストラン（スタッフ）	・物価高騰の影響で仕入れが高くなっており、利益が下がっていく。加えて、酷暑により来客数の減少が心配される。
		観光型ホテル（管理）	・若干の売上増加を見込んでいるが、仕入単価は上昇しており先行きは不透明である。
		観光型ホテル（営業）	・客足が大きく減少してはいないが、諸事情による販売価格の上昇により、客が利用しにくい状態となっており、景気が良くなる傾向は見当たらない。
		旅行代理店（統括者）	・客は物価上昇によりレジャー関連への支出を控えているため、来客数が前年と比べ減少している。
		タクシー運転手	・夜の客はある程度いるが、まだ暑い日が続くため、日中の客は増加しないのではないかと心配している。
		通信会社（社員）	・特に業界自体のトピックスがないため、景気は変わらない。
		通信会社（企画担当）	・光回線の販売件数が変動する要因が見当たらず、低迷が続く。
		通信会社（役員）	・生活物資の値上がりや賃金の据置き等により、大きな変化は期待できない。
		通信会社（営業担当）	・今後も周囲で景気に影響を与える出来事がないため、景気は変わらない。
		テーマパーク職員	・来客数が大きく落ち込むことは考えにくいですが、猛暑や新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される。
		ゴルフ場（従業員）	・来場者数は、やや悪い状況で推移する。
		競馬場（職員）	・今後の景気動向を左右する好材料が見当たらないため、しばらく現況と変わりはない。
		理容室（経営者）	・来店客は高齢者が多く、雨や暑さで天候に強く左右される。また、当県では人口流出が多いため、新規の客が少なく非常に厳しい状況である。
		美容室（経営者）	・2～3か月先には秋口になり、若干動きが出てくるが、現状のように客の動きが非常に悪いと購買意欲が薄れ、新製品が出たり起爆剤がないと販売量が伸びていかない。秋口の傾向として衣服又はファッションに変化があると美容業界も非常に良くなるが、今の状態では余り期待ができない。
		美容室（店長）	・円高に振れているが、現在の生活は変化しない。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・新型コロナウイルス感染症第11波は、ある程度収束していると想定されるが、報酬改定による減収の影響は継続している。加えて、10月からの最低賃金大幅アップによる人件費の増加もあり、値上げができない介護業界は厳しい経営環境が続く。
		設計事務所（所長）	・今月の結果は2～3か月先に出るため、やや悪い状態がしばらく続く。
		設計事務所（所長）	・材料や製品単価の価格上昇が続くと予想され、生活必需品の値上げが収まる見通しが立たず、仕事の対価が上がる気配もない。
		住宅販売会社（従業員）	・全ての業種で景気が良いということは難しいが、実態として業態が伸びる業種は全くないと考えている。公共事業は減少しており、事業があったとしても、単価が安く働き手がいけないのが現状であるため、産業系構造を根本的に考えていかなければ経済が回っていかない。
		商店街（代表者）	・商店街全体では、猛暑の影響で出足が悪く、地域住民は近隣の大型ショッピングセンターで買物を済ませている。また、中心部の新築マンションは完売の垂れ幕が下がり、貧富の差が激しくなっている。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・まだまだ暑い日が続き、売上に期待できない。
		百貨店（企画担当）	・米国大統領選挙の影響が金融政策に反応し、円高基調に振れるようであれば、インバウンドにマイナスの影響が出る可能性もあり懸念している。同時に国内消費は、冷え込みに足を踏み込んでいる状況である。
		百貨店（営業担当）	・夏休みやお盆の帰省客や家族連れが増加に加え、国内外のクルーズ船の寄港増加で周辺商店街の人の動きが増加しており、大型催事開催による店頭への来客数の増加が見込める。加えて、自家需要は堅調で紳士雑貨やインテリア、し好性の高いブランド品・舶来雑貨は価格の上昇はあるが購入意欲は高く、クレジット催事利用で来客数や商品単価が依然好調である。また、自家需要やギフトでは、国内外の観光需要の特産品増加で購入客数や客単価の伸びが見込める。
		百貨店（リーダー）	・お中元や初盆の返礼品準備が終わると、次は不足分の買い足しや自家需要にとどまるため、売上は若干悪くなる。
		百貨店（業務担当）	・今年の夏はこれまでで1番暑いという報道に加え、新型コロナウイルスの感染が周りでも急激に増加している。パリオリンピックの観戦を始め外出を控える要素が多いため、購買の機会が大幅に減ると見込んでいる。
		百貨店（営業企画担当）	・残暑の影響で秋冬商材に対して鈍化傾向となり、加えて、物価高に伴う生活防衛意識は継続していく。
		スーパー（企画担当）	・ふだんの買物については食品が値上げしたにもかかわらず堅調に推移しているが、衣料品や住宅関連商材は、節約志向が継続しているため苦戦が予測される。
		コンビニ（経営者）	・客は、より安価な商品を求めているため、他のディスカウントストア等へ買い回りのためではないかと心配している。今後の動向では、特に来客数の変化に注視する必要がある。
		家電量販店（店長）	・記録的な猛暑の影響で、業界全体が好調である。しかし、特別な現象であるため好調は続かないと予想している。
		家電量販店（店員）	・消費者が消費を拡大させる安心材料がないため、景気が良くなるとは考えにくい。
		住関連専門店（従業員）	・例年10月から秋冬商材の引き合いが高まるが、この2か月は閑散期となり、需要が落ち着くとみられる。
		高級レストラン（経営者）	・2～3か月先の予約状況は、動きが鈍い。気温が下がり秋の食材やフグ料理が始まると徐々に客が多くなる。お盆を過ぎても暑い日が続くため、それまでの期間の景気は更に悪くなることも考えられる。
		通信会社（企画担当）	・予算調整のため受注までに期間が少し掛かっており、見込みはやや減少すると考えられる。
		観光名所（従業員）	・台風発生等があれば来客数が大きく変動するため、景気はやや悪くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・3か月後には最低賃金が上がるが、同時期の価格転嫁は見込めないため、利益は減少すると予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（代表）	・今後の景気は、値段高騰などの影響でやや悪くなると予想している。
		住宅販売会社（従業員）	・この猛暑で、しばらくは客の動きに減少傾向が続き、販売面にも影響が出てくると予想している。
	×	商店街（代表者）	・天候激変が予想され、9月までは厳しい商況が続くと予想している。
	×	一般小売店〔青果〕（店長）	・10月以降涼しくなり、九州産や当県産の野菜や果物が出回るようになると、単価の上昇が収まり、人の出入りも多くなると予想している。
	×	スーパー（店長）	・物価の上昇に見合った所得上昇は実現せず、多くの人にとっては可処分所得が大きく減少した状態になっている。そのため、消費の意欲は一層低くなり、景況感は更に悪化すると考えられる。
	×	スナック（経営者）	・週末に利用が集中し、平日の落ち込みが激しくなっている。個人利用や団体利用も減少し、夜間の街の人通りも少なくなっており、物価高対策として外食費を節約していると考えられる。また、定額減税の効果もみられない。
企業 動向 関連  (九州)		電気機械器具製造業（経営者）	・9月以降は受注増加が見込まれるため、景気は良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・半導体製造装置関連での引き合いが、若干増加している。
		電気機械器具製造業（取締役）	・他社で対応できる人材が調達できず、当社への発注となったケースが発生している。今後の採用において報酬や福利厚生などの充実が重要視される。
		建設業（従業員）	・公共工事がなかなか受注できないが、まとまった工事を受注できたため、やや景気は良くなってくる。一方、円高や資材高騰などの影響で景気が完全に回復するのは難しい。
		金融業（営業）	・夏休みを迎え、消費活動が活発化する。現状では、賃上げやボーナスなど悪くはなく個人消費に引っ張られ、今後景気は上向くと予想している。
		経営コンサルタント（社員）	・インバウンドが増加し、商品を大量に購入しているため景気はやや良くなる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・7月後半から人手不足により厳しい状況になっていたが、当地では新型コロナウイルスの感染者が多くなり、加えて、梅雨や猛暑の影響で外出を控えている人が多くなっている。そのため、人の動きが滞っているが、梅雨が終わると状況に変化があると考えられる。
		農林水産業（経営者）	・8～10月は原料入荷が安定しているため、工場生産に不安要素はない。しかし、円安や物価高から影響される経費の圧迫は、徐々に負担になってくることが考えられる。特に最近の値上げや2024年問題の人手不足の問題は大きくクローズアップされ、徐々に経営を圧迫されるのではないかと危惧している。
		家具製造業（従業員）	・極端に売上が落ちることはないが、状況が大きく好転するほどの情報や材料もないため、年末までは大きな変動はないまま推移する。
		化学工業（総務担当）	・損益は余り良いとはいえず、当面この状態が続くと予想しており、景気は変わらない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・2～3か月先は若干良くなるのではないかと期待はしているが、従来の製品の追加注文が決まらない状態で、加えて、新しい商品も浸透せず、今の状態が続くと予想している。新商品に期待はしているが、順調に売上が伸びるかどうかは難しい。
		金属製品製造業（事業統括）	・物価は上昇しており、景気が上向いているといえる状況ではない。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・主力車種の生産が計画より少なく推移しているが、他車種の生産増加により全体量としては横ばいである。
		建設業（社員）	・発注や受注が計画どおりに進むように努め、現状を維持する方向で対応していく。
	輸送業（従業員）	・景気が回復傾向に感じるが、この状況は夏で終わる可能性も考えられるため、完全に景気が良くなるとは考えられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（従業員）	・米国の大統領選挙次第では、中国への規制の影響で我が国の輸出入に対して好材料となる予測もあるが、現時点では物価高もあり好転する兆しが無い。
		通信業（職員）	・電気工事の受注状況は良いが、情報通信工事に関しては今年度も部門としての年度目標額に対して厳しい状況が続いている。特に入札やプロポーザル案件の競争は厳しい状況である。
		通信業（経理担当）	・業務用のパソコンやクラウドサービスの利用料など、事業運営に必要な物やサービスの値段がじわじわと上昇している。業績に与える影響は今のところ軽微ではあるものの、動向を注視していく必要がある。
		通信業（統括者）	・企業のデジタル化やセキュリティ不安からの対策ニーズは高まっているが、投資を伴う対策まで至っているとは言いがたい、横ばいである。
		金融業（従業員）	・百貨店やスーパーマーケットの売上が比較的堅調で、公共投資も増加している。一方、住宅や家電の売上は弱含んでおり、物価上昇や人手不足などもあり、先行きをやや慎重にみる企業もある。
		金融業（調査担当）	・当面は物価高が消費回復の足かせとなる状況が続く。件数は少ないものの、地元企業の大型倒産も発生しており、企業の資金繰りにも注視が必要である。
		金融業（調査担当）	・物価上昇の動きが2～3か月先も変わらないため、景気は現状維持と予想している。
		金融業（営業担当）	・円高傾向になり輸入品の価格低下も期待できるが、金利上昇の可能性もあり、取引先の金利負担が重くなると景気好転は期待できない。
		不動産業（経営者）	・金融機関や同業他社においても、今後に向けて大きな変動はないと考えられる。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・好材料が見当たらないため、景気は変わらない。
		広告代理店（従業員）	・物価上昇の影響で大企業では賃上げが進んでいるが、当社では賃上げが難しく、周りの業者も改善する状況ではない。世界情勢ではウクライナ情勢やガザ侵襲、中国の景気減速等先行きが見通せない。景気全体としては3か月後も余り変わらない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・Webのアクセス数や問合せ件数に大きな変化がない。
		経営コンサルタント（社員）	・こちらから積極的な活動を起こさない限り、新しい動きは生まれませんが、動きが少なすぎるため、景気は変わらない。
		食料品製造業（経営者）	・9月より商品の価格転嫁を実施し値上げをするため、一時的に需要は減少する。
		繊維工業（営業担当）	・在庫調整で1～2年生産量が減少する予想であるため、ここ1年は非常に厳しくなる。最低賃金が上昇すると、一層大変な状況になるため懸念している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・売上見込みによると、景気はやや悪くなる。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・相場が徐々に下落するのは良いが、このところ大幅に下落しているため、顧客の生産への影響が長引くと予想している。
	輸送業（総務担当）	・物価高の影響や人件費の増加が企業活動に大きく響いてくる。大幅な最低賃金上昇が招くパート社員の就労制限が中小企業にとって、更なる痛手となる。	
	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・福祉の分野では、今年度各市町村で一斉に発注される委託業務は、子供計画策定業務だけとなっている。年度当初から発注件数は月ごとに減少しており、今後も減少が予想される。また、業者選定も入札になるため価格競争となり、景気はやや悪くなる。	
	x	-	-
雇用 関連  (九州)		人材派遣会社（社員）	・最低賃金が改定される時期である。それに伴い、今年4月に改定ができなかった企業には10月からの派遣料金改定を相談しており、ほとんどの企業では了済である。
		人材派遣会社（社員）	・新施設のオープンなど取引拡大が見込まれるため、景気はやや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・景気はやや良くなると予想している。女性社員の育休取得時の派遣依頼に加え、男性社員の育休取得での派遣補充の問合せなども出てきており、働き方が変化している。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・日本経済は緩やかな回復傾向であるには変わらないが、円安が継続しており、物価高騰がこのまま継続することを危惧している。輸出企業など好調な収益を上げている企業では、物価高騰を上回る賃上げや、将来を見据えた設備投資の拡大などで前向きな支出につながることに期待されている。しかし、一部の業界によっては働き手の人材不足もあり、企業の採用意欲は、今後も続く予想している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・通年だと9月以降は求人が活発になるが、前年の秋からその傾向が薄れている。人手不足であるが、これまでのようにメディアを活用して求人を出すことが減少している。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・最低賃金が過去最高の増額幅となり、景気変動の要因の1つとして期待しているが、短期的には上向くとは考えられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・夏休み等を過ぎると、人流のピークは超えるが、インバウンドは好調であるため景気はそのままの状況で推移する。秋の値上げなどもあるが、買い控えまではいかないと予想している。
		職業安定所（職員）	・一部の事業所では、事業拡大や人員は充足した状況であるが、全体的には大きな変化はなく、景気上昇の特段の要因はみられない。そのため、今後の景気は横ばいが予想される。
		職業安定所（職員）	・最低賃金改定の時期となるが、ガソリンや原材料費増加も続いており、企業の負担がじわじわと増加しているため、好転する要因がみられない。
		民間職業紹介機関（職員）	・景気動向より、少子高齢化や働き方改革の影響もあり、慢性的な人材不足は続くと考えられるため、かなり大きな景気後退がない限りこの状態が続く。
		人材派遣会社（社員）	・夏の需要が一段落することもあり、求人数が前年を下がり続けており、見通しは厳しい。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業や団体を含め飲食の会合の機会は多いが、物価上昇に伴い、飲食費や会費の値上げも増えている。一部団体では会費を据え置いていたが、値上げに踏み切らざるを得ない状態である。今後もこうした状況が続くと考えられ、景気が良くなるとはいえない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・円安や物価高がこのまま続けば、徐々に個人消費が弱っていくことが推測されるため、景気はやや悪くなる。
	x	-	-

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (沖縄)		一般小売店〔酒〕（店長）	・新型コロナウイルスの感染者数は増加しているが、重症化は少ない。
		百貨店（経営担当）	・沖縄県内の旧盆需要や夏休みによる家族連れの来店増加が見込まれる。
		スーパー（企画担当）	・今月は、ギフト需要のスライドなどの要因で苦戦したが、2～3か月先の景気はやや良くなるとみている。
		コンビニ（経営者）	・飲料などが売れるため、来客数が多くなる。飲料とともにデザート類を購入する客も多くなる。
		コンビニ（店長）	・沖縄への観光客の流入が想定を上振れしているとみている。
		家電量販店（営業担当）	・来客数の減少に底打ちがみられる。
		一般レストラン（代表者）	・観光シーズンに期待している。
		観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの7月の販売室数が前年比11%増加なのに対し、7月末時点での10月の予約室数は前年比14%増加と、プラス幅が大きくなっている。
		旅行代理店（マネージャー）	・9～10月の問合せは早い時期からあり、自然災害等で中止にならない限りかなり上向きである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・9月には新商品の発売が予想され、現在の好調な状態を保ちつつ9～10月に更にアップするのではないかと期待している。
		商店街（代表者）	・沖縄では沈静化していた新型コロナウイルス感染症が増加傾向にある。観光関連は良い傾向にあるが、一般的な物販等は苦戦している。現状が続くとみている。
		コンビニ（経営企画担当）	・国内観光客は前年並み、国外観光客は前年を上回ることが見込まれるため、引き続き、好調が続くとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は、セール時期ということで、売上アップと在庫処分を期待していたが、売上と販売量が上がっていない。まだまだ景気が良くなるような感じはないとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・利上げが発表されたが、すぐには変わることはないとみている。
		乗用車販売店（経理担当）	・受注が減少傾向であるため、イベントなどに期待している。
		その他専門店〔陶器〕（製造）	・秋にもイベントがあるため、夏とは違う忙しさがある。
		観光型ホテル（代表取締役）	・宿泊予約は、前年とほぼ変わらず微増している。宴会部門も同様である。人件費など様々な経費が増加しており、それに対応できるような売上が見通せない。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は前年を少し割れているが、最近是利用間際の受注が増加している状態が続いていることから、この傾向は当面維持するとみられる。
		住宅販売会社（役員）	・大型出店計画や大型レジャー施設開発のある一部地域で不動産価格が上昇しているが、他地域では変化がないとみられる。
		住宅販売会社（取締役）	・消費税率を時限的に引き下げる。または、大胆な減税を行うなど、消費マインドを刺激するようなことがない限り変わらないとみている。
		* * *	
	x	その他飲食店〔バー〕（経営者）	・飲食店に関わる全ての物価が上昇し、客足が落ち込んでいるため、良くなる気配はないとみている。
企業 動向 関連  (沖縄)		-	-
		食料品製造業（役員）	・緩やかではあるが今後も観光関連需要は増加が見込まれ、県外での沖縄フェアも増加が見込まれている。
		窯業土石業（取締役）	・受注は緩やかな増加傾向であるが、原材料及び物流費の値上げによる製造原価上昇で収益面が懸念される。
		輸送業（経営企画室）	・観光の繁忙期に突入するが特段変化はないとみている。
		広告代理店（営業担当）	・人手不足が続くなか、県内企業の販売促進活動は低調のまま推移するとみている。
		会計事務所（所長）	・物価高と金利アップが同時並行に生じることから、各業種における業績好転には時間を要するとみている。
	x	-	-
雇用 関連  (沖縄)		-	-
		求人情報誌製作会社（営業）	・例年どおりの求人動向から、8～10月は秋口の転職時期として企業の社員採用活動や求職者数の転職活動が増えるとみている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・2026年卒向けのインターンシップが本格的に動き出すため、学生の動きも含めて活発になるとみている。
		人材派遣会社（総務担当）	・求人広告を出しても反応が悪く、人材不足が続いている。
		職業安定所（職員）	・求人者から景気上昇の話が聞こえてこない。人手不足の声も依然多く、現状が続くと予想し、将来の景気は変わらないとみられる。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・沖縄ではこれから繁忙期を迎えるが、物価高、電気使用量の増加などの懸念もあり、消費を抑えるとみている。
		- -	
	x	-	-